

關西建築協會雜誌

第一輯 第四号

大正七年三月十五日

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ノ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムトスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ノ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一名譽贊助員　地位又ハ學識アル名望家

二終身贊助員　金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三特別贊助員　建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四普通贊助員　建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　推薦ス終身贊助タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任セザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一會頭　一名

二副會頭　二名

三理事長　一名

四理事　六名

會頭ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

副會頭ハ會務ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭ヲ補佐シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一主記　一名

二主計　一名

三編輯　若干名

四編輯補　若干名

五書記　若干名

主記ハ庶務ヲ主計ハ會計ヲ編輯ハ編纂ヲ處理ス

編纂補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事ノ指名ニ從ヒ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命ス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要アル時ハ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託スルコトヲ得

委員ハ爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ニ於テ本會ノ名ヲ以テ發表スル但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スヘシ但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ノ春秋二季大會ヲ擧行ス

事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス

本會ノ行フ事業左ノ如シ

一建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二調査研究ノ報告ノ發表

三建築ニ關スル重要事項ノ議決四決議事項ノ實行促進五會誌ノ發刊

建築ニ關スル圖書ノ刊行七建築ニ關スル講演會ノ開催八建築ニ關スル展覽會ノ公開九建築ニ關スル視察十建築ニ關スル研究者ノ公認十一理想的建築ノ計畫十二其他建築ニ關スル有益ナル事項

第十九條　會員ハ會費ヲ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六圓ヲ普通贊助員ハ普通贊助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

第二十條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助金其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十一條　本會ノ會計ハ每年一月ニ始リ十二月ニ終ル

本會ノ財產借備借務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產借備借務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十二條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ヲ定ム

本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

須賀商會

大阪市東區今橋四丁目
長電話本局三一八五三
振替大阪一三九六七

營業課目

- 水道
- 衛生
- 暖房
- 諸機械
- 溫水工事
- 設計
- 請負
- 監督鑑定

同附屬器具製造及ビ直輸入販賣並ニ喞筒製作

三井物産鉛管及アルミニユム管一手販賣
ユニバーサルウイングス喞筒一手販賣

支店

東京支店
東京市日本橋區本銀町二
電話長本局三七〇四

神戸支店
神戸市長狹通二丁目
電話長三宮一一〇二

名古屋支店
名古屋市西柳町
電話長三三八四

京都支店
京都市烏丸二條
電話上一九六九

博多支店
福岡市博多上呉服町
電話長一二七五

關西建築協會雜誌 第壹輯 第四號

目次

口繪

米國議事堂附屬圖書館內部（三色版）
北亞米利加合衆國國會議事堂
テームス河畔の英國國會議事堂
英國國會議事堂內セント、ステフェンス、ホール及圖書閱覽室
獨逸帝國國會議事堂
埃國國會議事堂
ダニューブ河畔の洪牙利國國會議事堂
都市建築の今昔（七）
都市建築の今昔（八）

△都市改良機運熟成……一
△我邦の住宅改良第一策……會員・片岡安・二
△議院建築計畫回想錄……一二
△會員の聲……會員・夏雲生・四〇
△衛生時論——室內換氣の理論と實驗……四七
△議院建築問題……會員・片岡安・五七
△都市と建築……會員・都市研究生・七三

□大阪北區大火と倫敦大火……七三
□大阪市街改良法……八二
□英國のポート、サンライト田園都市……八五
△大阪市の細民住宅に就て……會員　K　U　生……八九
△戰爭と建築……會員　大　蘆　生……九四
△歐洲西部戰線に於ける歷史的建築の破壞……會員　谷本多喜治……一〇〇
△建築の强さ……一〇四
△公共的築造物の管理又改善……會員　葛野壯一郎……一〇七
△大阪を立退いて……會員　ま　が　ね……一一四
△曉の鐘……會員　野　人　生……一一七
△都市建築法令調査會設立に關する建議案……一二四
△安田倉庫の經驗せる火災に就て……會員　波江悌夫……一二七
△會報……一四〇

附錄

都市計畫……前紐育市技師亞米利加土木學會々員　チルソン、リユイス述……（一二頁）
△編輯たより……（二頁）

専賣特許
◎福永式スチールラス
専賣特許
◎田中式硝子屋根裝置

タービヤ コンクリート
セレシット（防水劑）
タンタルス（同）
星印ルーフヒング
星印フエルト

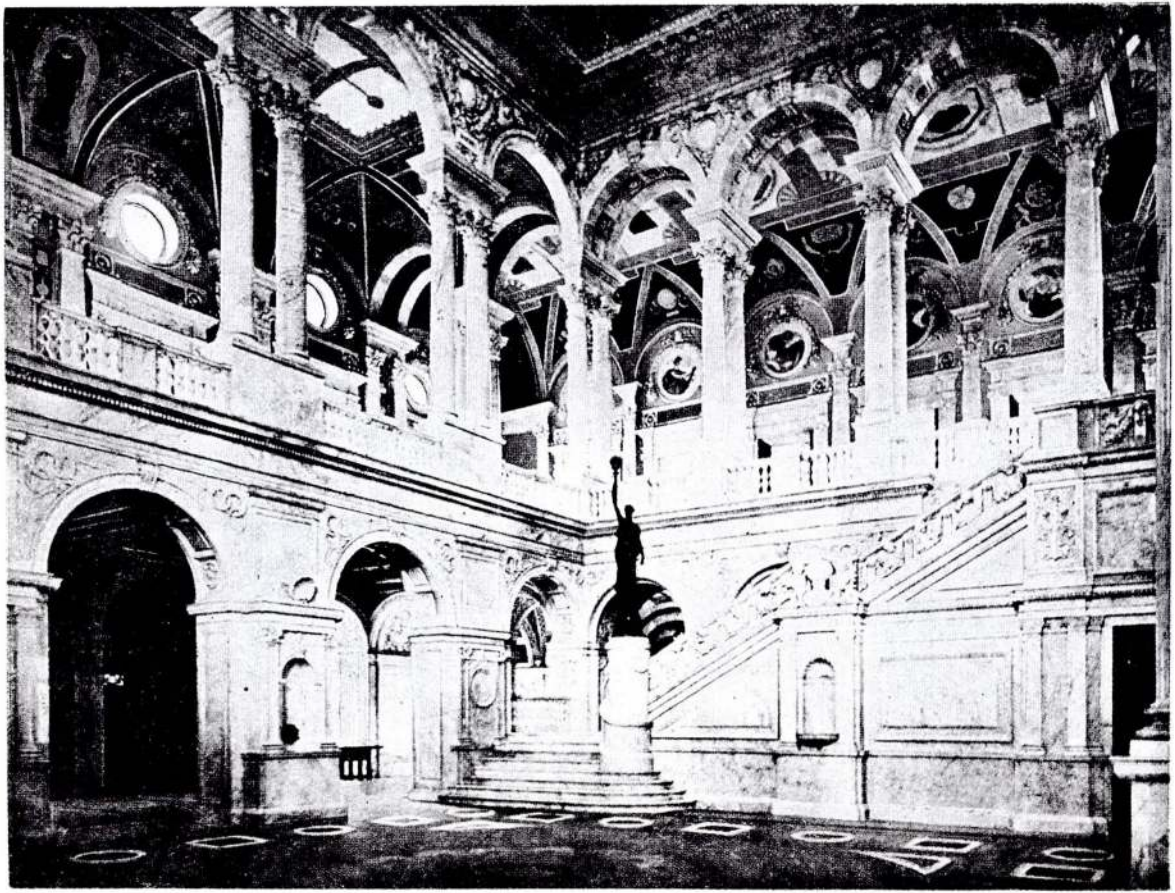
◎カレンダーシーチング
◎同製管便箱樋
◎銅鐵工事請負

代理店

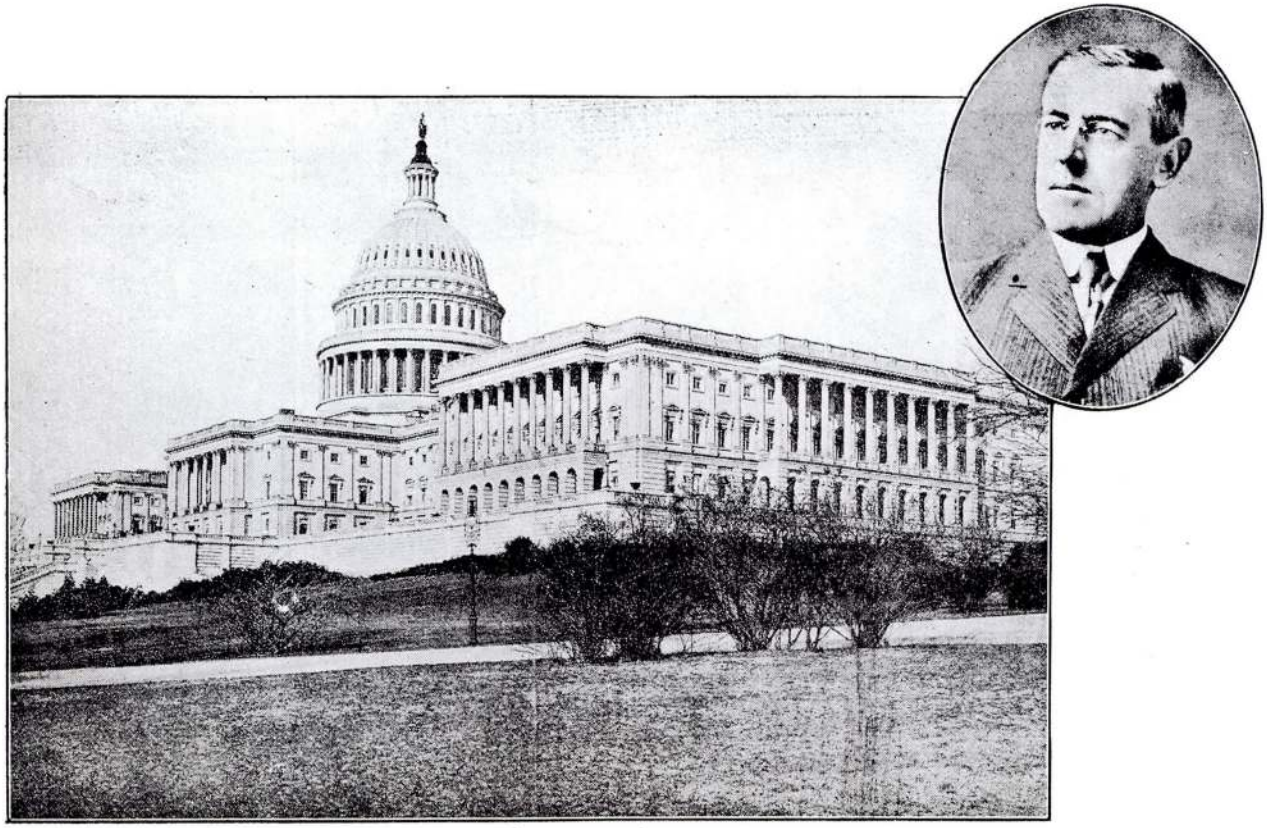
東京神田區鎌倉河岸
東京建築材料合資會社
電話神田一七六五番

門司市東本町五丁目
山房商店
電話七四四番

大阪市西區西道頓堀二丁目角
内外土木建築材料合資會社
電話西三六一〇番
振替口座大阪九九一三番



北米合衆國議事堂附屬圖書館內部大廣間

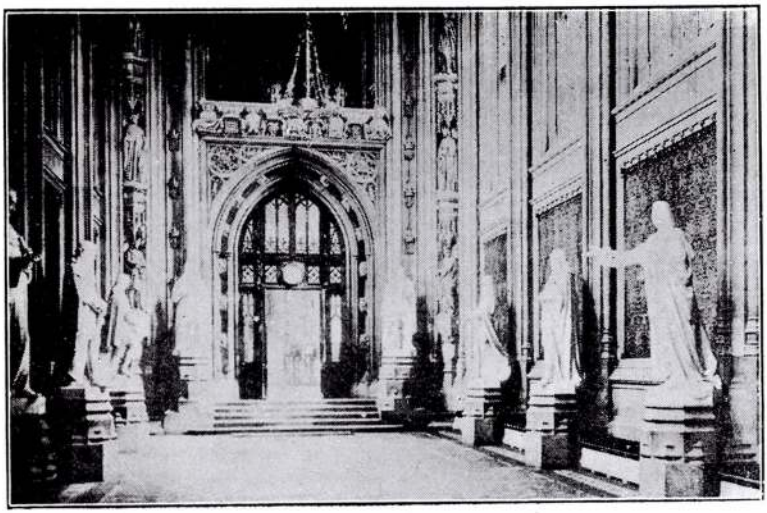


北亞米利加合衆國國會議事堂

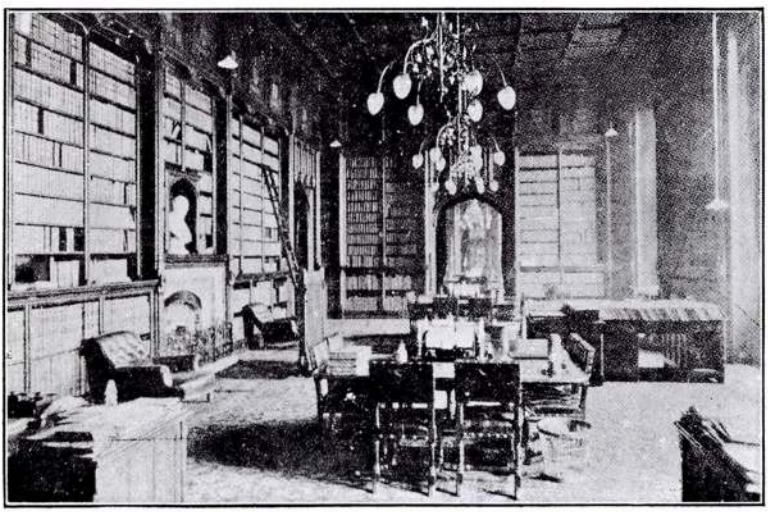




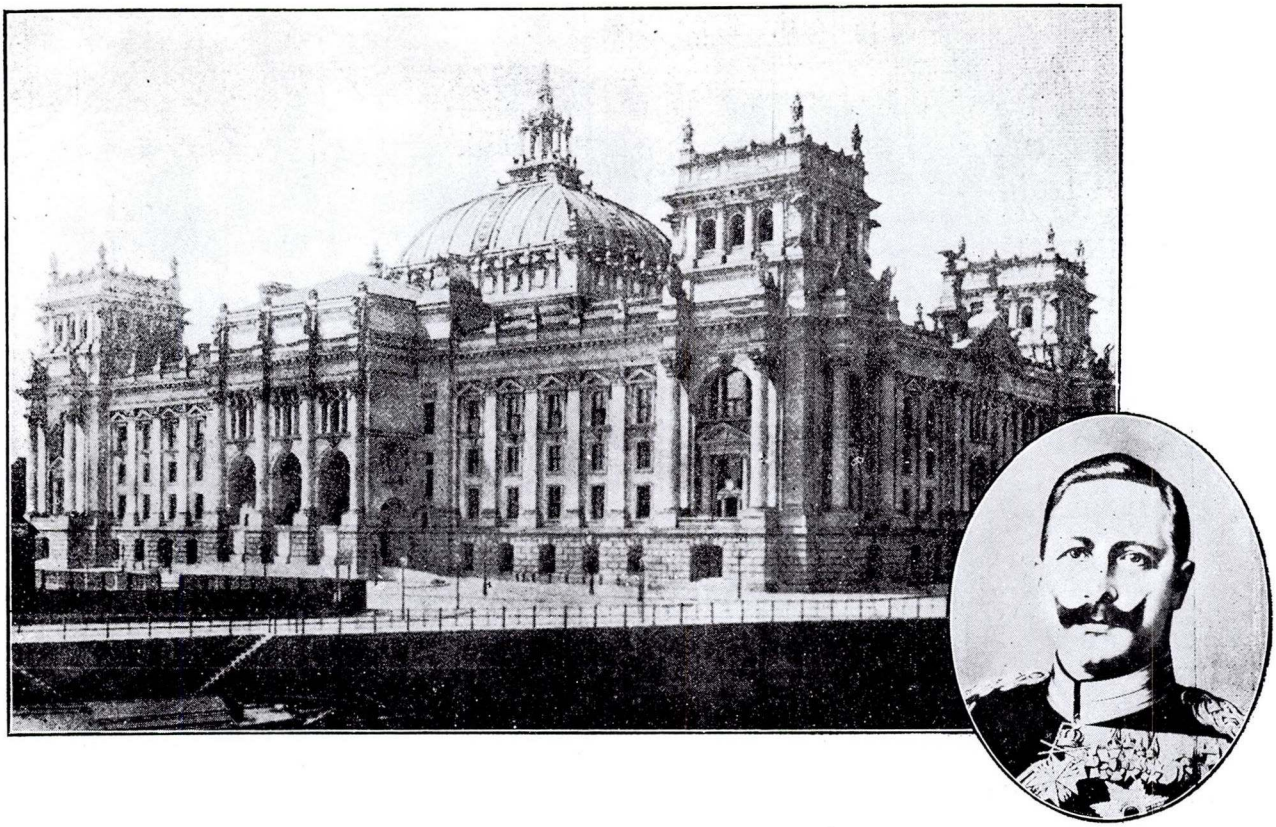
テームス河畔の英國國會議事堂



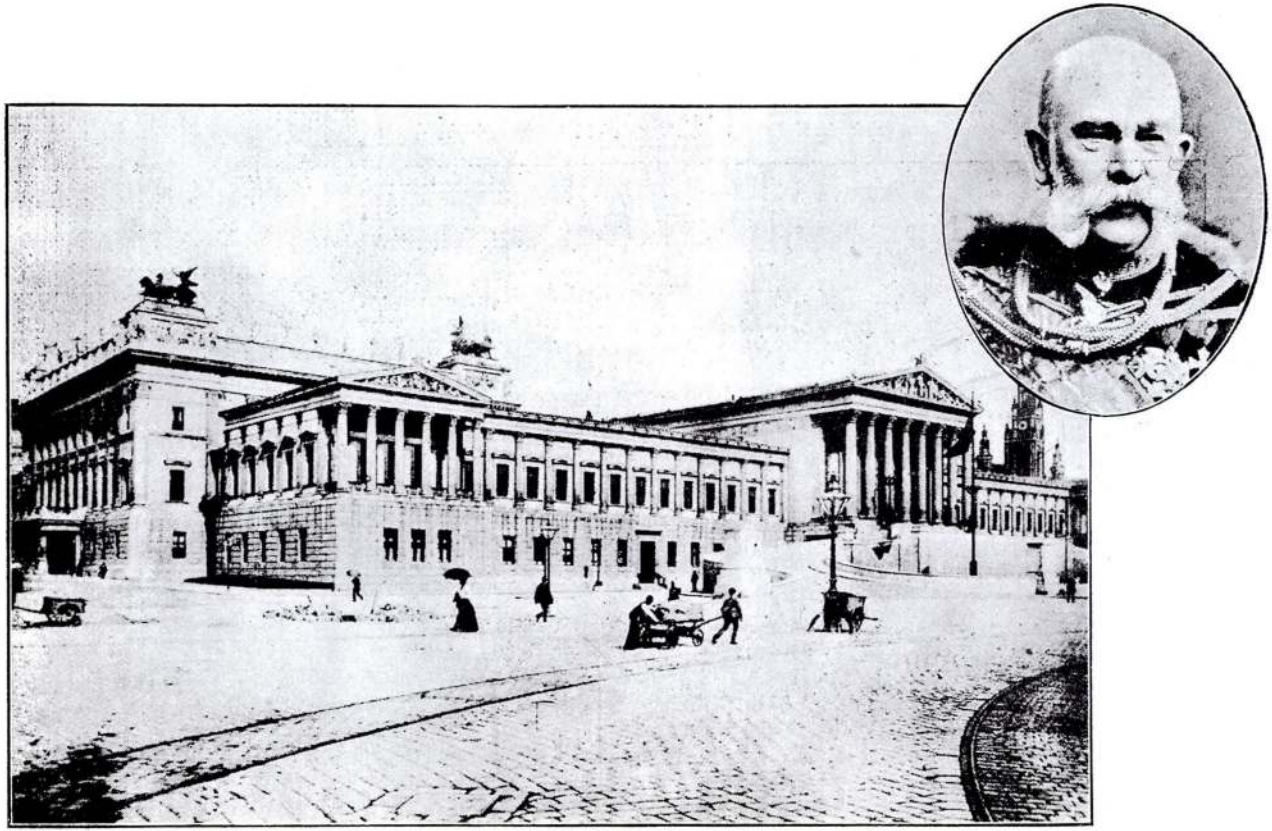
英國國會議事堂內
セント、ステフェンス、ホール



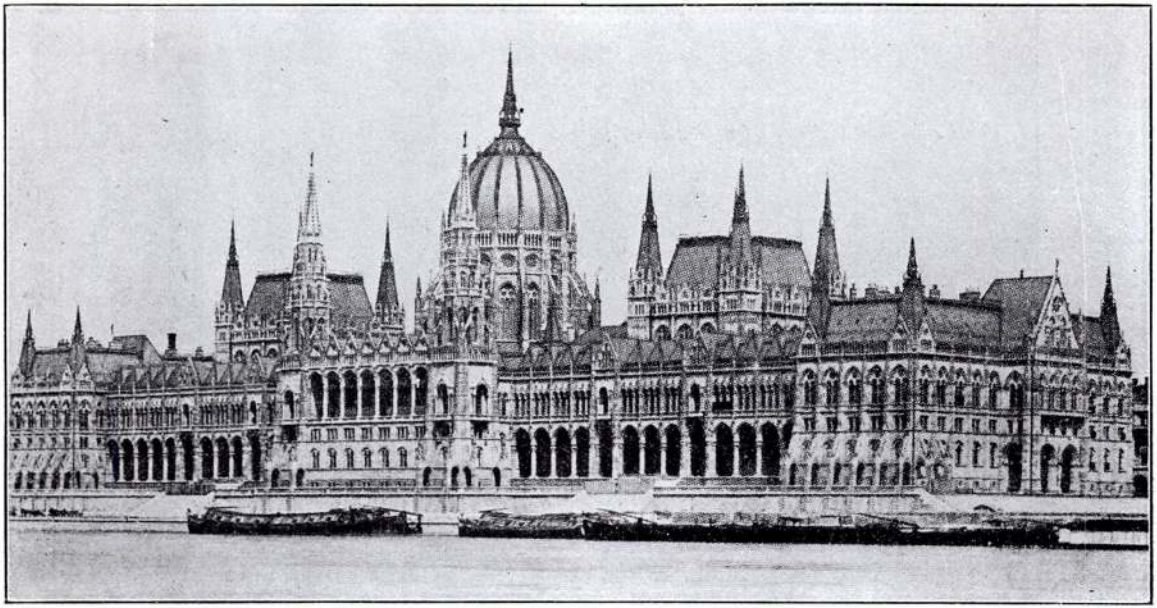
同　上
貴族院圖書閲覽室



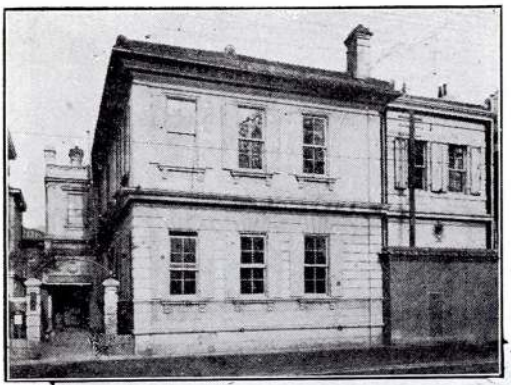
獨逸帝國國會議事堂



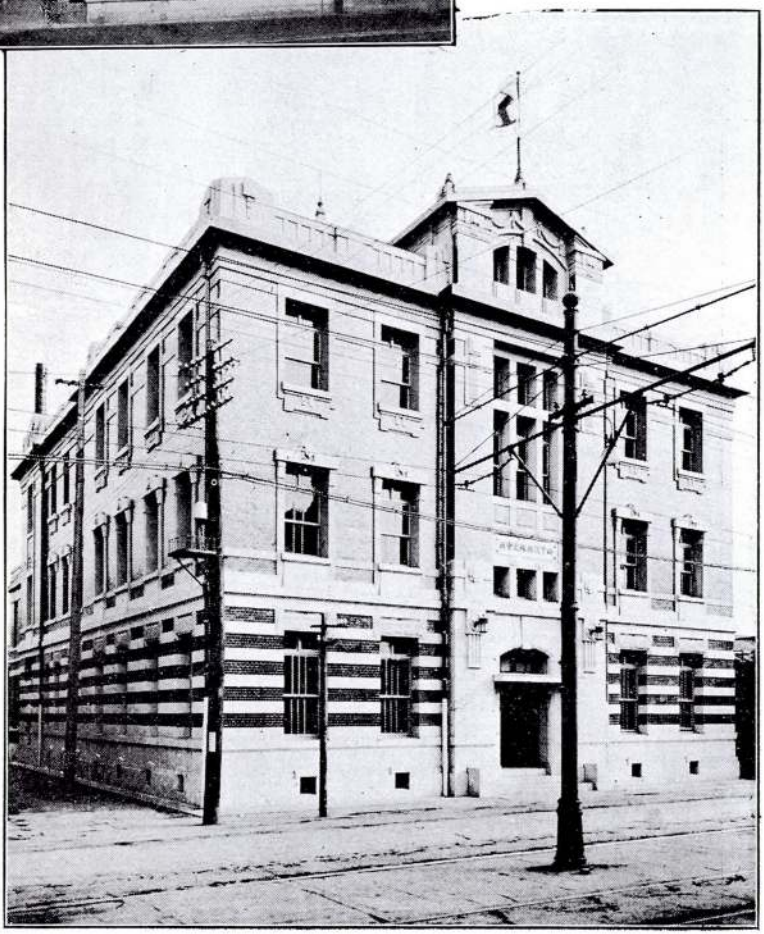
墺國國會議事堂



ダニユーブ河畔の洪牙利國國會議事堂



同舊舘



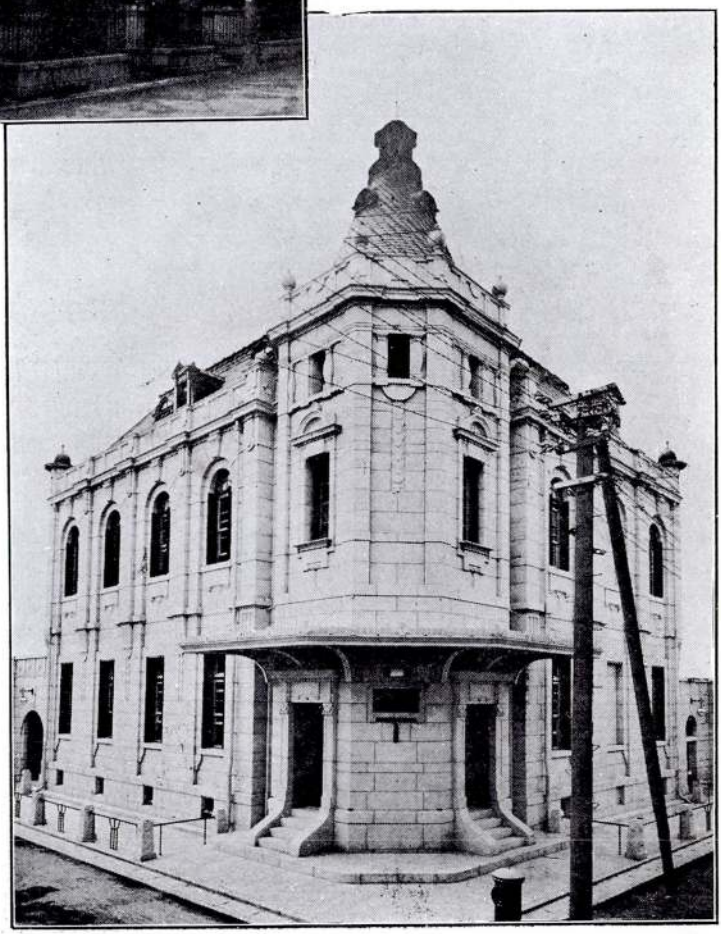
在神戸、山下汽船株式會社新舘

都市建築の今昔（七）

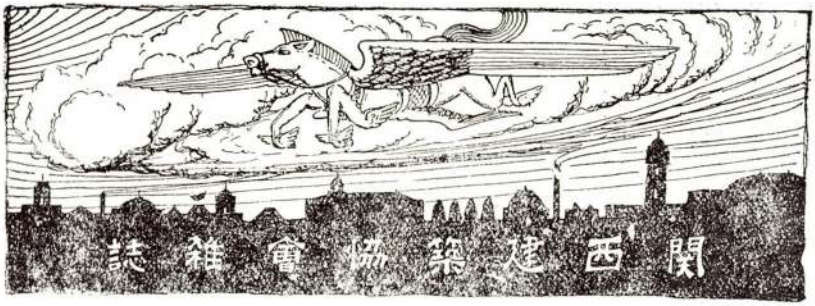


同舊館

都市建築の今昔（八）



日本生命保險株式會社京都支店新館



都市改良之機運熟成

都市改良計畫は近代文明の齎したる一大潮流にして、之を人類の生存より見れば、偉大なる福音として歡迎すべく、之を國家の發展より計るに、又必然的積極畫策たるを失はざるべし。歐米の文明國は數十年來、孜々として其經營に熱中し、今や各方面に著しき效果を擧げつゝありと雖も、日進月歩の科學應用の推移に後れざらんが爲めには、益其計畫の改善と內容充實に腐心して以て國運の前途に燦然たる光明を實現せんとせざるはなし。我國の都市は、維新以來多少其面目を改めたりと雖も、何れも部分的の修飾に過ぎずして何等の統一なく、又科學應用の根蒂に觸れざるもの多く到底現代の文明都市たるの要素を具備するものと言ふ能はず、所謂過渡文明の有らゆる欠陷を暴露するものなり。吾人は此次大戰亂の影響により、我國將來の發展計畫に對し其急迫を感ずると與に、我國現時の都市狀態に一大改良を施こすの急務なるを愁へざるを得ず。幸なるかな、近時吾人の希望は漸く社會の反響を惹起し、各方面に其急要を唱ふるを聞くに至れり吾人は此機運熟成に乘じ、其計畫の研究を重ね、其實施の方法を樹立し、以て國家の前途に幸福なる大綱を建設せざるべからず。



我邦の住宅改良第一策（上）

會員　片岡安

壹　緒言
貳　都市改良と住宅
參　住宅と衛生狀態
四　住宅改良と經濟問題

〔壹〕緒言

現代我國民が色々の問題に於て其取捨を決し得ない過渡時代に在る中に就て、住宅の狀態の如きは確に其最大なるもの丶一とつである。住宅は我々の生活上日々接觸せざるを得ざる殊更近接の問題であると同時に、其良否と適不適は、吾々の健康は勿論性格までをも司配して日々の活動振りに影響し、竟には、家庭の平和をも左右する程の重大にして緊要なる事柄であるにも拘はらず、一般人士から比較的冷淡に取扱はれてゐるのは、甚だ以て遺憾な事である。殊に、我國の現狀から云へ

ば、在來日本風住宅の大に改良すべき必要の明かなるを知り乍ら、未だ之を以て社會の問題とせざるは、寔に理智の常識に缺げた話である。

日本風住宅の缺點を列擧して、之を改良すべしと唱へた人は、二拾年來可成多く之を見受けたけれども。不幸にして世人の共鳴を得なかつたことの奈何なる理由なるやは、之を考へ置くこと大に必要である。何となれば、吾人が今亦日本住宅改良を唱へたとても、矢張り前車の覆るを等しく何等の反響を生じないような結果に畢るかも知れない。それば無益な努力と知り乍ら唱へる愚者と何等擇ぶ處は莫いから、斯の際、從來に於ける改良論者の態度を稽へて置くことも、蓋し無用の業ではあるまい。

從來の改良論者が、我國住宅の缺點として擧げた項目には、必ず、其反面にそうでなければならぬ因襲と經濟上の利益及環境の必要が播つてゐるのを一向に取合はなかつたからである。譬へば、自分の住宅のみが改良されても、親類とか友人抔が日々訪問するのに、訪問客の習慣を無視せんことは、事實出來難いであらう。又、奈何に家長本位の我國の家庭でも、老人もあり又女子のある以上彼等の境遇をも考慮に置かねばならぬ。故に、從來と一變した西洋風の住宅を造らばとて、主人のみは之に滿足し得むかなれど、老人の習慣を一變せしめたり、又は、子女の生活狀態を外界に通用せぬように押し込むることの出來ざる間は、家庭上間に合はない住宅と成り了るのである。人間が社會的に生れるものであるとすれば、住宅も社會的に一步一步と變遷を爲し乍ら改良されて行かねばならぬ。之を一箇だけ切り離して駈け足で進むだ處で、何の役にも立たないのは、丁度、有機的機關の一部分が特に發達しても、全體として少しも完全なる發達が出來ないと同樣である。之を

云ひ換へてみれば、從來に於ける改良論者は、社會的に一齊に之を實行せしめる現實の方法を少しも說かないで、唯其缺點のみを理想的に議論したに過ぎないから。約り、社會改良の實績を擧げ得なかつたのである。然らば、從來に於ける改良論者の意見は凡て間違つてゐるかと云ふに、決して斯うではない。部分部分には尤も至極の點が多いのであつて、吾人も大體に於て之を否認出來ないのである。併し乍ら、吾輩が此處に述べむとするのは從來識者階級の人達が唱へた部分的の理想論と多少其趣を異にし、我國住宅改良の實現を奈何にすべきやの方策に就ての意見である。

〔貳〕都市改良と住宅

我國の住宅を一擧にして大變遷せしむる底の改良は、此際最も望ましきことであるけれども、それを奈何なる動機から出發せしめるかゞ大なる問題である。從來唱へられたる住宅改良論は、唯箇人箇人のみの覺醒に愁へたに過ぎない。斯くては、何時までも實現出來ないのみならず、又、遇々覺醒せる者も、社會一般の聯絡上左程急要ともしない中に、荏苒日を送ることゝなるのを例とする丁度個人の衛生思想を向上せしむるのみにては、傳染病の退治は愚か、其防疫法さへ立たないのと同じ事である。故に、都市の密集地に於ける住宅の改良は、社會改良運動が其動機と成りて、之を一齊に社會的見地から實行するより外に途は無いのである。若し箇々別々に覺醒せる者ありて其實行を期すと雖も、個人衛生を重むずる人が參々伍々散在するのみにては都市一般の衛生狀態が改良されぬのと同然に、社會全體から觀て、住宅改良の機運と視る譯にはゆかない。

從來住宅改良を唱ふる論者は、全く自己の生活程度の住宅か若しくは自ら親しく訪問する先輩の住宅などに着眼して、其短所を彼是批難するのを例とする。併し乍ら、余輩は、斯る狹き見地から割り出した改良論は、餘り社會的に反響の無いのを當然と思ふのである。奈何なる人にても、自己關係のものを最も悉しく知るが故に、それに對する批難や解釋は可成深刻に遣るけれども、其批判が深刻であればある程其實行は不可能に終るのである。俗に『醫者の不養生』とか『紺屋の白袴』と謂へる事と等しく、自ら唱ふる者の自ら改良の實を擧げ得ないのは、世間其實例に乏しくはない殊に、建築技術者の如きは其著しき例であつて、住宅改良を唱へ、臺處や食堂の設備が生活上に重要なる所以を力說しながら、自らは其唱へた處を實行してゐるかといふに、實は必ずしもそうではない。經濟論者が貧乏に苦むと同一筆法と視れば敢て之を咎めるの要はないけれども、大体我國住宅改良の急務を叫ぶには、唯中流以上の人のみにしか適用しないような議論は少しも權威のあるものではない。況して、少しも之を實行せざるに至りては、其等の議論も机上の空論として葬らるゝのも無理はない。

我國の住宅改良を一刻も早く實現せしめんには、現代都市の趨勢に適應せしめることを其出發點として、其計畫を立つるを第一策とする。今や世界の大都市は、國家の最大樞要の位地を占め、其改良計畫は焦眉の急として認められ、着々其實施を爲しつゝある中に就て、都市の防備と其衛生設備を最大なる施設としてゐるのである。都市が一朝の火災や震災に遭ふて灰燼と消へることは、今後の文明都市の勝へられぬ處である。又、時々刻々襲ひ來る非衛生的狀態に打ち負けて、其市民の健康を毀損することも、亦文明國の看過出來ない處である。故に、各國の都市は、其建築に對して

公館ならざる住宅と雖も、斯の防備と衛生設備に向つては、嚴重の取締を勵行し、之を一齊に向上せしむるを原則としてゐる。唯、我邦の都市のみは、凡て自由自在に防備無き建築を造り、勝手に衛生上不合理なる設備に滿足するを少しも取締りもしないのである。即ち、建築に對する社會的制裁が無いから、住宅も社會的に向上出來ないのは、蓋し、當然の結果である。故に、吾輩の提案せんとする第一策は、住宅と雖も都市建築の一種類である以上、都市改善の意味からして、之に構造上の制裁を加へ、衛生上の施設を爲さしめる現代の世界的傾向を我邦の都市にも斷然實施することである。論者は、之を以て或は無謀の計畫なりと評する者もあるであらう。併し乍ら、我邦の都市は、何時まで元祿時代の夢を結びて安息し得らるゝかに嚴へ、現代都市發展の趨勢に想ひ到らば、都市建築に國法上の制裁を加ふるの時期は既に業に吾人を追跡し來りつゝあるを覺らねばならぬ。唯、問題は、之に伴ふ處の個人經濟關係は奈何といふ更に急切なる難關に立ち到るのであるが、是は別の項に於て詳述することゝし、次には住宅改良問題が衛生上奈何に焦眉の急であるかを少しく說ひて措きたい。

〔參〕 都市の住宅と衛生狀態

吾人の健康が奈何に住宅の狀態に支配さるゝかは、之を直覺的に識ること困難にして、生理上の學說を以てしても餘り立派に之を說明し得ない。唯其結果を見てそれを合理的に解釋するに過ぎないのであるけれども、獨逸ミユーニッヒ市に於て衛生學者ペッテンコッフエル氏が之を高唱したの

を始めとし、各國の大醫生理學者は、一齊に社會衛生の研究を發表して、其政治的實行を促進せしむるの機運となつたのは、實に、拾九世紀末に於ける最大事件の一であると云ふても、蓋し、過言ではない。之を極端に云へば、吾人の生命は、都市改良工事の進歩と住宅建築の發達に依つて漸次之を延長し得るのである。其著しき統計は、各國都市に於て夫々發表されてゐる通りで依るから。此處に抄錄するの繁は之を避くるとして。其最も痛快なる事實の二三のみを擧げて聊か參考としたい。

英國に於て、一般職工階級の住宅改良を重要なる國家の施設として、其法律を制定したのは千八百九拾年にして、夫れ以來、大都市は勿論、人口二三萬の小都會に至るまで、其法律の精神に基きて住宅公營を開始し、先づ、從來の不潔なる細民住宅の部落改築を斷行し、傍ら郊外に於ける住宅經營をも奬勵し、是迄は慈善家の仕事として取扱はれたる憐愍的の仕事を、經濟上又は國法上合理的なる積極的經營と成したのは、寔に、賢明なる計畫と謂ふべきである。而して、其法律實施以來英國に於ける都市住民の健康狀態が漸次向上したことは、左の英國國民住宅改良協會の記錄に據りて識ることが出來る。

一、倫敦の死亡率は、最近拾七年間（住宅法制定以來即ち千九百七年迄）に三割を減じて、千人に就き拾五人と成り、同年度に紐育は拾八人三分、維那は拾九人三分、羅馬は貳拾人六分、ペトログラードは貳拾五人なるに比すれば、非常なる改善である。

二、結核死亡者、痲疹死亡者は、前述の年間に於て其數三分の一に減じ、又、喘息死亡者及一般急性傳染病死亡者は二分の一と成り、殊にチブスは殆んど全滅して其跡を絕つた。

三、從來の細民部落を一掃して模範住宅を新設した地域にては、其以前の死亡率は千人に就き四拾人なりしものが、其後五六年を經たる總計は、激減して其三分の一以下即ち拾三人に低下したことを示してゐる。

以上は、主として、倫敦の最も窮迫せる細民部落住宅の改良を漸次成効しつゝある一例證に過ぎざれども、郊外住宅經營に於て更に著しき成効は、近時頻々として現はれ來つたのである。其著名なる實例は、リヴアプール市外のポートサンライト郊外住宅地及バーミンガム市外のボルンビル田園都市である。之等新開住宅地の衛生狀態が奈何に著しく好果を示しつゝあるやは、左の統計に據りて十分に之を識ることが出來る。

ポートサンライトの死亡率は、千九百七年度に於て、其創設七年間を平均せば、千人に就き九人八分を算し、世界の最優等狀態の大都市倫敦よりは二割五歩程低いのである。又、ボルンビルに於ては、千九百五年度に於ける調査上、其創設以來四箇年の平均死亡率は千人に就き七人三分を算しポートサンライトよりも更に其成績の良好なるを示したのである。之をバーミンガム市の死亡率と比較するときは、其衛生狀態の奈何に甚しき懸隔あるかを見て驚かざる者は無い。F圖は拾年前のバーミンガム市に於ける死亡率を其區域別にして現はしたのであるが。中央に近き密集地は、其死亡率最高二拾六人を算じ、心中地を距るに從ひ、漸次二拾二人、二拾人、拾九人と低下するを見る。バーミンガム市は、英國の有名なる商工都市にして、勞働階級密集の狀態殊に家屋の衛生設備の缺乏が竟に斯る結果を生ずることは云ふまでも莫い、而して斯くの如き現象は衛生學者ならざる者と雖も、其住居の狀態改善の急務を感ぜざる譯にはゆかないのである。今やバーミンガム市も、其郊

外にボルンビルの如き理想的住居地を有し、市内に於ても、公營住宅の積極的施設を爲し、其衛生狀態は著しく向上しつゝあるといふことである。

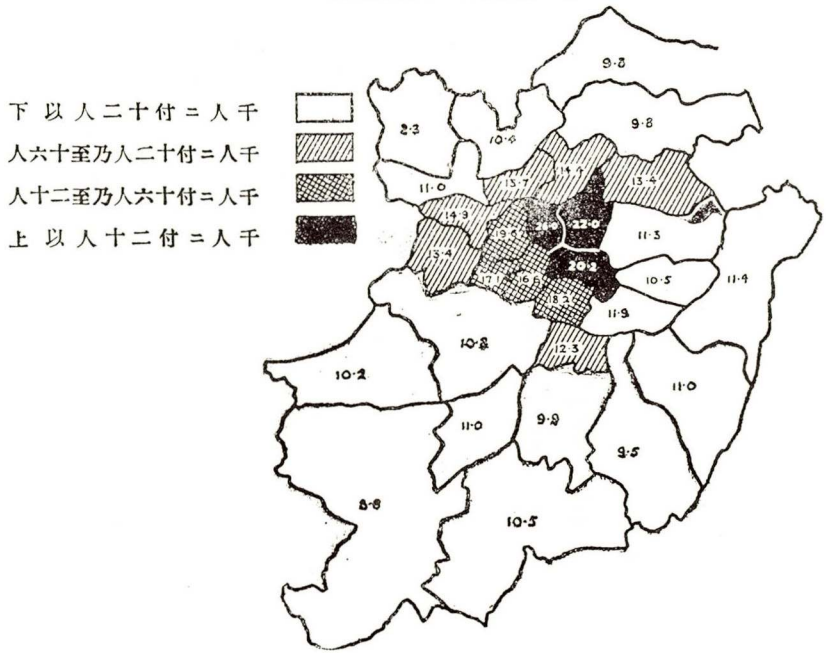
我國に於ても、大都市の衛生狀態は、市民の非衛生的住居の爲か、其健康狀態の低級なること寔に驚くべきものがある之を都市全体に平均すれば—大正元年度に於て—人口千人に就き其死亡率は、

東京　拾八人七分
大阪　拾五人八分

を示し、世界大都市中最下といふ程ではないけれども、其結核死亡率を見るに、甚だ怖るべきものがある。即ち

	人口一萬に就き結核死亡者	
東京	三六人〇六厘	以上明治四十三年内閣統計局調査表
大阪	同　三〇、九四	
京都	同　四四、九七	
神戸	同　三五、〇九	

英國バーミンガム市の各區類別の死亡統計圖



之を北米大都市市俄古の拾八人七分、紐育市の二拾三人四分四厘（一九〇八年度）に比較するときは、奈何にも甚しき差異を見る。而して、亜米利加各都市の結核死亡率は、千八百九拾年より著しく遞減の趨勢を持續し、爾來貳拾年間に半減したのは事實であつて、今後益々低下さるゝことは十分に之を認知し得るのである。結核病は、都市民に對して實に怖るべき魔手であるけれども、之を驅逐する方法の比較的平易なものであることは、現代の衛生技能の進歩に仍りて十分に之を認め得るに至つたのである。其方法とは、個人衛生と住居改良の根本的施設を十分に實行せしむるを以て最捷徑と做すのである。素より、強制的に療養を爲さしむる如き、又、施療病院の普及を圖ることと等は差し當りの急務であるが、根本問題としては、實に、住宅の改良を第一策とせねばならぬ。英國の田園都市首唱者ホワード氏が計畫せる、倫敦の北方三拾哩の地に建設されたるレッチウオース住宅地に於ける千九百七年度の結核死亡率一萬人に付五人の低率なりし報告を聞く者は、結核病は住居狀態の改善に藉りて容易に之を征服し得るものなることを識り得るのである。

我國の都市住宅は、一般に衛生上甚しき危險に瀕してゐることの、今や、識者間に知られて來たようであるが、不幸にして、未だ一目瞭然たる統計に乏しく、又、細民部落の家屋狀態を知る者の少き爲に、衛生行政に膺る者や一般先覺の士を驚醒し得ないのは、甚だ遺憾の次第である。余輩は先年、大阪結核豫防協會の一員として、大阪市に於ける貧民窟の一たる關屋町及天王寺椎寺町の之等部落の家屋を實査して、其慘憺たる狀態には驚かざるを得なかつた。衛生當局者にして、我國の大都市に於ける細民部落の住宅を悉しく視察したならば、現今の如き不徹底なる衛生行政の根本に於て誤れるを覺るであらう。

國民保健法は、英國にては一千八百七拾五年に發布され、一千八百九拾年の住宅法と相俟つて英國民の健康の向上を保障してゐるのである。其他歐米各國に於ては、國民保健の目的の爲に、衛生法と建築法規との制定を爲さゞる處なき現代に於て、獨り我國のみは、安閑として其施設を怠るのは、餘りに科學的智識に乏しき社會組織にはあらざるなきか。吾人は、我邦の凡ゆる社會組織の缺陷の中に就て、保健法の制定だになく、住宅法の研究調査さへなきを以て最も重大なるものゝ一と つと思ふのである。（以下嗣出）

◻昔の市制◻

大阪には城代ありて市を統轄し、市全体を三組に分ちて、各組に惣會所を設け、惣會所には惣年寄を置く、惣年寄は其數二十人にして、最初は官選なりしも、後には世襲となる、町奉行に隷屬して、市内の安寧秩序を保つ名譽職にして苗字帶刀を許さる、意ふに此惣年寄なるものゝ制度は、大阪に於ける特殊の地方分任制度にして江戸の町年寄と名主との中間に位せるものゝ如し、されば之を以て今日の區長の小なるものと見るも可ならんか、然し、惣年寄の數は二十人に過ぎされば其下に町年寄を置く、こは江戸の名主に相當し各町の會所を管理す、町年寄は町内の住民より三人乃至五人の候補者を互選し、其中について惣年寄一人を選擇し、町奉行の許可を受くる制度たり、惣年寄と同じく名譽職にして別に俸祿なしと雖も時に時に町民より祿措料と稱し、若干の金圓を贈ることあり、此は今日の議員に贈る實費辨償の制度に近きものといふべきか、惣會所並びに町會所には惣年寄、町年寄の外に惣代町代ありて事務を助く、惣代は惣年寄の特選する所にして、町奉行之を任命し、多くは世襲たり、町代は町民の協議によりて選定し之又概れ世襲となす、之等上級の行政組織の下に五人組の制度を有したる事は江戸に相同じ、されど大阪の五人組には伍長なるものなく事實上主だちたるものか、其組合を統一したるが如し。（三都比較大阪研究）



議院建築計畫回想錄

□はしがき
□議院建築計畫と專門家の意見
□議院建築計畫と輿論
□議院建築計畫と確定議案
□議院建築計畫の由來
□議院建築計畫と官制の比較
□議院建築計畫と早尚論

はしがき

議院建築問題の由來は中々古い事であつて、かれこれ三十年近くの懸案である、現在の假建築は最初に出來た假建築が明治の二十四年の一月に燒けてしまつたので、其年約廿三萬圓を投じて急造をやつたものであるから、到底長年月の風雨に堪ゆべくもなかつた、それでも十四五年の歲月を什ふにか無事に經過してから之れが修繕を爲なければならなくなつて調査をやつた事があつたが到底二年以上は持つまいとせられた然るに日露戰役が始まつたため亦々延期となつて、戰後漸く修繕に着手し前後三年の時日と、經費約五十萬圓を拋つて再來七八年の命脈を保ち得らるゝものとしたが、それから今日迄は既にかれこれ十年餘を經過してゐる若し今日更らに大修繕を斷行するとしても、尠くも百五十萬圓以上を要すべき有樣である。

斯くの如く修繕に次ぐに修繕を以てして、姑息なる方法を執らざるべからざるは、本建築の研究調査が之れと平行して進行しつゝ尚解決を見ぬ爲である。

吾國の議事堂建築をして堂々たる大建築とし、外國に誇り得る丈のものにしたいといふ希望は、既に假建築を建てた當時からの懸案であつて、決して一朝一夕の問題ではないのである、當初は司法省、大審院の如く外人の設計によつて之れ

が實施をやらんとした事もあつた位であるが、幸にしてその案は中止となつてしまつた、そして著しく大規模の計畫を立て、多年の懸案を解決せんとしたのは明治四十年から同四十五年に亘つてゐる實に現在の假建築に大修繕費を抛つた時である。後年數度か多額の費目を投じて修繕に續くに修繕をなさば畢竟無用の費目を要するのみならず、愈假建築の壽命も遂に盡きて、一大改築を斷行せざるべからざるに至らんといふのが主要なる理由であつた樣であるが、要するに本建築の研究を進めて一日も早く完全なるものとしたいといふ決心を起したのである。

當時の大藏大臣は手腕ある桂首相が兼任する所であつた從つて此問題の解決には萬事好都合であつたらしい、愈眞面目に調査を開始する事となつて一方大藏者臨時建築部をして研究を進めしめ、他方兩院書記官長並ひに新進の技師二名を歐米に派遣して、彼地に於ける實際を視察せしむるに至つたのである。

そこで議院建築に關する意見並ひに論議が戰はさるゝに至つて、はしなく各種意見の衝突となり、建白書、公表書等の提出となり、輿論の換起沸騰となり、東都の建築界は熱烈なる論戰の巷となつたのである。此時に當りて建築學會を中心とする專門家の意見は、殆んど「懸賞募集」といふ事に集中し一般競技によつて得らるべき最上案を採用實施すべしといふに在つた。

當時大藏省の計畫では其充分調査し遂げた原案によつて兎も角も實行に着手する決心であつた、之れが解決も大した困難ではないと思ふたらしい、處が案外民間建築家の論鋒が猛烈であつたのと、當時の財政狀態の都合よくなかつたのと今一つは貴族院を中心として一般智識階級に於て尙早論の有力であつたために遺憾ながら沙汰止みとなつてしまつた。

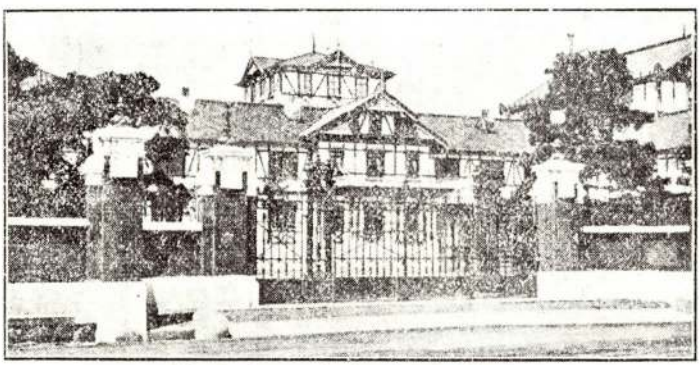
昨夏突如、議院建築問題の惹起し來りしは全く現議院假建築の腐朽甚しきため之れが大修繕を斷行しなければならぬ場合に立到つた爲であると同時に幾度か計畫して幾度中止となつた多年の懸案を財政狀態の比較的餘裕ある今日に解決したい希望に外ならぬと思ふ、吾人うむらくは實行に急ならんとする當局者は目的の爲めに策を選ばず、其發表せる計畫案の姑息なると、之れが說明の不徹底なると、そして調査委員會の決議事項に見逃すべからざる矛盾を發見するあり、加ふるに此種の大建築の計畫に當りて斯道の專門家並びに一般識者が平然として看過しつゝあるを觀て、うたた慨歎に堪へざるものがある。

吾人計らず、過去の貴重なる言論を追想し苟も多年の歲月と多大の經費とそして數多の智囊の努力よりなる成果を研究し來りて、敬服措く能はざるものがある、是に於て「溫レ古知レ新」の必要を認め繁忙を厭はず、茲に紹介揭載して識者の參考に資し同時に近時に行はれつゝある輕薄なる論議を批判せんと欲する次第である。

議院建築計畫の由來

明治初年、明治政府首腦の諸先達が歐米視察

の途上、各國制度文物に觸接して啓發されたる事項の夥多なるは言たずもがな、當時の名士すら田舍物の東京見物と一般、見るもの聞くもの羨望の種ならぬはなかつた事と考へられる、これや内治改善の主張となつて再來滔々たる歐州文明の輸入時代となつたのである、從つて國會開設の勅諭が宣布せられて、二十三年に國會が開かれるといふ迄の當局者の苦心經營は蓋し非常のものであつたと同時に「議事堂建築」に對する當局者の計畫は頗る大規模の腹案であつた事と推察されるのみならず、聞く處によれば日比谷附近を中心とせる諸官衙建築の統一配備の成案が外國技師の採用によつて實行されんとする程であつた。これは其實施を見るに至らなかつたにしろ、當局者の如何に遠大の理想を把持して居たかが解ると同時に、しかも實行せしむる丈の決心を持つて居た事が解る、其計畫が中止となつてしまつた點について、幸福だとする觀察を至當とするや否や頗る疑問といはねばならぬ、明日ありと思ふ心の仇櫻で、議事堂建築は遂に明治年間に建設に着手する事すら出來ぬ次第である。



帝國國會議事堂（衆議院）

そこで議事堂は假建築で間に合される事となつたが明治十九年に内閣に設置せられた「臨時建築局」の任務は可なり廣く可なり重かつた樣である、外國技師の指導によつて海外留學の業を終へて歸朝した我國技術家は先づ以て諸官衙建築の計畫實施に從事するといふ有樣であつた此の時に當りて議事堂建築の敷地を永田町一丁目に内定して、爾來同所に何等新しい建物を實

施しなかつた事はよく當時の計畫を說明してゐると思ふ。

「臨時建築局」は其後內務大臣の管轄に移され間もなく廢止となつて事務は內務省に取扱つて居たが、後に更に大藏省內に「臨時建築部」なるものが置かるる樣になつて其任務は全く縮少されてゐる。

されば三十年の五月に議事堂の本建築を實施せん爲め「議院建築計畫調查委員會」なるものが設けられたが、內務省の管下に在つた、委員會には工學博士及び大學敎授、貴衆兩院翰長及び雇外國技師等で組織されて調查する處があつたけれども、其建築意見は重んぜられないで更らに委員を設けて計畫調查を開始すべしといふに到り三十二年に衆議院は一ツの建議案を提出して居る。

建議案

現今の議院は假議院にして今後數年を保つを得ざるのみならず、狹隘にして構造に於て不便を感ずる所少なからず、依つて本議院建築の方針を定むること最も急務なりとす故に議院建築調查會を設くるの必要あるを以て其組織方案を政府より提出せられんことを望む。

右建議す。

理由

現今の議院は急速の場合數月の間に建築せしものなるを以て永年に保つを得ず、且つ狹隘にして、構造も亦不便を感ずる所少なからず、故に現今の議院の保存年限を測定し、其間に本議院を建築すべきの必要あるを以て、調查會を設けて方案を調查し、方針を定むること最も急務なりとす、是れ本案を提出する所以なり。

此の建議案は委員の審查を經、滿場一致を以て可決されてゐる。

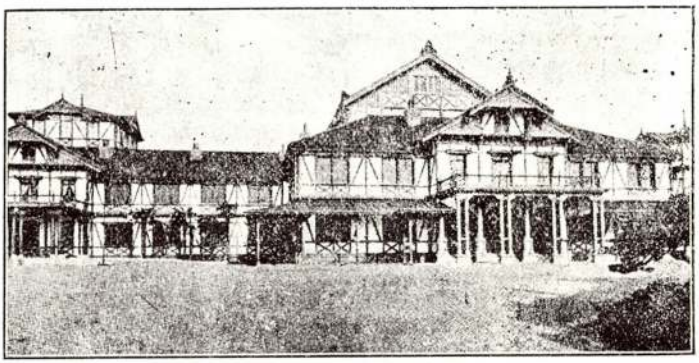
此決議案は政府より要求せる議院建築に關する海外視察費の項目を削除したる後に提出せられたるものにして、主として議院建築の大方針の確立を要望し、計畫委員會の調查は信賴するに足らぬといふ主旨であつた。

そこで政府は三十二年四月に「議院建築調查會規則」を勅令を以て公布し、內務大臣之が委員長となり、副委員長、工學博士、兩院翰長、諸省技師、兩院議員等が委員に任命されて審議を開始するに到つたのである。

此の調查會の決議事項は大に注目に値するも

のがある、當時日清戰役後に際し戰捷償金の一部を割き戰役記念の意味を以て豫算に計上し、建築費は約千五百萬圓、工程約十五ヶ年繼續事業とし且計畫は懸賞競技に付する等の決議は如何にも建築を重要視し且つ記念建築としての意義を徹底せしめんとした事が明かに示されたものである、殊に工費に於て工程に於て相當の研究を遂げ且つ設計を懸賞競技に付するの決議の如き實に事務に明かなるものがあつた。

乍然日清戰後の戰後經營には多額の費用を要し到底此の決議案も實行に入るの時機でなかつたのは返す〳〵も殘念であつた、遂に三十四年には調査會規則は廢止となり、萬事を拋つて對露準備の時代に入りて臥薪嘗膽の十年間、遂に議院建築の議は頓挫してしまつたのである。



帝國國會議事堂（貴族院）

日露戰役後、衆議院は又々建議案を提出したそれは愈々現在假建築の修繕費の要求が政府から提出されたるが爲めに再び本建築設計の急務を感じた結果と見る事が出來る從つて建議案の內容は着手を必要とし一日も早く實行せよといふに在つた。

建議案

政府は本期議會に三箇年繼續として議院修繕費の豫算を提出し既に兩院の議決を經たり、然るに此の修繕を以てするも假議事堂は向後十箇年を耐持するに過ぎずと謂ふ、今に於て本議事堂の建築に着手するは最も必要のことゝ認む依りて政府は速に之が提案を爲さんことを望む。

右建議す。

理由

明治三十九年度豫算を以て議院修繕のため三箇年の繼續費として二十三萬四千九百五圓を要求し、既に兩院の可決するを

ころとなれり、然れども該修繕たるや一時の姑息手段にして本議事堂の建築には十五ヶ年の繼續を以てするに非ざれば之が竣工を爲すこと能はずとは議院調査會の報告するところなりと聞く、果して然らば此の際速に本議事堂の建築に着手するは最急務なりと謂はざるべからず、是れ本案を提出する所以なり。

是の建議案では殆んど議院建築の大方針が決定されて居るかの樣である、蓋し延期々々の徑路を辿つて來た議事堂建築は多少時世の變遷に伴ふ訂正は當然止むを得ざる事なりとするも、其の規摸、配置、結構に於て相當の決定せる成案のあるべき筈である、從つて其實行を期するの急務を迫つた譯であつて、議事堂建築としての大方針は先年の決議事項に依つて決定されて居たのであると考へる事が出來る。

以上は明治四十年迄の議院建築に關する政府當局の方針と意向と其經過を擧げて見たのであるが、兎も角本建築を重要視して忽にすべからざるものなる事を明かに語るものであつて同時に衆議院より提出せる兩度の建議案は之れを一般民意の代表と見ることが出來るのみならず、國民が如何に議院建築を理解しつゝあつたを窺ふことが出來やうと思ふ。

議院建築計畫と專門家の意見

從來議院建築の調査の幾度か開始されつゝあつた間に常に外國技師の委員としての任命參列が止むを得ぬ事の一つであつた、それも當初に在つては寧ろ雇外國技師が專門的事項に對しては指導者の位置に在つた位であつたのであるから無理もない次第であつて、日清戰爭當時の調査會決議が信用せられなかつたのは愈々我國建築界の幼稚であつた事を說明して居るのであろう。乍然明治も四十年に至りては建築專門家の手腕は漸く認められるゝに達し、專門家の意見は大に尊重せらるゝ時代となつて來た。

然るに明治四十年に至つて政府は遂に議事堂並びに諸官衙建築調査費を計上し、海外派遣員の費用及び敷地の調査費目として要求し議會を通過する事が出來た、かくて大藏省管下に「臨時建築部」の調査は着々其範圍を擴大し、兩院書記官長及び技師は海外に派遣を命ぜらるゝに

至つた、四十一年及び四十二年にも夫々調査費を要求して兩院の協賛を得、遂に四十三年五月勅令を以て議院建築準備委員會官制を發布し夫々委員の任命を見るに到つたのである。

蓋し政府當局の方針は大藏省臨時建築部に於て調査せる成案を以て調査會の原案とし、以て確案を得んと欲したのである、當時の臨時建築部の主任技師は工學博士妻木賴黄氏であつた、同氏は建築學會の副會長を兼ね重望を負ふて着々所期の計畫に努力しつゝあつた、乍然既に三十二年度に於ける議院建築調査會の決議事項は同調査會の廢止と共に放擲せられたるの觀ありと雖、重要なる意義の確定と懸賞案を採用せんとせる決議の如きは大に參考に値するものがあつたに係らず、臨時建築部の方針は全然新たなる計畫を立て進んで具体的設計をも確定してあるかに見えた、是に於て當時の建築學會學長工學博士辰野金吾氏は工學博士塚本靖、工學博士伊東忠太の二氏と連名を以て左の如き意見書を發表して、一般識者の參考とせられた、實に明治四十一年二月の事であつて、本建築が如何に重大の意義を有し國民的研究の必要なるかを道破して遺憾がない。乍然大藏省としては兎も角一通りの成案を得且つ充分現時の各國議院建築を視察するの必要に驅られたるものなる事は明かにして兩院書記官長及技師二名は同年度外遊の途に上つたのである。そして同年の五月頃の東京新聞紙上に妻木博士の談として左の意味の話が揭げられてある。

「現在の假議事堂は建築技術の幼稚なる時代に於て而も僅々四ケ月餘の日子を以て建設したるものなれ共、割合に堅牢に出來上り居れるを以て三五年に外部の塗替其他の修理工事を怠らざれば、今後尙ほ十四五年の壽命は保つべし。

獨逸帝國議事堂の如き其壯麗なる確かに伯林市街の美觀なり我國にても今後愈議院の本建築に着手するに於ては亦這般の大設計を必要とすべきを以て其工費は尠くとも一千四五百萬圓以上に出づべく工事完成期は職工及び材料の關係等より考ふれば是亦十四五箇年の長日子を要す

べし、されば最も愼重に且遺算なく海外諸國に於ける議院建築の狀態を視察し徐ろに其設計に着手すべきは勿論にして彼の四十一年度豫算に計上せられたる調査費は只其下調費の一部に過ぎず。」

則ち知る當時の臨時建築部は大々的具体案の作成に努力しつゝあつたのであつて、其意氣込の如何に熱烈であつたかは推察するに難からないのである。

議院建築の方法に就いて

凡そ世界の文明國に於て、其最重要なる建築は、即ち國會議事堂に如くはなし、國民の宗教的信仰が凝つて大伽藍の建築を成すが如く、國民の政治的思想は殆んど議事堂の建築となるぞかし、去れば歐米諸國の實例を觀るも、巍々として帝都幾千の高樓を壓し、堂々として王城幾萬の大厦を睥睨するものは即ち國會議事堂の建築ならざるはなし、我國亦斯の如き宏壯偉大なる議院建築を起すべきの機正に熟せり、其形式手法、構造、裝飾は共に我國民の學識と技術との粹を竭し集め、以て我國威を世界に發揚するに足るものならざるべからざる也。

斯くの如き性質を有する國家至大の建築の形式手法の體裁を撰み、構造裝飾の方法を定め、内は以て萬民の希望を充たし、外は以て國威を世界に發揚するに足らしめんには、當に如何なる方法に據るを至當とすべきか、或は之を我國の或る一個建築家の考案に委任すべきか、將た博く我建築家の考案を徵し、其精を撰み其粹を拔くべきか、其優劣は智者を俟て後知らざる也去れば現今歐米に於ても、殊に重要なる建築は懸賞の方法に依つて其考案を募集しつゝあり、獨逸の帝國議事堂、米國加州大學、和蘭海牙の平和會議々事堂の如きは其顯著なる好例にして皆良効なる成績を收め得たり、吾人は事理に明かなる我國の當局者が必ず此の懸賞募集の方法を取らるべきを信ずと雖、茲に少しく疑ふべきものあり、乞ふ次に其次第を述べん。

聞く所に據れば大藏省は來年度豫算中議院建築調査費金五萬圓を計上して今期の議會に提出し、若し協賛を經ば事務官と技術官とを歐米に派遣して彼地に於ける議院建築を調査せしむべしといふ、然るに先年當局に於て既に議院建築調査會を組織て大体の調査を遂げ、同時に歐米各國より參考圖書を徵し、今現に當局に於て之を保存せる筈なりと思惟す、既に一たび調査を了り、更に又吏員を派して調査を重ぬ、其必要何處に在りや、吾人は別に更に緊急にして適切なる幾多問題の眼前に横るを見る也。

議院建築は我帝國の議院建築なり、之が設計を試みんと欲せば先づ我國の現今及將來の情勢を考へ、國運の進歩に伴ふて必然起るべき建築に關する諸問題を研究する等内國に在つて專心調査すべき事項甚だ多し、而して今此の實際問題を捨て、倉皇として出て海外に遊ばんとするは果して何の心ぞや。

斯の如く本末を顚倒し緩急を誤れる措置を敢てするを以て

之を見れば、議院建築設計の方針も亦或は誤らざる無きを保し難し、即ち更に前陳の主意を反覆して當局者の猛省を促がさんと欲す。

當局者は或は未だ我建築學術の進歩の狀態を詳にせず、以てこの重大なる建築の意匠圖案を提供する如き建築家其人なしと揣摩するか、これ大なる誤解なり、我建築界や今や濟々たる多士を有す、其技倆必ずしも泰西の建築家に下るにあらず、見よ最近の大作なる東宮御所の御造營を始とし、輪奐の美を竭せる大建築は陸續として、我幾多建築士の手腕に由て經營されつゝあるに非ずや、我建築界は今や如何なる大工事も、如何なる難工事も、之を計畫し之を竣功するに於て毫も困扼する所なきに至りたり。

斯くの如き學術と經驗とを有する我が幾多の建築士に就いて其意匠を募集し、更に其粹を抜き精を撰み、以て適當に之を鹽梅することを得ば、其成績は蓋し完璧に庶幾からん、之を一個建築家の頭腦より案出せる考案に比せば其優劣實より同日の論にあらず、惟ふに議事堂の如き國家至大の建築設計を擧て一家の私見に委任するが如き時代は既に經過し去りたり、今日の政治は宰相一人の擅斷を許さずして、博く國民をして之に參與せしむるに非ずや、其國政を議する所の議事堂亦豈一家の考案に委するを許すべけんや、我が濟々たる建築家は均しくこの名譽ある工事に對して其考案を提供すべき權利と義務とを併有せり當局者若し此の權利と義務とを蹂躙するが如き事あらば、これ實に昭代の不祥なり。

懸賞募集の方法に關しては吾人素より成算のあるあり、他日此の問題の進行するに從つて之を陳述せん事を期す、茲に議院建築設計の宜しく一個人に委任すべからざる所以を明にし、懸賞募集の最適切なることを述べて江湖諸君の贊成を乞はんと欲す。

此の意見書は實に專門家の議院建築に關し公にされたる第一のものである、加ふるに國家的大建築に關する理解と自信に在りては痛快を叫ばざるを得ぬ次第である、殊に建築界の現狀を述べて、實力の養成漸く成り設計案の懸賞一般競技の實行も可能なる所以を明かにして、競技法の採用を希望せるは往年の決議に附合するものがある只先にありては外人の助力をも仰がんとせしに反し、此は我國民の力によつて成就せしめんと欲するの程度があるのである。

議院建築計畫と官制の比較

今茲に當時發布せられたる官制並に委員會任命の顏觸を見るに其大規摸の調査會なる事を知ると同時に如何に本建築を重要視せるかを知るを得べく、往年衆議院に於て建議せられたる調査會の內容を具備して遺憾なかりしと見る事が

出來やう、同時に全く雇外國技師を除外せる時代となつたのであることを注意したい、殊に昨年發布せられたる「議院建築調査會官制」並びに諸委員の顔觸と對比する時に於て、今回の調査會が其成案の如く貧弱なる事を明かに認むることが出來やう。

議院建築準備委員會官制は五月二十六日附勅令第二百三十四號を以て公布せられてゐる。

議院建築準備委員會官制

第一條　議院建築準備委員會は大藏大臣の監督に屬し、議院建築の準備に關する事項を調査す。

第二條　議院建築準備委員は委員長一人、副委員長二人及委員二十七人以內を以て之を組織す。

第三條　委員長は大藏大臣を以て之に充て副委員長、委員及臨時委員は各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗ある者の中より大藏大臣の奏請に依り內閣に於て之を命ず。

第四條　委員長は會務を總理す。

委員長事故あるときは大藏大臣の指名に依り副委員長其事務を代理す。

第五條　議院建築準備委員會に幹事三人を置き大藏大臣の奏請に依り、大藏省、貴族院事務局及衆議院事務局高等官の中より內閣に於て之を命ず。

幹事は委員長の指揮を承け庶務を整理す。

第六條　議院建築準備委員會に書記若干名を置き、大藏省、貴族院事務局及衆議院事務局判任官の中より、大藏大臣之を命ず。

書記は委員長及幹事の指揮を承け庶務に從事す。

第七條　副委員長、委員及臨時委員には鐵道會議々長、議員及臨時議員旅費支給規則の例に依り旅費を給す、但し會議の爲特に上京したる者には開會中五圓以內の日當を給す。

附　則

本令は公布の日より之を施行す。

議院建築準備委員會官制の發布に伴ひ左の委員の任命があつた。

（各通）

正二位勳一等公爵　德川家達
正五位勳四等　長谷場純孝

議院建築準備委員會副委員長被仰付

內閣書記官長　柴田家門
法制局長官　安廣伴一郎
內務次官法學博士　一木喜德郎
大藏次官　若槻禮次郎

大藏省臨時建築部技師工學博士　妻木賴黃
大藏省主計局長　橋本圭三郎
東京美術學校長　正木直彥
貴族院書記官長　太田峰三郎

衆議院書記官長　林田亀太郎
正三位勲一等男爵　小澤武雄
正四位勲二等工學博士　古市公威
正四位勲三等工學博士　眞野文二
正四位勲二等工學博士　片山東熊
（各通）
正五位勲四等　肥塚龍
従三位勲二等醫學博士男爵　高木兼寛
従四位勲三等工學博士　中村達太郎
従四位勲三等工學博士　淺野應輔
正四位勲五等伯爵　川村鉄太郎
正四位勲二等男爵　目賀田種太郎
正四位勲三等工學博士　辰野金吾
従四位勲四等男爵　吉川重吉
従四位勲四等男爵　中島久萬吉
正五位勲四等　柴四郎
勲四等　奥繁三郎
勲四等　大竹貫一
勲四等　菅原傳
法學博士　鵜澤聰明

議院建築準備委員會委員被仰付
正五位勲三等工學博士　阪田貞一
従四位勲四等子爵　福羽逸人
従五位工學博士　塚本靖
（各通）
従四位勲四等　下條正雄
従五位工學博士　伊東忠太

議院建築準備委員會臨時委員被仰付
衆議院書記官　寺田榮
大藏省臨時建築部事務官　木本房太郎
貴族院書記官　宮田光雄

議院建築準備委員會幹事被仰付

（明治四十三年五月二十七日任命）

則ち當時首相兼大藏大臣たりし公爵桂太郎は委員長の重任を帶び貴衆兩院議長は副委員長となり貴衆兩院の有力者並びに朝野に於ける專門建築技師は六名を數へ其他諸般の設備に關する斯道の大家を加へてゐる、則ち數に於て質に於て誠に堂々たるものであつたのである。而して昨夏發表せられたる官制及び委員の任命は次の如くである。

議院建築調査會官制

第一條　議院建築に關する事項を調査する爲、大藏省に議院建築調査會を置く。

第二條　議院建築調査會委員は各廳高等官及學識經驗ある者を以て之を組織す。

前項の委員は大藏大臣之を囑託す。

第三條　會長は大藏次官之に當る。

第四條　會長は調査に關する議事を整理し、其決議を大藏大臣に具申す。

會長事故あるときは委員中首席の高等官其の事務を代理す。

第五條　議院建築調査會は會長の召集に依り開會す。

第六條　議院建築調査會に幹事を置く。

幹事は大藏省、貴族院事務局及衆議院事務局、高等官中より大藏大臣之を囑託す。

幹事は會長の指揮を承け庶務を整理す。

第七條　議院建築調査會に書記を置き大藏省、貴族院事務局及衆議院事務局判任官中より大藏大臣之を囑托す。

書記は會長及幹事の指揮を承け庶務に從事す

議院建築調査會委員（八月二十二日任命）

（會長被仰付）　大藏次官　市來乙彥

（委員被仰付）　衆議院書記官長　寺田榮

貴族院書記官長　柳田國男

內閣書記官　下條康麿

內務省地方局長　渡邊勝三郎

大藏省主計局長　西野元

（各通）

大藏省書記官　吉川良姐

大藏省技師　丹羽鈁彥

大藏省技師　矢橋賢吉

司法省技師　山下啓次郎

工學博士　塚本靖

工學博士　橫河民輔

工學博士　辰野金吾

衆議院書記官　土岐定應

貴族院書記官　宮田光雄

（幹事被仰付）　大藏省書記官　木本房太郎

之を要するに議院建築準備委員會官制の發布と各委員の任命とによつて當時政府當局者の意向は頗る明瞭である。則ち議院建築の準備委員會である、昨年度發布されたる委員會は議院建築調査會である、準備は實施に必要なる準備であつて、調査は計畫の爲めの調査である、則ち前者は計畫の確定と同時に實施に着手すべき重任を帶ぶるものであつて後者は改めて何事をか調査するのである、つまり大正時代に再び改めて調査を開始したと見る事が出來るのである。加之先年の準備委員會は大仕掛丈あつて總てが國民を首肯せしめ得る丈の組織を具備して居るのであつた、然るに前回は議論沸騰して計畫の確立を見ずして止み、今回は何等見るべき調査もなくしてしかも着々計畫を實行せんとするのである

時代が異なるとかうも違つた行方になるものであろうか、多年重要なる調査研究の歴史を有しながら、今日に到つて輕々しく事の決せられんとするのは果して如何いふものであろうか。

議院建築計畫と輿論

明治四十三年議院建築準備委員會の組織せらるゝや、民間に於ても政府の意氣込に刺戟せられて本建築計畫の成立を希望し、且つ重要なる意義を認めて一般競技案の採用を要求するに到つた、殊に國華倶樂部は早くも意見書を當路大臣に提出して注意する處あつた。建築學會は建築に關する學術技藝を攻究し、其進歩發達を圖るを目的とせるが爲めに進んで議院建築に關する特別委員會を組織し、次いで建議書を當路諸大臣に提出更らに公表書を公にして世の識者の注意に供したのであつた。

然るに準備委員會は七月半より月を追ふて調査を開始したが、要するに大藏省案の査定に止まつて、各委員は單に之が裏書を要求せられたるの疑あるのみならず、原案の設計には伊國復興式に本邦趣味を加味せるものを採用して外觀を整へんとするあり、加ふるに懸賞設計案は多數決によつて否決せられしを以て建築學會を中心とせる專門家は擧つて原案に反對を唱へ、輿論沸騰して、はしなく大問題となつてしまつた當時の意見書並びに公表書を見るに本建築に關する見解は實に堂々たるもので、其意義、內容外裝、設備に亘つて遺憾なき成案を得んとする誠意は襟を正さしむるものがある、不幸にして政府當局の見解は却つて民間一般の意向を曲解し爭の爲めに爭ふものと判斷し、民間技術家の主張論鋒は漸次に懸賞案件に集中して、重要なる根本義を忘れたるかの弊に陷りたるは最も遺憾であつたと惟ふ。今本建築の意義と重要なる論點を明かにする爲めに意見書を擧げてみる。

議事堂建築に關する意見書

帝國憲政實施以來二十年、今や國運の勃興制度文物の啓發日を趁ふて隆昌を加ふるの時に方り　聖代の鴻業、憲政の精美を表現すべき議事堂建築の大工事は近く準備に着手せられんとす本倶樂部は此國家的大事業に對して滿腔の誠意を捧ぐると共是が完成に就ては深く期待する所あるを以て特に招集したる

時總會の議決に基き茲に卿か蕪言を列れて希望を開陳す。

抑議事堂の建築は未曾有の盛擧にして　聖代の一大記念なり政府當局及代議士諸君の鋭意勵精是が完成に盡瘁せらるゝや論なし、此種の建築たるや單に規模の宏壯輪奐の偉麗を誇るを以て足れりとせず、能く一國學藝の靈粹を標榜し國民の精神を發して其當時を代表し後世に保存尊重せらるべき性質のものたるを忘る可らず往古　聖武天皇は大に土木を起し南都東大寺を建立し給へり。蓋し東大寺は總國分寺として諸國の國分寺を總轄せる大伽藍にして大佛殿は其本殿たると共に實に當時議政の道場たりき。其建築に國内の財帑を傾けたるも亦故あるかな政教一致の時勢なれはなり。而も今や好箇の記念として天平の盛時を偲ばしめ千載の後國家の珍寶として海外に誇るに至る。降つて德川時代に於ける城廓の如きも政令の府として儼然諸侯を威壓したる豪壯の建築亦能く時代を表現せり。斯くの如き代表的建築物を存するもの尠なからず。更に歐米諸國の歷史に徵するも其例亦乏しからず、各國議事堂の如きは皆其國風と其の特有の技巧とを競へり。翻つて我邦現時の建築にに見れば天平時代の大佛殿、德川時代の城廓に對して能く現代を代表すべき特種の建築果して幾何かある。今に於て明治建築の典型を特定せずんば何の時機か之れあらん。此際徒らに洋風建築の奴隷となりて模倣にのみ是れ勉るは抑も墮劣ならずや。歐米式建築の華麗は何人も之を認むと雖も單に其樣式を直寫して本邦に移し來る終に是れ歐米の特色にして日本建築とも明治の樣式とも稱すべきものにあらず、然るに近時の建築尙多くは是等歐米式の模倣を事とし、技術家及び材料をも海外に仰ぐの傾向あるは幾んど已むを得ざる事情ありと雖も、畢竟本邦技術家の未た世に誤認せらるるの結果に外ならず、假令現時の技術家は幼稚なりとするも、弘く衆智を蒐め、衆技を徵し、考究詮索して以て事に從はゞ、明治現代の學藝美術を發揮し國民的精神を代表して事業を完成する亦決して難事に非ざるべきを信ず。

之を要するに議事堂の建築は規模の宏壯輪奐の偉麗と共に能く國家と國民との特性を發現し時代を代表すべきものたらざるべからず、而して此の大目的を完全に遂行するは準備委員共人の能力如何に在り、政府及議會は十分其人選に留意する所あるべきを信ずと雖も、其範圍の狹少に失せずして弘く當代の政治家學藝美術家を網羅し、衆智を集めて內外建築の長を採り裝飾及器具の如きも亦歐米以外本邦の特色を發揮せしめ此不磨の大事業をして一層光輝ある完成を告げしめんことを切望するものなり。

學藝及美術に關する本倶樂部は議事堂建築の如き國家的事業に對し且は進んで獻言し之を幇助するの天職を自認し且つ技術上の諮問に應じ藝術の發展に努むるの責務あるを感じ敢て管見を披瀝すること斯の如し。（明治四十三年三月國華倶樂部）

帝國議院建築準備に關する公表書

帝國議院の建築に關し吾が建築學會は本月十四日特に臨時總會を招集し其議決に依り敢て本會の意見を吐露して天下に公表せんと欲す。

我國憲政を布きてより既に二十の星霜を經たり其間短しと雖

ふべかうず、而るに帝國議院の建築は屢企畫せられて屢中絶し調査に踵ぐに調査を以てし尚其決行を見るに至らざるもの固より幾多の原由ありしならんも、畢竟政府がかゝる大事業に對して愼重苟もせざりしと機運の未だ熟せざるものありしとに由らずんばあらず、今や國運惟れ揚り民度また昔日の比にあらず、政府こゝに其經營に一歩を進め、議院建築準備のため若干の委員を置かんとし將に帝國議會の協贊を得んとす、此の如くにして議院建築は今や直に準備の一歩を進まんとす政府は如何にして之を遂行せんとするか國民は如何にして之が遂行を期待すべきか惟ふに政府は聖代の大業を荷もせざるべし國民亦之れを冷視することあるべからず。

然れども世間往々にして行掛上不知不識事理の眞義の沒却せらるゝものあり、爲めに重大なる事件にして比較的不注意に輕擧遂行せらるゝもの其例に乏しからず、若し不幸にして帝國の議院建築が此種の非運に會するが如きことあらば、明治聖代は嗤を天下に招き責を後世に貽はざる可からざるに至るべし。

是れ本會が政府今回の擧を贊すると同時に頗る憂慮に堪へざる所なり、蓋し議院建築は明治の聖代を表章し憲政の創始を紀念すべき一大偉業なり、其規模結構は直に我國體を表現し、我民性を發揮し之を宇内に示して誇るべく之れを後昆に傳へて愧づるなかるべき者たらざる可からず、我國體は特殊なり、我民性亦特殊なり、此特殊の性質は我日本國民にして始めて之を融會し我國民の作成せる藝術にして始めて之を發揮することを得べし、決して海外國民の了解し得る所にあらず、曩日我藝術界の幼稚なる時に當り我當局者は外國建築家を聘して議院建築の計畫をなさしめしことありしが機未だ熟せず遂行するに至らずして止みしは實に邦家の一大僥倖たりしなり。

爾後議院建築が屢計畫せられて屢廢し、茫茫二十餘の星霜を經し者豈に天の特に我聖代に幸せし者にあらざるなきを知らんや、此間に於て我藝術界は異常の進歩をなし今や各方面に於て多士濟々として輩出し此大任を負荷する亦難からざるを覺ゆるに至りたり。然れども此の如き大事業を遂行するに方りては藝術界尚未だ解決を要すべき幾多の難問題の前途に横はれる者あるを覺悟せざる可らず。

之を樣式に見んか從來の我木造建築は未だ公共的紀念的建築に適する迄發達するに至らず、新たに歐米より輸入せられたる洋式建築亦未だ我國民の趣味に同化せらるゝに至らず、此の如くにして我明治の聖代を代表すべき國民的樣式の華は尚固く蕾を結んで一陽來復の機を待つ者あるに似たり、此時に當り議院建築の擧は實に青帝來蒞の一大吉音を齎らす者我建築界は此機運に乘じて如何なる樣式を開拓し聖代藝術の精華を天下後世に顯揚せんとするか是れ現代建築家が心血を傾倒して研鑽せざる可からざる大問題なり。

更に之を構造に見んか議院建築は萬世に傳ふべき記念的永久的のものたらざる可からず、其耐火構造たるは勿論我國の如き頻繁地震の虞ある地に在りては最も耐震構造に重きを置がざる可らず、吾人は如何なる材料を用ひ如何なる方法を採る可きか是れ亦現代建築家が全力を擧げて攻究せざる可からざる大問題

なり。

其他音響學上衛生學上諸般の文明的設備の上に於て今日の最も進歩せる科學的知識を集注してせざるらざる大問題極めて多し、是れ普通の官衙學校等の建築と異なり簡單なる頭腦によりて經營せらるべき者にあらず、須らく衆智を窮めて研鑽を盡さゞるべからざる所以なり。今回政府が準備委員會を組織して議院建築實施の大方針を樹てんと欲するの意蓋し亦此にあるべし

然れど此準備委員は議院建築に關し大方針を畫策するの大任を擔ふ者なれば其其選任に就きては當局者亦愼重なる態度を以て銓衡すべく事務官及兩議院より成る所の委員は本會の關知する所に非ずと雖も特に建築家より成る者に至りては本會が今日社會に於ける上風馬牛視する能はざる者あり、蓋し其獻策規畫は最も重大なる要素となるべきを以て萬一選任其當を得ざらんか其規模方針偏狹に陷り、現代の建築界の意見を代表するを能はず其結果委員全體の方策を誤るを虞なきを保せざればなり。本會事に學術に從ふ者一言以て警告する所なくして可ならんや

蓋し建築家を知るは建築家なり、故に政府が建築の學術界を公平に代表すべき委員を選任するに當りては之を建築家の團体たる本建築學會に諮詢するを以て得策とす可し、本會亦自ら進んで敢て貢獻する所あらんと欲するなり。

本會建築に關する學術技藝を攻究し、其進歩發達を圖るを目的とし、明治十九年の創立以後會運世と共に進歩し、現今會員の數無慮二千を超へ、建築の學術を修むる者建築の業務に服する者は朝野を問はず總て會員に網羅し、本邦の建築界を代表する唯一の法人團体なり、されば現代建築界に生起する細大の事端に關し本會は成敗利鈍共に天下後世に對し決して責任を免るゝこと能はず、是を以て議院建築の如き重大事業の經營に就きては本會は國家の爲め進で自ら其義務と信ずる所を盡さんと欲する者なり。

夫れ國家事業は國民の事業なり、之れが光輝ある完成を告げしむるに於て國民も亦當然の權利と義務を有することを自覺せざるべからず、而して本會は特に其義務を負ふこと重大に其責任を帶ぶること痛切なり、敢て意見を吐露して天下に公表する所以なり。

明治四十三年三月十七日　　建築學會

斯くて建築學會は公表書を配布するのみならず前後數回に亘つて講演會を開催して輿論を指導するに努力し、亦、雜誌、新聞紙上等に發表せし名論卓說は擧げて數ふるに暇なき程である。

結局當時の論議は沸騰して、朝野專門家の爭と化してしまつた如くに爲つたけれども、兩者の論點は主として樣式並びに懸賞案の二件に集中されてしまつたのであつて、議院建築が吾國主要なる建築の第一であつて明治時代を倶象する意義に對する見解は立派に確立して居つた、殊に輿論を指導した各專門家の意見並びに早尙

論を主張した智識階級の名士の論點には其手段方法時期等は夫々の異同があつたにせよ、記念建築としての理解は一樣であつて敬服に値するものが多い。

乍然今回の調査委員會の決議事項を考一考して含味してみたら當代の建築家は默して止むべきでないと思ふ。昔は昔今は今と云ふ區別はないのである議院建築の重要なる意義は日本帝國の在らん限り消滅する筈がない。往年の宣言を偲んでうたゝ感慨に堪へぬ事が多い。若し一昔の騷動ば何か爲めにする處あつたんだと言はれたら益々面白くない事であると思ふ。

議院建築計畫と早尚論

議院建築準備委員會に於て「コンペチション」案が否定せられ建築學會を中心とする專門家は殆ど熱狂的体度で輿論の喚起に力め數回講演會を開き、雜誌並びに新聞紙上に夫々自論を發表したけれども一般國民は平然として何等の反響も起らぬ樣であつた、殊に往年の建議案に熱心な注文を提出した衆議院の諸士は、寧ろ專門家の反對のために折角の計畫案が板挾となりそうなので困つた樣であつた、これはむしろ多數を以て「コンペチション」案を葬つた返報である樣な結果と觀ても差支ない樣である。乍然元來衆議院は本建築の計畫には大賛成である。一日も早く實施を要望してゐるのである、のみならず少なくも外國に對して誇り得る程度のものとしたい願望もあるのである。則ち大規模の計畫の下に堂々たる記念建築を要求するに反對はない筈である。「コンペチション」否決の一件はむしろ譯が解らずに雷同した樣なものであつたそれ故樣式の議案も「現代國家興隆の精神を發揚するに足るべきもの」といふ修正に賛成してゐるのである。

しかし貴族院の議員諸氏には、我國の現狀はしかく大規模の議事堂を建設する時期でないといふ論者があつた樣だがこれは比較的有力な議論であつて、民間の新聞紙上にも此種の論說を發表したのもある、建築の尚早論は然しながら

決して記念建築といふ事や國民的大建築であらねばならぬといふ点に付ては異議がないのである、尤も其論據から見ると大体二樣の見解があつた。一つは經濟的に觀察したのであつて、他は精神的に研究したのである、今此の二のの意見を念のため紹介しておきたい。

議事堂建築と財政

（某新聞紙論の一節）

日比谷の議事堂は勿論一時的假建築の事なれば早晩日本帝國の議院として恥ぢざるまでの、堂々たる本議事堂を有せざる可からざるは言ふ迄もあらず。左れば政府に於て過般來委員を設けて議院建築に關する諸般の調査研究を進め、既に來年度豫算には僅かながらも準備費として四十餘萬圓を計上するに至れり、而して其完成に何年を要し經費總額の幾何なるやは未だ詳細に知る可からざるも、今日の所にては約二千萬圓を要することゝなり居れり、二千萬圓といへば今日の窮迫せる財政より見て、決して少額とはいふべからず、現に財源不足のため、國防上に必要なる海軍擴張費さへも僅々八千萬圓の少額を以て甘ぜざる可からず、而して多年叫ばれたる減稅の如きも來年度に於ては殆んど其望なく前議會に政府が約束せる所得稅輕減さへも、今日は最早や立消にならん有樣なり議院建築の必要は余輩の固より認むる所なれ共、右の如き財政狀態に頓着なく、取急ぎて工事に着手するは果して如何、前後緩急の計量を誤れるの譏はあらざるか、殊に議院建築其事に關する余輩の希望は我日本帝國の學術技藝の華を蒐めて之を議院建築の上に表はし、以て我邦現代の文明を後世子孫に傳へんとするに在り、此希望は恐らく獨り余輩に止まらず國民多數も然るべしと思ふ、左れば殊更ら財政窮迫の際に財源の制肘を受けながら取急いで建築に着手するよりも、他日餘裕の生ずるを待つて充分なる設計を以て思ふ存分の大建築を試むるが可ならずや、此の點に於て余輩は議院建築費の計上を成るべく今少し後年に延期せんことを望む。（後略）

要するに當時の國家財政の窮迫を觀て大に憂慮せるための延期論である。若し財政に餘裕あらば大にやるべしとの意見である。

次に精神上からの觀察によつて時期早尚論の代表的意見として建築學會の講演會の席上で發表された貴族院議員澤柳政太郎氏の演說筆記を茲に紹介しておきたい。

明治時代の建築としての議院建築

私は日本人の特長は何れの點にあるかと云ふを曾て考へたことがあるのであります、而して日本人の特長は他の長を採つて我短を補ひ、以て同化するといふ非常の力、是が日本人の長所であつて、又日本が今日まで立派なる歷史を現はして來り又今後に立派なる發達を爲す所の根本的の基礎であると深く信じて居る者であります、之を文明に就いて考へて見まされ

ば、最初我々の祖先は三韓の文明を模倣いたして、單に模倣したばかりてなく、之を同化して更に立派なる日本の文明を造り出し、而して後には支那の文明を採りまして之を我日本の物と致しましたのであります、最近に於ては泰西の文明を盛んに輸入して、又現に盛に之を同化して更に泰西の文明其者よりも優れた所のものを作り成さうとして國民が各努力をして居る次第である。

（中略）左然よく考へて見ると生活の基礎である所の衣食住といふやうなものに於て未だ同化の作用が現はれて居らない、今日は煩悶の時代にあると申しますか、動搖の時代にあるといふか、或は漸く氣が付きかけた時代にあるといふか必ず將來に此問題を決せらるゝことであると思ふのであります、又決せなければならぬと私は信ずる次第であるのであります。

美術といふやうなものに於ても現に今日動搖がある、在來の日本の繪畫に致しましても亦西洋の影響を與へんとしつゝある、又一方に我繪畫が彼に多少の影響を受けんとしつゝある傾向も見ゆるやうである、兎に角總ての物に於て必ず同化の作用が行はれることであらうと私は信ずるのであります。

建築のことに付きましても近來伊東博士の如き或は關野博士の如き日本古代の建築或は東洋古代の建築等に付て段々新たなる御研究があるのであります、是は誠に近頃のことであるかと思ふ、少くとも斯の如き意見に世人の注意を惹くやうになりましたのは、極めて近來のことであゐ、併しながら其意味は大いなるものがあろうと思ふ即ち從來は洋風の建築、日本風の建築と唯何等の關係が無い、別々に歩いて行つて居つたのでありますが、今日は接觸をして來て、如何に之を調和するか融和しなければならぬかと云ふやうに、新しい西洋建築の學問をされた方も追々考へて來た、東西建築を調和しやうといふ其傾向が現はれて來たと思ふ、誠に喜ぶべき傾向である、既にそれ等の調和を或る程度まで試められた人も必ずあることであろうと思ふ併し大体に於て觀察して見ますれば、今日は動搖の時期である如何に調和しやうかといふことを煩悶しつゝある時代であろうかと窃かに考へる次第であるそれで今日若し國民の直接關係を有つて居る所の議院建築の如き之を今日に實施すると致しましたらば何う云ふ結果を生ずるか、如何に衆智を集めると申しましても、私は其の結果を豫測することが出來やうと思ふのであります、窃かに聞く所に據りますれば、建築準備委員會に提出された所の原案は或る樣式を取つて是れを以て我が建築に擬せやうと云ふことであつたと云ふ又此建築學會は盛んに歐羅巴等に於て行はれる所のコンペチションの方法に依つて衆智を集めて國民の精神の現れた所のものを寄つて造ろうと云ふ御考のやうでありますが此事は建築準備委員會に於ては否決されたといふとを聞いて居りますが、假りに此議が採用されて而して、コンペチションに附したとした所が如何なる結果が出るであろう私は大体に於て其結果を豫測する事は難くないであろうと思ふ則ち大体に於て申しますれば歐羅巴にある所の樣式を採つて來る外はない、唯違ふ所は全く眞似るか或は其眞似方がまず

いかと云ふ遠慮であろうかと思ふ、伊太利風のルネツサンスを採るか、或はヂヤーマンルネツサンスを採るか、或は英吉利に於て近頃興つた新樣式を採るか、大体に於てさういふ範圍を脫することはなかろうと思ふのであります、而して是は今日に於ては免れ難いことである、則ち當然のことである、斯の如き大建築を爲さうといふのに當つてはどうしても他に手本のある一定の樣式に依るといふ考になるのは已むを得ない如何にコンペチションに附しても私は其結果は大体知るべきのみであると考へるのであります、さういふことになりましては則ち此大建築、大いに意味のある大建築といふものが單に西洋の建築の樣式を眞似て採つたと云ふことになるであろうと信ずるのであります、之を後世の子孫に遺して明治の四五十年に於ては漸く斯くの如き模倣に過ぎなかつたものであるといふことを遺しても歷史上の事實としては、或は面白いかも知れない、或は意味のあることであるかもしれない、併しながら東西両文明の粹を融和して新たなる文明を造り出すのが今日我々國民の使命であるといふやうに自負心を持つて居る所の我々は甚だ遺憾としなければなるまいと思ふのであります。（中略）

然らば如何としたらば此議院建築を明治時代を代表するが如き建物と爲すことが出來るか、兎に角今日はどうしても誠に動搖しつゝある時代である故に、此時代を經過いたしましたならば茲に必ず彼に優る所のものを造り出すことが出來ると私は信ずるのであります、故に議院建築といふことは若しも之を重大なることであると致しましたならば暫く此の動搖の時期を過ぎて、而して後之に着手するといふことが當然のことではないか、今は着手するといふことでありましたならば如何なる方法を採つても私は到底明治時代の建築として誇るに足る所の建築を見ることは出來ないと考へる次第であるのである。（中略）

兎も角私は議院建築といふものに重きを置く、而して是は明治時代を代表する所の建築物と致したい、洋式の模倣たらしめたくなく、我々日本人の最も長所とする所の同化する力を此建物の上に表すものたらしめたいと云ふ趣意よりして此議院建築の時期に付て政府者並に諸君の大に講究せられんことを希望する次第であるのであります、私の意見は甚だ簡單である、唯此標題に掲げました如く明治時代の代表的建築として之を他に示すことが出來、又後世に遺すやうに致したいそれには今日恐らくは其時期で無かろうといふことを信じて茲に一言した次第であります。

因に議院建築準備委員會に於て樣式は我が勃興的精神を表すものを採るべしと決したのことである、此の精神は甚だ贊成で、則ち予か茲に述べた所と一致する、併し勃興的精神を表する樣式は何んであるか、それは今日まではないこれから作り出さなければならぬ、委員會かかく決してもそれで其の樣式が直ちに出來るものでない假すに相當の年月を以てせねばならぬ、予は信ず誠實に右の決議を實行せんとしたならば、必ず予の議論の如く數年は少なくも延期

せざるべからざるを、若し彼の決議は原案の如く早き近代の伊太利チッサンス式を唯否認するの意に過ぎずとせば殆んど意味のなき決議であると思ふ、建築家がかゝる決議を見て怪まぬのは大に怪まざるを得ない。

要するに同氏の意見は堂々たるものがあるが記念建築として議院建築の様式に就きては特に大聲叱呼して論じて居られる。

同氏は我國の現狀の動搖は近いうちに解決が付くであらうといはれてゐるが、徒らに時期を待つて居るうちに時代はどん〳〵變つて行つてしまつて全く掛け違つた時世に成てから昔の記念に建築をするといふ様な矛盾に陷る事に氣が付かれて居られない、時代々々の建築は其時代の思想なり藝術なり技術なりを偽らないで倶象する處に意義があるのだから明治時代の記念建築ならば明治時代に什うにかして建てる必要があるだろう、つまり尚早論は程度問題であらねばならぬ。

議院建築計畫と確定議案

議院建築準備委員會は四十三年七月中旬から開催され十二月下旬に終つて居るが其議案は十六項より成り、各案の理由書及圖面が附屬して居つたが、十五項に修正確定された。

就中問題となつたのは第六號案であつて伊國復興式に本邦趣味を加へて様式とした原案は見事に修正されて、原案は根本的破壞されてしまつたのであるが、いはば多くの專門家の要求した「コンペチション」案を多數決で否決した報酬であつたのである。從つて當局者は委員會の議決によりて確定によつて更らに計畫を新たにしなければならなかつた。

乍然翌年の議會では遂に貴族院の豫算總會に於て國費多端の折柄、經費の節減を計るのがよいとの希望を可決した、其要旨とするところは元來議院建築に千七百萬圓を投ずることは贅澤の誹を免れない、元來此の豫算額は大藏省が机上での概算であるから、如何やうにも節減されべき餘地がある、のみならず永田町の如き脆弱な地盤に石造りの巨大なる耐震家屋を建築するのは不適當であるから、米國の議事堂の如く鐵骨の建築とすれば持ちの上から云つてもよく經

費の上からいつても大によい筈であるし、又將來は議員も增加すべきを以て室內改造にも自由なる方法を以て建築することが必要であるから最初議題となつた記念物的の建築は不必要といふ理由で否決されてしまつたのである。

此のために二十七議會に於て通過した準備費四十萬圓を得ながら計畫は全く頓挫してしまつて爾來立消の運命に逢着したのである。

準備委員會は決議事項の確定後解散されたが事務は其後大藏省臨時建築部で引續いて今日に至つて居る。

以上の往路によつて龍頭蛇尾の結果に終つた議院建築問題は其後閉息の外なかつたのであるが、此の結果に對して非常に殘念に思つたのは兩院の翰長である、折角歐米三界迄も出掛けて多年の懸案を解決しやうとしたに此の破綻を見たのであるから無理もない事である。

四十四年の秋の頃新聞記者に語つた兩院翰長の談話は此の間の消息と今回の調査會原案の出所とを語るものがあると思はれるから擧げて見る。

太田貴族院翰長曰く「議院建築問題は該委員會解散後は大藏省建築課に於て調査せられて居ることなるべし、而して本年貴族院に於ては政府提出案は過大に失するを以て更に設計を改め提出するか又は延期すべしとて承諾を與へざりし際に於て某々有力者は議院建築は之をなすを可とするも現在此の如き大建築を托するに足るべき技師乏しかるべし、又一面現在の議院に小修繕を加ふれば急遽建築の要をも認めず而も尙ほ國費多端の折柄約二千萬圓の支出をなすが如きは絶對に不同意なりと主張したり、余は此際建築すとせば彼の堂々たる東宮御所すら五百萬圓にて完成せる程なるを以て五百萬圓位にて半永久的の建築をなすを以て適當なりと信ず、委員會當時に於ける委員及專門家の說に依るも屋根の如き雨漏を防ぐことさへ完全ならざる今日なれば內部の裝飾の如き日本當代の美術の粹を蒐むと云ふも雨漏を生じて折角の美術も一期の大雨に忽ち汚損するを免れず故に余は結局延期

を適當なるものと信ず。

林田衆議院翰長曰く「昨年余は委員たりしを以て委員會に於て五六百萬圓位にて半永久的に築造しては如何と發案せしも某博士の贊成ありしのみにて貴族院側の委員中にも一人の贊成者なかりし次第なり、然るに本年の貴族院委員會に於ては過大なりとの理由の下に否決されたるは甚だ解し難き點あり、余は余の意見としては此際政府は貴族院の云ふ如く過大なりとせば設計を改め五六百萬圓位にて半永久的の物を建築するを最も適當なりと信ず、之を要するに委員會にて決定せし案は工費二千萬圓十五ケ年計畫のものなりしが之を過大といはゞ其設計を改め前述の如き半永久的ものが極めて適切ならん。」

これやこの昔語の一節であるが、羹に懲りて膾を吹くの譬に漏れず今回大藏省當局が實施に急ならんとするの餘り、策のために、諸物價暴騰し工手間高價なる今日に尙不徹底なる半永久的建築を以て本年議會に望みつゝあるの結果たる事推察するに難くない、東宮御所と議院建築とは一寸比較するのは考へものであるが、豫算を減じて迄計畫を縮少し貴族院の御機嫌に觸れざらんとする體度の如何に姑息なるよといひたい、往年貴族院が無理に否決したのは他に理由のある事であろう、要するに貴族院には建築に關して頭のある議員が居らぬ、將來を慮り百年の後を憂へて充分にして必要なる丈の計畫を立てゝ以て現狀を救濟する場合に贅澤とは可笑しい事だ家の構へに應じて經費の增大するのは當然の事である、財政が許さぬといふのなら解つてゐるが、地盤がどうの、机上の計算がよくないといふに到つてはちと立入過ぎては居るまいか、今回の計畫案にしても初めから何も遠慮してビク〳〵ものゝで發案する必要が何處にある、必要の條件丈は是が非でも具備せしめてかゝらねばならぬ事である。そして貴族院議員諸氏に會得の出來る丈の說明に努力して理解ある審議を乞ふべきである。今に於て當局者の意氣地なき體度は將來に益々暗影を加へたものといわねばならぬ、調査委員會の審議は果して誠意ある

研究であろうか、過去を顧みて衷心恥づる所ないだろうか。

今茲に前回の議院建築準備委員會の議案及確定案を擧げて、今回及將來の參考としたい、そして此の重要なる議院建築をしてあたら變手古な不具建築たらしめざる樣一般識者の猛省を乞はざるべからざる事を切言するのである。

議院建築準備委員會議案

議案目次

第一建物敷地　（第一號圖面及理由書附屬）
第二所要室數及其坪數　（別表及理由書附屬）
第三建物の位置　（第二號圖面及理由書附屬）
第四建物の階數　（理由書附屬）
第五各室の按排　（第三號圖面及理由書附屬）
第六建築樣式　（理由書附屬）
第七大体の構造及主要材料　（同　上）
第八裝飾　（同　上）
第九室內裝飾樣式　（同　上）
第十音響に關する議場の形狀及構造　（同　上）
第十一煖房法　（同　上）
第十二電氣設備　（同　上）
第十三採光法　（同　上）
第十四院內特種通信掛　（同　上）
第十五庭園　（同　上）
第十六工費見込額及工事年限　（別表附屬）

第一號議案

一、議院建築豫定敷地の位置、形狀及坪數は左の如し。

位置　麴町區永田町

形狀　別紙第一號圖面の如し。

坪數　在來豫定敷地　一八、六〇五坪
　　擴張見込敷地　八、八〇〇坪
　　計　二七、四〇五坪

右を議院建築敷地と定むるの可否

第二號議案

一、議院本館の所要室數及其坪數を別表の通りを定むるの可否

（議院本館の所要室數及增數表を省く）

第三號議案

一、建物の位置を別紙第二號圖面の通りを定むるの可否

第四號議案

一、建物の階數は地下層、地階、主階、二階及三階（左右兩翼及中央部のみ）の五層と爲すの可否

第五號議案

一、各室の按排を別紙第三號圖面の通りを定むるの可否。

（各階の平面圖を省略す）

第六號議案

一、建築樣式は伊國復興式を取り勉めて本邦趣味を加へ以て本建築の樣式となすの可否

第七號議案

一、大体の構造及主要材料は左の通り之を定め、其構造及裝飾材料とも本邦品を資用し已むを得ざるものに限り外國品を用ふるの可否

一、地形　鐵骨總コンクリート打

二、壁　鐵骨煉瓦積外部石造

三、屋根　鐵筋混凝土構造、土瀝青及泑藥瓦葺、但、塔、圓蓋等の屋根を除く。

四、床　鐵筋混凝土構造

第八號議案

一、裝飾は構造的裝飾に止め美術的裝飾は漸次に之を施行するの可否

第九號議案

一、室内裝飾御樣式は外部と直接の關係を有する部分は建築樣式を一致せしめ其他は勉めて本邦樣式を加味するの可否

第十號議案

一、音響に關し議場の形狀及構造を左の通り之を定むるの可否

(一)　室の形狀　短形

(二)　室の大さの比例　幅三奥行二とし高さは傍聽席二層を設け得る程度に於て可及的之を低くす

(三)　室の選角、小圓形の隅切壁

(四)　壁面　可及的平面を避け凸凹を設く

(五)　天井　平坦なる格天井とし中央部は採光の用に供す

(六)　裝飾材料　可及的木材を用使す

(七)　同　絨毯敷

(八)　議席　演壇を中心とし半内狀の階段形に排列す

第十一號議案

一、煖房法は總て中央供總式を取り左の區分に從ひ之を定むるの可否

(一)　議場は「プレナム」熱空氣上昇煖房法

(二)　事務室部屋等は「プレナム」熱空氣煖房及蒸氣煖房法を併用

(三)　其他は總て蒸氣煖房天然通風法

第十二號議案

一、電氣設備は館内に發電所を設け特に蓄電裝置を備ふるの可否

第十三號議案

一、採光法は電燈を專用し、議場は天窓より採光するの可否

第十四號議案

一、院内通信機は普通設備の外特に電鈴信號器、電氣照呼器壓搾管送器、信書輸送器及電氣報知器を用ふるの可否

第十五議案

一、庭園は本邦式を主とし建物に調和せしむる爲め外國式を加味するの可否

第十六號議案

一、工費見込額及工事年限を別表の通り之を定むるの可否

議院建築工費見込額表

一、金百四拾七萬九千百五拾圓

補充敷地購買及家屋改築移轉費

內

二六四、二四〇円　擴張敷地購買費

四五二、七六〇　總理大臣官邸其他改築費

七六二、一五〇　樞密院事務局其他改築及清國公使館其他移轉費

一、千四百四拾五萬九千百四拾七圓　建築費

內

八二、二一五円　敷地坪平均費

工事年限表

年次	初年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年
功程歩合	分厘毛 四五	五三	五五	五六	五八	九五	一〇四	一一〇	九八	八二	六五	五三	五一	四五	三三
功程累計		九六	一五二	二〇七	二六五	三三〇	四六四	五七四	六七五	七五三	八五八	八七一	九二五	九六七	全部

議院建築準備委員會確定案議案

第一號議案

議院建築敷地の位置形狀及坪數は左の如く之を定む。

位置　麹町區永田町

形狀　別紙第一號圖面の如し

一〇、九九七、〇一四　本館新築費

二三一、九五〇　門、園障其他附屬建物費

一一二、九一〇　庭園及道踏費

四三、八四八　構內線水排水及電燈設備費

五二一、四〇五　敷物、日除、窓掛及家具費

四一三、七〇〇　煖房及通風設備費

四七〇、一〇〇　電力及電燈設備費

二四六、五五〇　昇降機、電信、電話其他諸雜費

七七一、九〇五　工事用機械器具雜工事及材料調査其他雜費

四八四、二〇〇　工事用機械運轉諸掛費

八三、三五〇　工事中修理費

一、金百三拾五萬四千七百五十五圓　事務費

會計金千七百二拾九萬參千五拾二圓

坪數　在來豫定敷地　一八、六〇五坪
　　擴張見込敷地　八、八〇〇坪
　　計　二七、四〇五坪

第二號議案（修正事項）

貴族院の部

一、議場
（イ）議席は四百五十席とし一席四合五勺以上とす
（ロ）傍聽席は適宜
二、正門を行幸門とすること、
三、議長室附近に「サロン」を設くること、
四、豫算委員室は現在の長方形は長に夫するを以て坪數を增し且適當の程度に改むること、
五、豫算委員室は可成下階に設くること、
六、新聞雜誌閱覽室は休憩室を以て之に充つること、
七、食堂を地階（第一階）に設け別に小食堂を設くること、

衆議院の部

一、議席
（イ）議席は音響其他の關係上學理の許す範圍内に於て五百人以上を容るゝに足るべきこと、
（ロ）議席は一席約四合五勺（議員席は三合五勺）とす、
（ハ）傍聽席は約千人を容るゝを標準とすること、
二、貴族院に同じ
三、同　上
四、議員控室及委員室は左の室數及坪數とす、

約二百五十人のもの　一室
約二百人のもの　一室
約五十人以上百人以下のもの　三室
幹部室　五室
豫算委員室　約百十五坪
委員室　約四十二坪　一室
同　約三十三坪　五室
同　約二十坪以上三十坪以内、十三室

五、貴族院に同じ
六、同　上
七、食堂は約百二十坪となし其他貴族院に同じ、
附、原案の「談樂室」「酒保」等の名稱は「喫茶室」又は「休憩室」と改稱すること、

以上の室數及坪數は豫算の範圍内に於て全部之を排列することを得ざるときは議場其他重要なる室房以外に於て貴衆兩院事務局の意見を基礎とし適當に之を定むるものとす、

第三號議案

否　決

第四號議案

建物の階數は地下層を加へて四層とす、
一尺平方の荷重力を二噸以内とす、

第五號議案

各室は貴衆兩院事務局の意見に準據し適當に之を按排するものとす、

第六號議案

建築の樣式は現代國家隆興の精神を發揚するに足るべきものとす、

第七號議案

構造及材料は左の通り之を定む、

一、材料は本邦品を資用し不得止ものに限り、外國品を用ゐるものとす、

一、構造

(イ) 地形　鐵骨「コンクリート」打

(ロ) 壁　鐵骨煉瓦積外部石造

(ハ) 屋根　鐵骨鐵筋混凝土構造

(ニ) 床　鐵骨鐵筋混凝土構造

第八號議案

美術的裝飾は構造と相伴ふて之を施行するものとす、

第九號議案

削除

第十號議案

議場は第二號議案の決議に準し適當に之を定め反響と直接音との差十分一秒以内たらしむべし、

第十一號議案

煖房法は中央供給式を取り凡そ左の區分に從ひ之を定むるものとす、

一、議場は「プレナム」熱空氣上騰煖房法の類、

二、事務室等は「プレナム」熱空氣煖房及蒸煖房法の類を併用、

三、其他は總て蒸氣煖房天然通風法、

地下室に濕氣豫防裝置を爲すものとす、

汽罐室は之を館外に設くるものとす、

第十二號議案

電氣設備は館外に發電所を設け特に蓄電裝置を備ふるものとす、

第十三號議案

人工採光法は電燈を採用するものとす、

第十四號議案

院内通信機は普通設備の外特に電鈴信號器、電氣照呼器、(エレクトロ、ゲミカルコールヂスクの類)壓搾管送器、信書輸送器(レッターシュートの類)及電氣報知器(アナンシエーターの類)を用ゐるものとす、

第十五號議案

庭園建築の樣式と調和するを主眼とするものとす。



會員の聲

會員　夏雲生記

舊臘より例平になき寒氣にて、飛雪我四摩那六甲の巓を染め、生駒葛城連山の膚を白ふせる如何なる風の吹き舞はしにや、北陸、山陰兩道の雪害頻々、遂に東海道線亦列車の立往生をなせる、數十年來の椿事なるべし、實にや東都に在りても絶ねて久しき玻璃世界を現出し、千代田城濠、氷滑の遊戲をなし得たるの報ある宜なる哉。

煤煙の大都六花紛々たりし夕、さる倶樂部に集まりて、問題の議院建築に就き、意見を交換せんとの催あり、余も亦末席を穢して後學のため諸兄の議論を拜聽せんものと、西風寒き夕暮に、人影稀なる、高麗橋通を西へと趣きぬ。

洛北の雪を犯して來れる人、須磨の浦の繪より抜け出でし人、泉南の松風に想を練らるる人さては宇治の川霧たへ〳〵なる中を車上馳せ付けたる、天王寺のほとり閑靜の住居より、或は武庫川原の別莊より、又は伊丹池田の酒の香を載ひたる、夫々に眼鏡を光らし、シガーを燻らし、或は美髯を拈りて、各椅子に依りて、談話室を占領せるこそ見物なれ。

余の扉を排して遲參せる頃は、談話も始まりたりと見へ、紫煙天井に漂ひ、破顏大笑、呵々高聲は室外の客を驚かしつゝありき。

西寄りの椅子に掛りて圓卓の一隅に頰杖つきし、泉南氏は語をつぎて。

『吾輩も亦さう思つた、前回の失敗に懲りて、當局者も餘程神經質になつたに違ひない、勿

論建築專門家の反對論には閉口したに相違ないが、大藏省としては兩院議員の意向、殊に貴族院の否決には大痛棒を喰つた樣なものだからな、衆議院の方はむしろ初めから進んで賛成して居るのであるし、建議案を二度も提出してゐるのを見ても、一日も早く本建築の着手を希望して止まないのであるが、貴族院の方は其の代表者が委員會で賛成をして居るに係らず、愈豫算案討議の際には見事に脊負拋を食はして居るのだから、餘程徹へてゐるさ。』

と冷やかなる笑を漏らせしが、伊丹氏は、

『林田書記官長の談話を見るに餘程、殘念であつたかの樣だね、什うかして成立になる事を希ふてゐる人だから、特に折衷説を出して見たのだらうが一人しか賛成がなかつたといふのだらう、それでとゞのつまりは萬事水泡に歸したんだから、つらかつたに違いない、洋行までして來た骨折も無になつたんだものハヽヽ。』

と笑はれぬ、長くもあらぬ髯をつまみて、隣の武庫氏を顧みるに、武庫氏は、

『しかしね、政府案に動きの執れぬ樣な致命傷を與へたのはやはり學會の連中さ、ともかくあの結果を見ると政府案は骨拔となつて、計畫案は根本的にやり直さなければならぬ事になつて居る。考へて見ると氣の毒な譯ではある、乍然もし林田説が或立したなら貴族院も通過したらうし、建築家も「コンペチション」を何處迄も主張しなかつたらうし要するに原案があまりに大規模で賛澤と見られたのが惡かつた。」

宇治氏は默することの出來ぬ性分にや、

『大規模だから賛澤といふは受取れぬぢやないか賛澤といふのは必要のない處へ金を掛ける事ぢや、僅か千七八百萬で賛澤は心細い話だ況んや七百五十萬圓説に至つては議院建築の意義を知らぬといふものではないか、記念建築といふと金をうんと掛けて裝飾を澤山使つて、一國の藝術の粹を集めなければならぬ樣

に思つてる連中もある様だが、我が國の最重要なる明治時代の代表的建築として、耻かしからぬ外容と、今日の科學的智能を盡した、充實せる内容を具備するものとする事が、最も大切な意義であるに係らず、此度の當局者の説明によると、外容は什うでもよい、内容の完備に力を注いでやるといふ、そも〳〵議院建築の精神を沒却した話で、考への小さな事、只呆れざるを得ないぢやないか、こんな怪痴な考を持つてゐる連中が、寄つて居る以上は、たとへ門外漢たりとも默つて居る譯には行かぬと思ふ、一体今日の物價暴騰に加へて工手間賃の高價な時世に、あんな貧弱な豫算で何が出來る、のみならず、その工程に十箇年を費すといふに至つては御話にならん、三年が五年で澤山だ、或米國の技師が日本で議院建築をやるなら、俺に任せろ、二年間で立派にやつて見せると、云ふたとか聞いた、十年もコツ〳〵やつて居る内にあ出來上つて見ると狹くつて、今一度やり直す事になるよ今日の時世では年に二百萬や三百萬の工費を使ふのは何でもない、若し、年、百萬圓以上の工費は使へんなどと考へる者は、今の時世を知らぬ人間だ、俺なら立派にやつて見せる。』意氣頗る軒昂當るべからず、洛北氏は徐ろに口を開きて多少異なる方面より觀察せられぬ「記念建築といふ事も、考へ様によつては惡くはないけれども、今日果して斯くの如き建築が必要だらうか、我國の財政狀態にしても、國費の大部分は軍備に使用されつゝある有様で、政府の官衙にしても夫々貧弱な建築に辛棒して居る時代だ、英吉利や亞米利加の眞似をして力むだ所であれ以上の建築を仕上げる事は出來さうにないし、又建築が實用といふ意味の勝つて居る藝術だといふ見地から見ても、其目的に適應する丈の建物を建てるといふに不思議はないと思ふし、美術家の要求する様なものを建て、一種の美術館見た様に仕上げるといふのは、どうも十九世紀時代の思想で今日は世界的共通の實用主義に則るのが

本當ぢあないかと自分は信じてゐる。』
と遠慮なき意見の提出に余は余の意見を立てゝ見たき考となり。
「御話の通り、今日の建築觀は昔の様に繪畫や彫刻と同列に並べて論じて居るべき時ではないと思ひます、社會的交渉の多い建築といふ一つの有機体を取扱ふに全然實用を無視した様な立脚地から出立したら、それこそ無用の長物となつてしまいます、實質に於て間然する處なき迄の用意を第一義として更らに之に伴ふ丈の外裝を整ふる事にするのが至當の考でありませう、今日の軍艦にしろ、商船にしろ、やはり同じ様な行き方であると思ひます建築家は軍艦や商船は科學的技術の結晶であるから藝術の部類に入らんといふ考へを持つて居る様ですか、此の解譯は頗る皮相觀であつて、實用的科學的の要求を充分に滿足せしむる設計から出立して此の有機体を完全に統一する爲め其外容に於て如何に苦心を拂ひつゝあるかを知らない様です、たとへ一個の螺鈿にしろ鐵梯にしろ器具の類にしろ、夫々人間の智力以外に何處とはなしに美的觀念を注入して居ります、從つて出來上つた軍艦或は商船の大觀は壯大雄麗の偉觀を裝て觀客をして此美を感せしむる丈の立派な作品でありまず、個性などゝいふ少さな根から出ないで協力作業の完結せる綜合藝術の作品と徑程のない丈の價値と品位と内容を具備して居る様です、建築觀も今日の時世では、やはり斯くの如き徹底せる見地から出立するの必要があります、乍然同時に實用を主張する側の人々の考へは、兎角實用そのものに囚はれて之れが價値と品位の完成については何等の理解のない弊に陷ることがあります、いはゞ藝術的見地に立つものは右に偏し、實用主義の立場から見るものは左に偏したがる、しかも正道の坦々たる大道は眞直に立派に在るのに氣の付かぬ様な有様ではあるまいかと思ひます。』
と思はず口を辷らせり、須磨の浦氏は双腕を組みて微笑を湛へて居たりしが此時漸く氏の

意見を發表せり。

『要するに誰が見ても恥かしからぬ大建築とする事は多くの人の一致する見解である樣だ、實用だ藝術だといふた處で、東から見るのと西から見るの差である樣だ、一國の重要な建築であるといふ見地を抱いて今日の議事堂として將來の憂ない丈の規模、構造、設備の完結を欲する事に努力するのが至當である樣だ乍然一國の財政狀態が僅か二千萬圓位の經費を出す事が出來んとあらば、それは出來る迄待つもよいから、目下の議場の危機を救濟するの目的から、至急に半永久的の假建築を計畫して二年位の工事期限でやつたら、現狀の解決としては最も至當の方法ぢあないか、つまり工費五六百萬圓位で構造本位實用主義でもなんでもかまわん無用の裝飾は一切抜きてやらせるのさ、その代り同時に大建築の設計を開始するのだ、國家の記念建築の大計畫を立てるのだ、勿論急造の建物は別に敷地を選定してやらせる。本建築は此度の永田町の敷地を措いて何處にもない、良い敷地だ、あすこに建てることに決定する、そうすれば、便宜上の議論も何もなくなる、立派に國民を納得せしめる丈の方策ぢあないか、今の政府案の樣な變手古の計畫に六萬圓もかけて「コペチシヨン」をやらせる必要が何處にある。』

と理解ある議論を立てられぬ。伊丹氏は耳を立て傾聽しつゝありしが、後をうけて「コンペチシヨン」問題について次の樣な意見を申されぬ。

『東京の建築家は今度「コンペチシヨン」になるんだ、經費は十萬だそうな、やれ六萬だと、鬼の首を執つた樣に、云つてる樣だが、考へて見ると氣の毒でならぬ樣な氣がする、「コンペチシヨン」なら何んな建築でも賛成してやるといふ樣にも見へる、一体此度の政府案がどれ丈の規模でどれ丈の內容を具備して居るか研究もして見ない樣だ、議院建築は「コンペチシヨン」でなければ解決が出來ぬ樣に思つとるのが滑稽ぢあないか、建築は繪でない

議院建築は運動會見た様な御祭騒ぎで出來上らん、一國の重要建築で國民の大切な記念物なら、國民は總てを打捨てゝ賞金なんかと當にせんで應募する丈の覺悟を持つて居なければなるまいぢあないかアハ、、、、。」

呵々大笑すれば一同も思はず、破顏を並べてしばらく話もとぎれぬ、實に伊丹氏の說の如く眞に、國民的建築を建設するの覺悟あらば、賞金の如きは全廢して記念章を與へる方法が然るべしと思ひぬ。

やゝありて洛北氏は回舊談を初められぬ。

「議事堂建築として一番雄大な結構を持つて居るのはやはり、米國合衆國のだね。さすがはヤンキー丈あると感心した、獨逸帝國の議院建築も懸賞でやつたそうだが、これは中々華麗な建物で赤毛布連の目を驚かしてゐる。墺國のは上品な建築で中庸典雅の趣をそなへてゐる。英國のと匈牙利のブタペストに在るものは共に大川の河岸にあつて形勝の位置を占めてゐる。英國人の氣質から考へて見るとあの峨峙風のパーリヤメントは如何にも堂々たるものであつて、テームス河の河岸から眺めると、いかにも英國質氣を体現して居るとと感せしめる。所が議場丈は不思議に狹苦しく出來てゐるには驚かされる、あれは初めはあれでよかつたのだらうと思ふが今日では議院が入れ切れぬので實際に困つて居る樣だが、昔氣質の英人があの狹い室、さうね巾は此室位で兩方に腰掛が並んで、中央に議長が例の笏を持つて控へて居る、前面の席に首領株が、凍取つて二十時間も平氣で大演說をやるさうだが後の陣笠は立詰の姿だ、總席の前に机のない所中々面白い、それでも作り代へぬ所が英人の英人たる處で、あの二大政黨主義の政体から而へると左程困てるのぢあないかもしれぬ、しかしあれは記念建築だから改築せぬのではなくして今日こんな不便にはなるまいと思つたのだね、大廣間や、各室の設備は申分がない樣だ有名な、セント、ステフエンスホールに、昔の政治家の像の並んで居る中を

通ると歴史の尊い力を偲ばずには居られない。」

洋行せし事のなき連中は思はず氏の話を傾聽した、武庫氏もブタペストの議院建築について次の様な話をされた。

「匈牙利のは一番新しい議院であつて、工費は殆んど、我國の金で一千萬圓を費して居る、工程約十年と記憶してゐる、ダニューブ河に臨み、前面に王宮がある、中々、立派ですよくあれ丈の建築が出來たと思ふね、一体匈牙利は日本の様な貧乏國だ、毎年缺損の行く國である、ブタペストでは建物でも橋でも少し金の掛つてゐると思はれる所ではきつと、料金を取る、つまり財政狀態が我國と同樣で一種の通行稅さ、それでもあれ丈の建築をやつて居る、壁畵でも皆匈牙利人の手に成つて居る、裝飾にしても餘程、凝つたものだ、それに吾々と同種の東洋種だから建築の手法が我々の感情に一致する處があるから、實際羨望に堪へぬし、同國人も誇り顏に說明して居る、立派な國民的建築だ、日本人もあの位の建築の出來ん事ない筈だ、まして國運の發展せる今日、何とか出來さうに思ふがね。」

天王寺氏の默して語らざるも同感の笑顏に一種の趣を添へて、胸中に何等かの卓說を蓄へて居なる樣子ありしも徹頭徹尾傾聽の人として在りしが。

「日本人に國民的建築の建設を努力する底の腹がなさゝうだから、つまり出來んのでせう」と最後の斷案を下されぬ。」（終り）

□三百萬磅□

英國の議事堂はサー、チヤールス、バリーの設計で、一八四〇年竣工して居る、工期十五年工費は三百萬磅を要したさうである。



室内換氣の理論と實驗

（理論の變移）

アーキテクチュラー
レコード
一九一七年一月號——チャーレス、アイ、ハバード氏述

▲空氣は二つの重要な意義を有す
▲換氣不充分な爲に起る有害の結果
▲室内惡空氣と肺呼吸の關係
▲レプラン氏の實驗
▲呼氣の有毒微細物存在說
▲更に詳しき實驗の結果
▲斯美士研究所の報告
▲北米合衆國農務省一七五年鑑
▲市俄古の換氣法調査委員の實驗
▲米國に於ける室内換氣の研究
▲從來に於ける換氣法の理想
▲室内空氣の炭酸瓦斯量の制限
▲生理學的に觀る酸素と人體
▲英國の醸造工場に施す實驗
▲プラウン氏學說の基礎
▲ヘルマン氏以來各種の實驗
▲プレスラウ衛生試驗所の報告
▲倫敦醫科大學附屬生理研究所の實驗
▲各種の實驗に於ける快感圈
▲近代建築の衛生觀と密閉式換氣

家屋内の換氣が我々の健康に直接又は間接に大影響あることは、今日にては殆んど知れ渡つた事柄である。併し乍ら、其學理的說明と實際的處置に就て未だ確定的の結論を論述した人は無い。又、實際に、其處までは明瞭に之を知ることの出來ない難かしい問題なのである。予輩

は拙著『現代都市之研究』の都市建築の衛生設備の章に於て『換氣』に關する一般的の理論と最近の建築が執るべき方法とを略述した。併し乍ら、左の論文は、大体に於て新しき論說とは云ひ難いのであるが、亦見逃すことの出來ない点もあるが故に、其大要を譯出して之を一般に紹介する。

（譯者　片岡　安）

空氣は、二つの重要なる意義を有する。其一は化學的にして、其他は物理的の現象である。斯の二つの現象は、吾人の血液を清淨にし、又同時に體熱を吸收するのである。前者の爲には酸素の可及的多量と有害瓦斯の可及的少量を包容するの要がある。又、體溫を吸收することは其空氣自身の溫度、濕度、及其氣流に關係すること若し、室內の空氣を新鮮なるものと交換することなくば、酸素の分量は漸次に遞減し、熱と濕度とは益々增加すること在室の人間が多ければ多い程甚しき結果を生ずる譯である。從來、換氣の理論は、主として、酸素の缺乏を說いた化學的原因を目標とし。熱と濕度の增加に由る物理的原因をば余り研究しなかつたのは事實である。（斯の所論は、ヘルマンス氏の學說にして。既に各種の學會に於て論述された處である）

從來に於ける換氣法の理想は、室內空氣の含酸素量を可及的野外の空氣と同等にせんとする努力であつた。炭酸瓦斯の分量を一定量以上に上ぼせない爲に新鮮なる空氣を注入して之を稀薄ならしめるを其方法としたのは、蓋し、夫れが爲である。新鮮なる空氣は、一萬分中に三乃至五の炭酸瓦斯を含有することを以て普通とするが、室內空氣の其分量を六乃至七までに止まる樣盛に新鮮なる空氣を注入する方法は（主として煖房熱の力を利用して）從來一般に採用されたのである。

換氣の不十分な爲に起る有害の結果は、主として酸素の缺乏と炭酸瓦斯の增加より起るものと信ぜられた說は既に古く棄てられて、其後は室內人間の呼吸に藉りて排泄された有機的微細物の有毒說が信ぜらるゝことゝなつた。而して

其有毒微細物存在の分量は。炭酸瓦斯の增加に比例するものであるが故に、約り、炭酸瓦斯が增加する分量と比例して、漸次有毒の狀態が進むものと想はれた。

室內空氣の炭酸瓦斯所在量を萬分の四より六又は七までに增加ずるは、之を己むを得ざることゝし、夫れ以上に昇せない爲には、一人に就き一時間參拾立方呎の空氣を給すれば十分であるが、又一分間に五拾立方呎の空氣を要求する場合もある。之等は、凡て室內空氣の有害狀態を稀薄にせんとする努力に過ぎないから、少しく徹底的に研究する者には、恒に不可解の事實として視られたのである。即ち、空氣の成分のみに重きを置き、其物理學的狀態を少しも考へざりし理論は、到底滿足なるものとは觀られぬので、最近。空氣清洗法の實行と共に、斯の問題は漸次解決に近づいて來たのである。

空氣清洗法は、古く用ひられたものは比較的大袈裟で流通惡しく、又、濾過劑取替等の手數を要し。唯空氣中の、煤煙、細塵等を除去するたけであつた。然るに、近來は、漸次進步して其溫度を加減し、濕度を低下し、或は、有毒分子を除去することまで之を實行し得る樣になつたのである。(譯者曰く、最近亞米利加の贅澤なる小學校や病院には漸次斯の方法を採用しつゝあるといふことである)從來、換氣法の原則として、室內空氣の成分に重きを置き、其上にのみ樹てられた計畫は、今日に於て殆んど否認されて來た。室內空氣の溫度と濕度の加減を爲す物理的改善法の重大なるに比すれば、其成分の如何は實に小なる問題にして。寧ろ。酸素の分量の如きは之を研究するの價値なきものである試みに肺の作用を稽へよ、若し、野外の空氣を吸入する場合と雖も、肺の內部は新鮮なる空氣が一回毎に交代するものではなく、僅に一部に空氣を取替ゆるだけである。素より、一回毎に或程度の酸素の分量は之を必要とするのは事實なれども、前回の分と後入のものが混和し、漸次之を後々に繰越すのであるが故に、其肺內に於ける空氣の狀態は、決して野外の空氣と同樣

なものではない。併し乍ら、之を以て、室内空氣の狀態は奈何程惡しくなるとも閊支がないといふ結論を爲すのではない。

野外空氣の狀態は。百分中二十一以上の酸素を含有し得ないのであるが、室内の極惡しき空氣でも、百分中二十以下の酸素となることはない。而して。人間の肺の普通活動する部分は、其全容量の一割六歩に過ぎないから。外界の空氣の成分に如上の變化が起るとしても、肺の内部に何等著しき影響を與ふるものではないことが了解される。のみならず、肺臟内の酸素必要量は、血液内の炭素の分量に依り加減さるゝのであつて。其調節は、中樞神經の知覺によりて司配され、仍つて以て呼吸の深淺等を生するのである。若し、炭酸の分量低減せん歟、排氣の度は炭酸の相當分量の蓄積までは低調となるを原則とする。且つ、肺臟内に於ける空氣中の炭酸分量は百分の五を普通の標準とし。呼吸により恒に調節されて居るが故に、室内空氣の成分から生ずる變化は、呼吸の非常に小さき加減で左右さるゝのは明かである。而して、之等の調節は、主もに生理上人間の自然作用に屬するのであつて、空氣内の酸素と體内の炭素との交換が調和さるゝのは、決して人爲的のものではない。

更に、之を生理學的に見るときは、酸素の缺乏は人體に由々しき大事なるが故に、空氣の死臟部たる咽喉、氣管内に充滿する空氣は、第一着に、一定量に蓄積したる體内の炭酸と交換さるゝものとなつてゐる。而して、今回知らるゝ處に據れば、前回に排泄されたる空氣の一部は次回の吸入により再び攝取さるゝといふことである。普通、室内に起立する人は、空氣排泄中其百分の一乃至二は之を再び吸入し、臥床中の人は其百分の二乃至六又はより以上に再び吸入するのは事實である。以上は、主として理論上より觀たる見解であるが、左に少しく事實上の觀測を述べることゝしよう。

一千八百四十二年に、レブラン氏は、百分中三十即ち一萬分中三千の炭酸瓦斯を含む空氣中

に動物が生存し得ることを發見した。併し乍ら其ときの空氣中には、百分中七十の酸素を含みゐることゝ、其狀態を速かに回復して遣らねばならぬことゝが條件であつた。

一八四九年にペッテンコーフエル氏は多數群集の場所に於て必ずしも酸素の缺乏を感せず又炭酸瓦斯の過多に苦むことのなかつた實例を示し。更に、萬分中百の炭酸瓦斯を含む空氣中に數時間不快を感せずして呼吸を續け得る實驗を爲し。之に由り、惡空氣の害毒は炭酸瓦斯の分量を標準とすべきものにあらざる旨を發表した。

最近、英吉利に於ける或醸造工場の實驗に據れば、萬分中十四乃至九十三の炭酸瓦斯を含む室内にて、毎日十二時間宛勞働に從事せしめ。而も。拾八年勤續の職工にさへ少しも健康不良の結果を見ざりしといふ。又、他の實驗に據れば、萬分中三百乃至四百の炭酸瓦斯を含む空氣中にて靜止の狀態を保ち、何等呼吸の緊迫を感せざりしが、萬分中百以上の場合には、著しく筋力の疲勞を感じたと云ふいことである。

呼出された空氣中に有毒微細物の存在するといふ説は、主として、ブラウン、セカール及ダルソンバアール氏の論説に基いたのである。斯の説に據れば、萬分中十の炭酸瓦斯存在を極度とし、夫れ以上の場合には、有毒微細物の存在甚しきを唱ふるのである。

群集したる室内の惡臭は、正さに有毒微細物の存在を証明するものであるといふ所説は、一應尤もな説ではあるが、之を生理學的に觀れば其惡臭なるものは、皮膚の分泌物、食物の嗅香噎噫の臭氣、衣服の汚穢物、胃弱者の惡臭排氣等より來り、不愉快な感を與ふるのは事實である、けれども、人の健康に影響すべき性質のものではない。

ブラウン、セカール及ダルソンバアールの學説は次の三項より説明されたのである。

一、犬の肺臟を再三洗ひ晒したる水を兎の血管に注射し。

二、人間の排泄したる空氣の凝固物を同樣兎の

血管に注射し。

三、犬の排泄したる空氣の凝固物を亦同樣に兎の血管に注射し。

斯くて、各種の兆候を調査したる處、最初は、瞳孔の擴大、心臟の鼓動增加、及下脚の麻痺を起し、更に、之を大量に行へば、呼吸必迫、嘔氣、瞳孔緊縮等を起すのを見たといふことである。

然るに、近來斯の方法を更に詳しく實驗した處に據れば、曾て唱へられたる中毒の現象は、余りに多量の不潔水を注射した結果であつて、決して排泄氣内の毒物の爲に生ずる症狀でないことが明瞭になつた。

又、一實驗に據れば、犬の呼出する空氣を直接に他の犬の肺に吸入せしめる裝置を爲し、約七時間持續せしめたけれども。少しも有害なる兆候を認めなかつたのである。又、他の實驗に據れば、人間の呼出空氣を凝固せしめて之を乾燥狀態と成し、是を蒸溜水に混じて、兎と鼠とに皮下注射を爲したるに、何等甚しき兆候を認めざりしのみならず、純粹なる蒸溜水のみを注射せし場合に、其分量大なるときは死亡したといふことである。

自今、三十年前ヘルマンス氏が『換氣の惡き爲に生ずる害毒は。其化學的成分の缺乏にあらずして、人體熱の爲に上昇する溫度に由る』ものなることを發表してより、各種の實驗は殆に行はれたのである。夫れ等實驗の結果に據れば密閉の室内にて、成人は一時間内に一千立方呎の空氣の溫度を（華氏）十五度乃至二十度に高め得ると同時に、多量の水分を放散するのである。故に、斯の濕度と溫度の過量を換氣に仍りて排除せざる限り、陰鬱な感じを與ふるのは當然であるが故に、室内を恒に快活の狀態に成し置く爲には、溫度と濕度の調節及室内空氣の氣流を考へねばならぬ。

人體の周圍を包む空氣が沈滯して、而も徐々に溫度を昂め、濕度を增すに就ては、人體の生理上異變を感じ、竟に眩暈を起すに至るは、今日殆んど說明するの要はない程極めて明かな事

である。室内換氣の重要なるは、約り、斯の人體生理上の理由より全く物理的の處置を重んずべきものであつて、決して、空氣中の炭酸とか有毒微細物とかの化學的成分に偏してはならぬことが愈々明瞭となつて來るのである。

普通是まで唱へられて來た『室内換氣を一人毎に一分間三十立方呎とする』原則は、其理由化學的成分を顧慮して樹てられたのであるが、實際外氣の温度十度許り室内よりも低き際には丁度、物理的に温度と濕度を調節するに必要なる分量と一致するのは、全く偶然の結果といふべきである。(譯者曰く、是は、亞米利加の或州に於ける限られた一時季主として冬季のことであつて、我邦には應用出來ないのである。詳しくは拙著『現代都市』の「衛生設備」の章を見よ)

上述の如き意味より、室内換氣の研究は、近來漸次盛と成り、斯美士研究所の發表したる報告だけでも可成大部のものである。(其二三は前文中に引用しあり)又、一九〇五年プレスラウの衛生試驗所の發表したる處に據れば、健康なる人を僅に八十立方呎の容器中に五時間密閉狀態にて置き、炭酸分量は萬分中百乃至百五十まで增したるにも拘はらず、少しも不快を感じなかつたといふことである。濕度と温度さへ適當に加減さへすれば、空氣の溷濁狀態は、少しも不快を感するものでないことを十分に立証した實驗であつた。斯の實驗に於て、温度を七十五度に昂め、温度を八十九%に增した場合、炭酸瓦斯は僅かに萬分の百二十を算したるに非常に不快を感せしめた。又、外部より空氣管を通じて呼吸を爲さしめたときと、其容器の中の空氣を呼吸せしめたときと結果に於て別に大した異りがなかつたといふことも、斯の實驗の目的を益々明かにしたのである。而して、風扇を以て容器内の氣流を盛んに起したときには、温度も濕度も又炭酸瓦斯の分量等も別段變りなきに拘はらず不快の感じは凡て去つた。又、斯の容器内の温度を六十二度にまで低下せしめたときに容器内には既に萬分中百六十の炭酸瓦斯が蓄積

して居つたのに、矢張り不快を感じなかつたといふことである。

北米合衆國農務省の百七十五年鑑に據れば、或る密閉したる驗溫器室内に數日間人間を置きたるに、其室内の空氣を十分低溫に且つ乾燥せしめ置けば何等の不快を感ずることがなかつたといふ事實を發表してゐる。

又、倫敦醫科大學附屬生理學研究所に於て是と等しき種類の實驗が行はれた。其報告に據れば、密閉せる木質の室内に於て水管を配置し、電氣爐、電氣扇等を備へ、凡ゆる斯種の變化に便せしめ、初め炭酸瓦斯の分量のみに注意せしに、萬分中二百乃至五百まで增加せるも、内に在る人間には脈搏の異常さへなかつた。而して溫度と濕度の昂まるときは、室内の者は非常に不快を感ずるのであるが、不意に溫度の低下を圖りて氣流を起せば、亦其感じは去つたのを見た。更に、斯の室内へ不意に炭酸瓦斯を注入して。萬分中二百の分量と成し、溫度と濕度を昂めて後、其室内空氣を室外の者が空氣管を通じて吸ひ、室内の者は亦他の空氣管を經て室外の空氣を吸ふたときに、室外の者は何等の不快を感ぜず、室内の者は其不快な感じを去ることが出來なかつた。

數年前市俄古の換氣法調査委員の實驗に據れば、室内の濕度と溫度との適當なる關係は快感を覺へしめるのであつて、其關係を快感圈として示した。即ち、或る最高溫度と其れに對する最低濕度及最低溫度と夫れに對する最高濕度とを算出するとき、其兩極端の間は即ち快感圈内と云はれるのである。

各種實驗の結果、六十度乃至七十度の溫度にては、濕度五十五乃至三十%を極度とするを適當と思はれる。即ち、快感圈は、五十五%の濕度に對する六十四度と三十%の濕度に對する七十度の間であるといふのである。(譯者曰く、亞米利加にては、屢々空氣が乾燥し過ぎて不快を感することあれば或る程度の濕度を加へねばならぬ場合多しと雖も、我國にては斯る心配は寧ろ少く、濕度の多きを苦しむ地方が多いのであ

る)。大きな廣間に人數の少きときは濕度の少なるに苦み、又、多數群集の際は濕度多き爲不快を感ずるの例は甚だ多いのである。人或は余り乾燥したる空氣は咽喉氣管等の粘膜に害を與ふることを唱ふれども、是は、余程疑はしき意見であつて、必ずしも深く信ずることを許さない何となれば、粘膜には特殊の粘液分泌ありて恒に之を濕すが故に、乾燥したる空氣の通過に因り多少其分泌を多くせしめらるゝ患の外、別に大した刺撃を受くるものではない。通常斯る際に患ふる点は、主として塵粉飛散の刺撃に由るものと見るも差支がない。即ち、乾燥甚だしきときは、什うしても室内の塵粉を飛散すること多く、濕潤の際に、塵粉飛散の少量なるは事實に於ても理論に於ても明である。

室内換氣の研究は、北米合衆國にては市俄古換氣調査會と紐育の換氣調査會(國務省内)が主として其衝に膺り、前者は、一千九百十年二月に組織され、一方、理論と實驗を爲し、他方には、學校、敎會、劇場、工場及電車等にまで其研究の結果を應用しつゝある。後者は、一千九百十三年七月に任命され、同年十二月より大に研究の歩を進めた。其項目は左の通りである。

空氣の化學的成分═酸素、炭酸瓦斯、有機物臭氣、オゾーン、
空氣の狀態═溫度、濕度、塵粉、
換氣の重學═空氣の容積、氣流、煖房法、冷却法、循環、天然及人工換氣、
設備の能率及實施═換氣用機械、

右研究所には、千百五十立方呎の容積を有する換氣試驗室を有し、空氣の密閉及一部交換、溫度及濕度の調節、或は空氣の洗淨や氣流の發生等を自由に實驗し得る設備を加工しあるのみならず、其空氣の成分をも適宜之を變化し得るのである。斯の室内にて、一人乃至六人までを何時間でも密閉し置くことが出來るのであつて。各種の實驗が漸次觀測されてゐる。斯の觀測は凡ゆる空氣の狀態に於ける人體の精神的及肉體的の變應を最も確實に知ることを得るのである

其他、斯の實驗室以外戸外作業に就ても各種の研究を積みつゝあるといふことである。

市俄古及紐育の換氣調査會は、上述の如き大規模の觀測と實驗を積みつゝあれども、非常に愼重に之を研究しつつあるが故に、未だ確定的には大した報告を發表する處までに達して居らぬ。

譯者曰く、室内空氣の流通は多々益々辯するといふ近代建築の衛生觀と、密閉式室内換氣とが大に矛盾するは、斯の間に何等かの事情あることを知らねばならぬ。即ち、結核菌等の如き空氣傳染の虞ある細菌が恒に多人數居住の室内に瀰蔓するものとすれば、密閉式の換氣は、其危險の度を昂めるものにして、斯の危險率低下の必要上上述の理論も一掃全潰さるゝ譯である併し乍ら、炭酸瓦斯の危險や有機的有毒物を云々する如き舊來の學説は、之を否認するを至當とする。

●米國換氣法案の一節

普通學校及專門學校

第一條　每一人宛容積

イ、各教室自修室及溫習室に於ては每一人宛最少限度十五平方呎の床面積並に百八十立方呎の容積を備ふべし但兒童八歳以下なる時は教室及自修室に於て最少限度十二平方呎の床面積並に百五十立方呎の容積を備ふべし。

ロ、講演室及集會室に於ては每一人宛最少限度六平方呎の床面積並に九十立方呎の容積を備ふべし

ハ、表記せざる一切の室に於ける每一人宛最少限度の容積狀態は合理且易行的にして衛生局の認可を得べきものとす。



議院建築問題

會員　片岡安

(一) 我國議院建築問題の由來
(二) 紀念建築論——議院建築は紀念的建築なるや否や
(三) 前回の議院建築案
(四) 方針を誤れる這次の議院建築案
(五) 不合理なる建築案を看過せんとする少數專門家の態度
(六) 設計案の懸賞募集

‖壹‖ 我邦議院建築問題の由來

吾人は、我邦に於ける議院建築の實施案が愈々今期議會に現はれしを機とし、更に、議院建築に就て一言其抱負を述べて置きたい。抑も、議院建築の問題は、明治二十五年頃より即ち最初の建築燒失以來の問題にして、其間、時を經ること二十六年、議會を重ぬること三十七八回に迫ぶのである。而して、其最も盛に論議せられしは、明治四十三年にして、其三四年前より

内々調査せられしものが、大藏大臣を委員長とせる正式の建築準備委員會に提出せられて、其討議一決を待ち、愈々本豫算に繰込まれんとせし其時であつた。其案は大体千七百萬圓前後として外部に漏れてゐたのを記憶する。而して、其當時に於ける我國の財政狀態は、日露戰役の余映にて、借金の上に借金を重ねて各種積極政策の遂行を圖つた爲に、輸入超過てふ陰鬱な空氣に覆はれてゐた時であつた。故に、貴族院を始め一般の識者階級には、斯る大金を建築に費す時期ではないと云ふ反對論もチラホラ唱へられて、若し議場へ現はれたならば、之を粉碎せんと力味反つた議員さへ多かつたのである。又其調査會案として傳へられた處の紀念建築としての取扱は、余りに業々しいとして之を排斥する人も可成り多かつた。然るに、其調査會に於ける專門委員は、斯る大局の問題を十分に見極めざりし爲か、或は、其大局を支配する抱負より出發せし爲か、今は、之を識るに苦めども、兎に角國民の紀念建築として之を取扱はしめることの輿論を振作することに少しも手を觸れずして、其設計を調査會の原案に據らしむることを排斥せんと努め、之を建築學會に報告し、學會は、一齊に共鳴して所謂懸賞案を以て之を爭ふたのである。其當時の言論は、別項に其大要を記載しあるを以て此處には重復せざるも、議院建築の設計は、之を一般懸賞に付して、其優勝なる案を採用すべしと唱ふるを骨子としたのである。唯、故片山博士が懸賞萬能論に反對であつたのは、萬綠叢中の紅一点であつた。其當時調査會の原案は、故妻木博士を中心とせる大藏省の建築部に於て、其設計と實施を担任して立たんとするのであるから、一般外部の建築技術家が岡燒根性を起したのも無理はない。故妻木博士は、建築學會一般の結束を以て、全く之を岡燒連中の割込策戰と云ひ觸らして防禦の陣を張つたのは、甚だ卑劣な遣り方として、其當時は大に批難せられたけれども、若し外部より冷靜に觀れば、両方の云ひ分どちらも五分五分なりと謂はねばならぬ。第一、議院建築は果し

て國民の最大最高位な紀念建築であるかどうか、第二、紀念建築の設計は、一般懸賞で募集するのが夫れ程價値のあるものであるかどうか、といふ二大問題は、其當時まで少しも唱へられたことはなかつた。又、若し夫れが絶對に尊重すべきものとすれば、何故に、記念建築として否認せんとする其當時の有力なる輿論を打ち壞すことに努力しなかつたか。之等は、凡て、一般輿論の大勢なるものを理解せざる造り方であつたのは、今日より觀れば、寔に不徹底極まる態度であつた。吾人は、今少しく之等の問題を理論的に解剖して、今後起らんとする我國の重要建築設計問題を明瞭に處理して見たい。

貳 紀念建築論＝議院建築は紀念的建築なるや否や

紀念建築は、國民一般が崇高の感を以て其下に跪拜する神社佛閣を始め、國の元首が親臨し給ふ政廳、英雄の事業を不朽に紀念する凱旋門や紀念碑、墓標等、數ふれば可成り廣き範圍に亘るのである。殊に、近代に至りては、國民的施設として、博物館、圖書館、饗宴場、音樂堂等も、亦其時代を紀念すべき建物たるを喪はない。斯の意味より觀れば、國會議事堂は、代議政體を表象すべき國民的紀念建築として、最も注意すべき建物でなくてはならぬ。世界各國の國會議事堂が、早きは十九世紀の初より、晩きも其末期までに、孰れも紀念的建築として堂々たる大建築を建設したのは、凡て之を事實（キャピトル）に表明しゐるのである。彼の北米合衆國の議事堂の如き、或は英國のそれの如き、孰れも其國民は之を代表的建築として誇つてゐるに觀ても、十分に了解が出來るのである。尙、近きは、獨逸、墺國及匈牙利の議事堂の如き、可成り宏壯な建築を建設したのは、其外觀及內容を觀れば、矢張り、其時代の全力を濺いだものと見ねばな

らぬ。然るに、何事ぞ、近來、我國の識者階級殊に專門家の間にさへも、議院建築を以て一つの事務用建物と看做し、普通の政務公館の一つとして取扱はむとするものあるを看るは、寔に慨歎に禁へぬ次第であつて、其單純なる偏見には驚かざるを得ないのである。

議院建築は紀念的建物にあらずとする論者は紀念といふ文字に余り深く拘泥して、國民の紀念とすべき凱旋門とか、戰勝紀念塔とかいふもの即ち實用を少しも加味せざるものを以て紀念建築と唱へ、議事堂の如き重大なる實務上の配置を考慮すべきものは、決して紀念建築ではないと主張するのである。是れ、或は一理由として容るゝことも出來る。併し乍ら、斯る偏見を以て國民一般を強ゆることは出來ないのである。論者が唱ふる如くに、實用を中心とするものは紀念建築として取扱ふの要なしとの議論は、建築學上少しも價値なきものであつて、建築の意義を少しでも解する者は、之に贊同することが出來ないのである。抑も、建築にして實用を伴はざるものは、果して建築としての價値あるものなるや否やを疑はれるのである。若し、墓表の如き、紀念塔の如き、或は、凱旋門の如き單純なる構造物にして、或る事柄を紀念するといふ以外に實用には甚だ縁の遠きものゝみを以て紀念建築とし、少しく複雜なる實用上の効果を發揮するものを事務用建築と唱ふるならば、殆むど世の中の建物は、全部之れ事務用建築なりと謂ふべきである。吾人は、斯程單純なる論理に因て迷ふ者ではない。

單純に、紀念すべき出來事を表現するといふ意味には、凱旋門や銅像を以て之に應ふれば足れりで、決して、高遠熟達なる建築技術家の手腕を要するものではない。素より、何等の素養なき構造技術家や、平凡なる彫刻家のみでは出來ないかも知れぬが、實用上の複雜なる要求と其侵すべからざる宏壯雄大の表現とを最も克く調和案排して、其環境に適應する大建築の設計を爲すが如き手腕は、之を要しないのである。之を云ひ換ゆれば、紀念すべき或事柄以外實用

上の目的なきものは、之を一種の紀念建築物と看做し得れども、并は、比較的低級の一特例に過ぎないのである。之を繪畫に例ふれば、斯る特殊紀念物は花瓶の寫生畫の如きものにして、複雜なる實用を要求する大建築は、却つて人物畫の如く最も練達の手腕に俟つべきものである。紀念といふ意味を現すのみの單純なる構造物は、其意匠に於て十分に深刻なる考案を要すること敢て些細なるものとは云はざれども、議院建築の如き科學的智識の粹を蒐めて、之に豐富なる意匠を加へ、實用適合と同時に其時代の藝術的手腕を十分に發揮することの困難に較ぶれば、到底同日に之を語るべきものではない。泰西各國に於ては、單純なる紀念構造物にも相當の注意を拂ひ、名建築士をして其設計に膺らしめた例は、甚だ多く之を見るのである。巴里の凱旋門、倫敦のヴキクトリヤ紀念碑、ライプチツヒの戰勝紀念碑等は、孰れも世界的の紀念構造物たるを喪はない程度のものにして、指名又は懸賞にて、當代一流の藝術家の手腕を煩はしたものである。併し乍ら、之等は之を國民的紀念物としての外には、何等實際的の價値を有するものではないから、之を現代の建築藝術より觀ては、一種の特別階級のものとしか受取れぬのである。

現代の建築藝術は、應用科學の粹を蒐めて其骨子と成し、國民藝術の極致を以て之を包擁したるものを其理想とするのである。故に、比較的科學應用の少き特殊紀念構造物は、寧ろ、大なる價値あるものとしては取扱はないのである。現代に於ける建築藝術の最も力を致すべきものは、今や、主として國民全体の標象、實際的活動の中心たるべき議場建築、博物館、圖書館或は音樂堂等でなくてはならぬ時代となつて來たことは、敢て余輩の一家言ではなく、實に世界の傾向であつて、現代の民衆的傾向から稽へてもそうでなくてはならぬのである。然るに、何事ぞ、紀念建築を狹義に解釋し、國民生活の中心として最も深き注意を拂はねばならぬ議院建築の如きものを、唯一箇の事務室同樣に取扱

はむとする偏狹論者の堂々と言論を弄する者あるに至つては、吾人、其固陋なる態度を惡まざるを得ない。要するに、我邦の現時に於ける最大紀念の國民的建築は、議院を措いて他に之を看出し得ないのである。若し、之を、紀念といふ意味に於て、伊藤公や大隈侯の紀念銅像と對等以下に取扱はむとするならば、吾人は、堂々と其非を鳴らして反省せしめねばならぬのである、特殊の紀念を表現するよりも更に永遠洪大なる民衆的覺醒の精神を標象する國民的紀念建築を以て少しも紀念とすべきものにあらざる如く唱ふる頑迷なる意見が、當局者間に橫溢する現時の狀況は、果して之を正當なる文明的傾向とすべきや、吾人は、其誤れることの甚しきを悲む者である。

參　前回の議院建築案と其緊張氣分

明治四十三年の議院建築準備委員會は、當代の腕利きと唱へられたる藏相が、故妻木博士の意見を中心として組織したるものなりしも、建築學會の結束したる反對と、社會一般に瀰蔓せる尙早論とに遠慮して、忽ちに之を中止したのであつた。其案たるや、大体國民の一大紀念建築であるといふ理解の下に出來上り、其意味は、各種各派委員全部に十分了解されたのは事實であつた。又、建築學會の結束せる最大なる理由も、之を一大紀念建築と考へたからであつた。其反對せる當面の理由は、懸賞を以て之が設計を募集すべしといふのであつたけれども、其根底には、國民的紀念建築にして、現代に於ける我國建築界の唯一渴仰の大事件と見たからであつた。今日に於ては、或は唯懸賞によりて設計案を募集さへすれば、其案を採用するとせざるとは少しも關心する處にあらず、又、紀念建築として取扱ふべきものなるや否やは、建築家

として別に深く論議するの要なしとする人も多きようなれども、其等は全く一の詭辯に過ぎないのである。何となれば、若し議院建築を普通の一公館として取扱つたに過ぎないならば、何故に、斯くの如き大結束を爲してまで其設計の懸賞募集を此の公館の計畫にのみ迫つたかは、理論上少しも徹底しないのである。一体、斯の種公館の計畫は、上野の圖書館を始め、遞信省廳舍、中央停車場、上野表慶館、或は、東宮御所等、數へ來らば、可成り多數なものであつたにも拘らず、唯議院建築にのみ限り、全國の建築技術家を糾合して、其設計を懸賞に依り募集せしめむと迫つたのは、何等の意味をも成さないではないか。要するに、其當時全國の建築技術家は、大藏省臨時建築部關係のものを除き、何れも一齋に此の國民的一大紀念建築を最も緊張せる氣分にて迎へたのは、寔に意義あることであつて、唯一公館として之を取扱つたのではなかつた。

殊に、原案作成者の意氣込は、可成り緊張したものであつて、其原案調製の爲に有力なる技術家を派遣して、各國の議院建築に就き、親しく綿密に之を調査し、其長を採り其短を捨て、永遠に我國憲政の運用に差支なからしめん計畫を樹て、其意匠に於ては、近世レネツサンス式の粹を擬し、以て、國民的の紀念建築と成さむとしたのであつた。故に、斯の態度より推定すれば、當局の考案は、我邦の將來永遠の發展を期して、夫れに恥しからぬ紀念的大建築を以て理想としたものと謂はねばならぬ。其豫算として千七百萬圓を計上したことや、其當時非公式に發表せる意見を綜合して、十分に其意氣を知るべきである。又、衆議院議員は、一般に其氣分に共鳴して、之を成立せしめんとしたように知られてゐたのである。我邦に於ける立憲政體の精華を發揮すべき議場を、彌やが上にも莊重に築き上げることに代議士が不贊成を唱ふべき理由もなく、寔に當然の成行きと謂はねばならぬ、併し、中には現時の劣惡なる議員を容るゝには、建築を壯嚴雄大に成すことに於て時期尚

早しと唱へた人も見受けたけれども、夫れは、唯時期の問題であつて財政運用上の困難なる時代である事柄と相俟ち、至極妥當な考として傾聽されたのは事實である。併し乍ら、建築其ものを事務室的に取扱ふべしといふ考へは、極少數なる、極端論者の間に唱へられたに過ぎなかつた。今、試みに、其當時の記錄を辿りて之を觀るに。

林田衆議院翰長の談（時事新報明治四十四年十月二日）昨年余は委員たりしを以て委員會に於て五六百萬圓位にて半永久的に築造しては如何と發案せしも某博士の賛成ありしのみにて貴族院側の委員中にも一人の賛成者なかりし次第なり、然るに本年の貴族院委員會にては原案を過大なりとの理由にて否決されたは甚だ解し難き点なり、余の意見としては此際政府は、貴族院の云ふが如く過大なりとせば、設計を改め五六百萬圓位にて半永久的の物を建築するを最も適當なりと信ず……之を要するに委員會にて決定せし案は工費約二千萬圓、十五箇年計畫のものなりしが之を過大なりと謂はば其設計を改め前述の如き半永久的のものを建築すること極て適切ならん……。

其當時、當局は、議院建築準備委員會にて決議したる二千萬圓に近き大建築の設計案を、貴族院の消極的意見に依り其遂行に躊躇し始めた事を最も明瞭に告白するものである。吾人は、之等前後の事情より洞察して、貴族院の反對なるものは、初め準備委員會のとき大体の成案に賛成なりしも、我國當時の財政難の点に稽へ、時期尚早論に推移したのであるかと思はれる。

又、試みに、建築準備委員の一人たりし伊東博士が、明治四十三年十二月十七日に於ける建築學會臨時會にて講演せし大要を抄錄すれば。

建築を藝術の方面より見れば、甚だ多方面のものなれども、今之を社會に對する關係より見るに、凡そ三つの階級に區別することが出來る（甲）個人建築（乙）公共建築（丙）國民建築即ち是なり。中に就て第三の國民建築なるものは、國民全般の利害及國民全般の趣味思想

四 ═ 方針を誤れる這次の議院建築案

を標準とした建築物であつて、議院建築の如きは即ち其最も適切な例である。……

議院建築は、渺たる一官衙とは全く其性質を異にし、建築の學問の上からも、技術の上からも、其房室の要求に於て、其設備に於て、其構造樣式に於て、總て異るべきである……斯の議院建築の問題が、日本に於ては明治十七年以來今日まで懸案と成つて、數次繰返されて來たと云ふのは畢竟非常に重大なる國家的建築であるからである。……凡そ、何れの時何れの國でも、議院建築は國家に於て最も重大なる建築に相違ないのであるが、日本現代に於て益々其重要なることを自覺せねばならぬ。……議院建築は、國民の精神及趣味を發揮するもの、返言すれば、現代の學術技藝を代表するものでなければならぬ、云々。

而して、同氏は、其結論として、其建築經營を國選即ち一般競技に依りて當選したるものに委托せねばならぬと唱へたのである。

以上は、伊東博士の個人的意見の如くなれども、事實は、建築を解する者は一齊に之に共鳴してゐたのであつた。素より其結論は甚だしく早計に失し、懸賞の當選者を直ちに主任技術家として取扱ふべしといふが如き極端に馳せた点は、遇々原案提出者をして懸賞排斥論の一論據を造らしめたのである。懸賞問題は別に論ずることゝし、唯、此處には、其當時の識者階級が奈何に議院建築を重大視したかを示すに止める。

上述の如く、明治四十三四年に於て、一時大に緊張したる議院建築問題も、其準備委員會の解散と共に立ち消へとなつた。而して、大正七年度に於て、又々頭を擡げて來たのは、蓋し、我國民として、是非とも解決せねばならぬ重要なる問題であるからと謂はねばならぬ。

昨年突然に議院建築調査會が發表され、大藏次官を委員長とせる大藏省内の小委員會が出來上り、其調査會に於て急速に建築案を決定し、非公式に其大体は發表された。其案に據れば、工費は約七百五十萬圓、十箇年の繼續事業といふのである。今期議會に提出されたのは、即ち夫れである。

吾人は、今期議會に提出された議院建築案を批評する前に、唯大体論を以て十分に之を遮斷し得るものと思ふのである。若し夫れ、議院建築の性質を解し、先年に於て主張せる建築準備委員會の決議を見れば、這回提案の如きは、全く没常識の甚だしきものと云ひ得るのである。殊に、其對象の滑稽なるは、其當時問題に精通せる林田氏の談話である。同氏は、貴族院の過大說に威嚇されて、半永久的のものでも構はぬから、五六百萬圓のものを至急に經營すべく主張したのは、這次の提案に甚しき侮蔑を與ふるものであるかの如き感なきを得ない。而して、其當時の五六百萬圓は、工費の騰上せる現時の七八百萬圓以上に相當するのであるから、這回の提案は、林田氏の所謂半永久建築より尙二三割低下したる程度のものを、大藏省を中心として勝手に之を決定し、以て國民に强ひんとするようなものである。殊に、委員長は大藏次官たる一事務官にして、内閣諸公は素より、國民の輿論を負ふ貴衆両院議員は一人だも之に參加せず、而も、其決議は、堂々と國家の重要建築の建築費として計上せられたのは、前回の緊張せる氣分を知る者には何としても理解出來ない順序である。

然るに、之を新聞に現はれたる記事に見るに現時の當局者は、議院建築を以て一政務用公館に過ぎずと做し、唯、其構造と内部の配置に於て、十分に現代科學の利便を應用したるものを以て現代に於ける議院建築の理想とするといふことに一致して前述の如き不合理なる提案を爲したのである。若し是が事實であるとすれば、誤れる當局の思想は、國民の輿論を以て充分に之を覺醒せしめねばならぬのである。吾人は、

斯る誤りたる觀察を爲す者は、恐らく、現時の少數當局者を除きては、世界の文明國に之を見出し得ないと考ふる者である。今、其當時世界各國の議院建築を精査して歸朝せる武田博士の談話を抄錄し、以て啓蒙の參考こしよう。

『歐洲各國の歷史に徵するも、議院の建築は、即ち其國其時代の建築術は、勿論、凡ゆる美術工藝を代表し、其國文明の程度を表示すべき機關と成り居れり。されば、何れの國に於ても、局に當る技術家は云ふに及ばず、一國の朝野は全力を以て之に注がざるは莫し……我國の議院建築に就ては、肝腎の國民は左程注意し居らざるもの、如きも、歐米各國の學者、技術家、其他、政治家に至るまで非常の注意を拂ひ、吾々が各國を巡回せるに方りても、日本の議院建築は矢張り日本式なるや、日本にも能く議院の如き大建築を爲し遂げ得る技術家あるや抔と、到る處種々の質問を受けたり。……以て、各國の學者、技術家、其他の間に於て、奈何に日本の議院建築に注目し居れるかの一班を識るべし。云々』

議院建築を單なる一政務廳舍と看做すが如き誤れる理想は、蓋し、我少數當局者の外、世界各國何處にも之を見出し得ないのは、上記武田氏の歐米視察談にて十分に之を識り得るのである。吾人は、這回提案に係る議院建築費の說明を明瞭に知るを望む者であるけれども、其說明の奈何なるものにもせよ、其建築案を決定する順序の奈何にも唐突にして、而も公正を缺ぎたると、其工費の余りに貧少なるとに由り、到底、之を以て、明治中興の國民的紀念建築たらしめんと切望する國民を滿足せしむるに足らぬことを信ぜしめる。維れ、吾人は、健全なる輿論に依りて斯る姑息なる建築案を匡正せしめ、堂々たる國民的紀念建築として、其立案を新にせんことを希望せざるを得ない所以である。

五 不合理なる建築案を看過せんとする少數專門家の態度

今回提案されたる我國の議院建築案の作者は本誌前號、及前々號に詳述したる如く、主として、事務官に依りて決定されたものであるけれども、其參考として、大藏省内に於ける技術家の意見が尊重されたことは明である。又、其調査會委員中に、技術家として、四人の官吏、二人の民間建築士を招聘せし点より觀れば、有力なる專門家が其提案に裏書したものと見ねばならぬ。尙、更に、調査會に對し、建築學會の役員よりは、一の意見書を提出して、議院建築設計圖案を一般競技の方法に據られたきことを上申したるに止まり、其案が奈何に姑息不徹底であるとも、一切關せずとして冷靜に濟まし込みたる態度は、斯の提案に對して二重に裏書したるかの觀がある。

我關西建築協會に於ては、斯る不合理な建築案を看過するに忍びず、之を反省せしむる第一着手として、唯徒に冷靜なる態度を持する專門家に對し、再思三考を求めねばならぬのである何となれば、斯る、永久的の大問題を決定するには、輿論の力も、所詮は、其出發の基礎を專門家の誠實なる決意に置くべきものであるから專門家たるものは、輿論の指南車たるべき、愼重の態度を以て之を處理し、堂々たる決意を標榜すべき社會的の義務を負ふものである。更に、他の理由としては、明治四十三年の緊張せる氣分を以て、社會に之を誇張しながら、同じき問題が實現されんとするに際し、其建築が國民の紀念的大建築であることを全く打ち忘れ、變說したかの如き態度にて濟しゐることの奈何に不合理なるかを感得せねばならぬことを指摘したい。

吾人は、這回の提案が我國財政計畫上相當なりとの事務官的說明を數次耳にしたけれども、夫れは、別に尊重の價値なきものと思ふ者である。若し、專門家にして斯る說明に敬意を表し議院建築は國民の紀念的大建築にして、百年二百年を通じての大問題なれども、其建築が、國家現時の財政に累を及ぼし、國家の存在、國政の運用、さては、國防計畫にまでも妨害を與ふ

るの慊あれば、涙を呑むで、其意見を徹回し、大藏省經理官の命に從ひ、唯一省の政務公館として之を取扱ふことに同意したものとすれば、其愚や竟に及ぶべからざるものと謂はねばならぬ。抑も、現時に於ける我國の財政は奈何に貧弱なりと雖も、數百年を通じて唯一箇の要求たる議院建築の工費を支辯出來ぬ程のものではない。又、國民も決して其建設を贅冗不急なものとして反對するものではない、殊に世界的强國の一として各種の發展計畫を樹てんとしつゝある進取的國民が、其國民の紀念建築の建設を拒む理由なきにあらすや。唯、其必要の急要に遇ひ、不徹底なる一公館にてお茶を濁すことは、よもや之を稱賛することはあるまい。若し、大々的紀念建築の計畫の前提として半永久的の一公館を建設し、十年乃至二十年之を利用して、其間に十分の準備を具へ、以て、世界各國に恥ざる國民的の大建築を建設せん計畫ならば、或は、却つて大に賛成するかも知れない。前林田衆議院翰長の談話は其邊の消念を漏らしたものとも見られる。吾人は、財政計畫に容喙するものではないけれども、我國の富の程度及發展計畫より推定して、二千萬圓の議院建設費を十年乃至十五年間に亘りて之を支辨することは、少しも苦痛を憾ぜざるものと思ふのである。之を經濟上より觀るも、二千萬圓の金額は、一運送會社の一ケ年の收益にも及ばぬのである。又、戰時利得稅の一ケ年分に於ける數分の一にて一擧に之を支辨し得るではないか。若し、地價差益稅を適當に徵收して、其一割づゝを斯の建築費に向けるとすれば、數年ならずして之を充たし得るならむ。然るに、地價差益稅の如き文明的合理上の徵收は、未だ我國にては一毛も之を課してはゐないのである。觀じ來れば、財政計畫上、百年二百年に單に一回の斯の建築費を遠慮して、世界各國に例なき貧弱なる建築を以て議院建築に充てんとする理由は、什うしても見出し得ないのである。

又、技術家の側に於て、現時の時代思想を以て說破された傾向も多少見へぬでもない。其趣

意は、現代は實質本位科學應用の旺盛なる時代であるから、議院建築の如きも、主として科學的設備を完全に成し、外觀其他藝術的の取扱に全力を注ぐべきものではない。從來、各國の採りし國家的裝飾として取扱ひし方法は既に過去に屬し、今日に於ては最早之に倣ふの要莫しといふのである。是れ或は半面の理屈であるならん。併し乍ら、斯る俄仕上げの意見を以て永久的大建築の運命を決定せんとする危險なる態度に說得されて、古今東西を通じての大方針を一朝に破棄すべきではない。吾人は、我國の建築專門家中斯る意見に同意する人は少からんと信ずれども、近來の低調なる我國の專門家には、或は無意識に之に雷同せんとする人なきにも限らずと思惟し、特に之を導破して置きたい。

要之、我國現代の建築專門家は、社會を理解するに餘り冷淡であつた。縱れ聽て、議院建築の如き社會的に重要な位地を求むる事件を處理するに、往々其態度を誤る所以ではないかと想はれる。建築專門家は、指定された條件の下で圖案を作成し、之を無難に實施するを以て唯一の正道とする人もあらんかなれども、夫れ以上更に誤れる社會の輿論を覺醒せしむる處の大なる義務あることを知らねばならぬ。若し、却つて、誤れる特種の意見に共鳴する如き不見識な專門家を、縱し少數なりとも之を發見するのは、我國建築界の爲、又國家將來の爲に痛歎に禁へない次第である。

═ 六 ═ 設計案の募賞懸集

問題は少しく末葉に屬すれども、議院建築の設計を懸賞に藉りて弘く國民一般より募集するの方法に就き、二三の注意を述べて斯の論述の結論としたい。建築の設計を懸賞にて募集することの可否は、本誌前々號に於て二三其議論が載せてあつたから、此處には其可否の議論を述ぶることは抜きとし、唯其方法の好果を生ずや否やといふ點に就てのみ聊か意見を述べる。

一般競技なればとて、全國の有能技術家が全部轡を並べ、眞劍に腕を磨きて之に應募するや否や、蓋しき疑問である。若し唯、製圖師の製圖力量競爭の如きものと成りては、寔に詰らぬ結果に終るのである。之を　國の現時に於ける狀態に觀るに、唯一般の競技といふだけでは、什うしても斯る結果に終る虞が甚だ多いと想はれる。故に、若し理想の通りに成果を得んには其方法に就きて甚深な注意を拂ふの要がある。而して、其注意すべき條件とは。

(一)審査員の人選を十分に詮衡すること

(二)當選者の責任を明確に成し置くこと

是である。斯の二項目は、其成績を左右する重大な問題にして、若し、二者其に其宜しきを得ざらん歟、一般競技の精神は無意味に終り、唯一二の參考圖案を得るに過ぎない。吾人は、斯の二項に就きて、此處には唯其概要のみを述べ他日更に詳論するのであることゝしよう。

審査員は、事務官より兩院の書記官長と各省の代表者を出し、專門家より　學識經驗ある練達の建築技師を採用するとして、其專門家の詮衡は殊に深き注意を拂ふの必要がある。其資格の一例を擧ぐれば、圖案に對して其藝術的價値を批判するに適任なる專門家と、實際的價値を批判するに其選を誤らざる熟練な專門家と、斯の二樣の立場を別にする審査員の選定を爲すが如き方法を謂ふのである。何となれば、大學に在りて日々講壇に立つ人は、圖面に據りて其實際的價値を判斷するには、多少其權威を疑はれるかも知れぬと同時に、實際の建築計畫にのみ沒頭しつゝ來りし人は、其藝術的價値を批判する場合、矢張り多少其權威を疑はれるの傾がある。之等は、建築の如き複雜なる問題では、什うしても免れぬ自然の趨勢でなくてはならぬ。殊に、我國の如き建築技術の幼稚なる時代では痛切に、其傾向を感ずるのである。而して、前者の審査員としては、比較的少壯の人物を歡迎し、後者の場合には、少くとも、十年以上實際的計畫に成功し、構造上又實施上數多困難を切り拔け來りし人物を推薦せねばならぬ。又、其

人數に於ても、少くとも両方面に於て三人以上を要求したのである。

第二の、當選者に向つての問題は、先づ當選者を得て、其圖案を唯參考圖書とする從來の方法は、之を絶對に避けねばならぬ。何とならば斯る競技は、全く、眞實の緊張力なき一場の運動會の如きものに過ぎないからである。抑も、國民的大建築圖案の最善のものを期待するのに斯る兒戲的態度は、餘り物事を手輕に取扱ふものと謂はねばならぬ。故に、當選者に對して最も重大なる責任を負はしめることの約束を定め同時に、當選者は、提供の圖面及其他の設計書類以外に、履歷上其人格と學識、經驗を十分に保障し得らるゝものでなくてはならぬ。若し、圖案及書類に於て、幸に最優者として確定するも、其人格と學識、經驗に於て深く信用し得ざる者は、之に最後の當選賞を與へざるも致方がないのである。素より、斯の方法は、幼稚なる我國の建築界に於ける一變則な方法にして、各國に餘り其例を見ざれども、指名競技なるものは、約り、斯の方法を逆轉したものと見ても差支がない。指名競技は一般に門戸を開かざる嫌あれども、斯の方法は、一般に門戸を開き、最後に其信用程度を附加するのである。

以上は、唯大体論に過ぎざる注意事項であるけれども、我國に於ける經驗少き懸賞募集の方法に多少の參考と成り得ることゝ信ずる。而して、吾人の本意は、這回の議院建築案に就ての大方針の匡正を主張するのであつて、懸賞問題の如き末葉の事柄は、其方針が確定したる後に於て論議することゝする。

瀧をはやみ
岩に堰かるゝ瀧川の
われては末に
あわんとぞ思ふ。



都市と建築

大阪北區大火と倫敦大火

會員　都市研究生

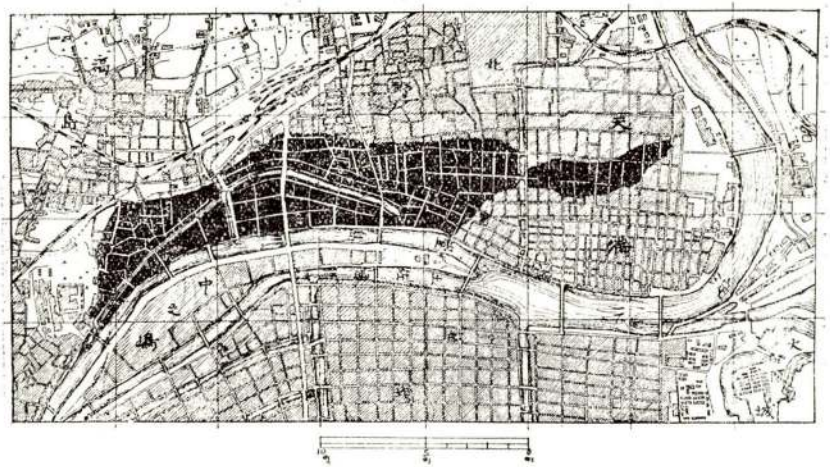
明治四十二年七月三十一日午前四時を過ぐること三十分北區空心町二丁目（天滿方面）の莫大小製造者玉田正太郎と言ふもの丶家より失火し、翌八月一日午前八時まで僅かに二十四時間許りの間に、東西延長三十町四十間南北の廣さ平均四丁、を燒き拂ひ、近年稀なる大火を演出したる事實は、今は早や一般には、餘程記憶から遠ざかつてゐるのである。斯る大火は恐るべきものであるけれども、滅多に來ることのなきものなれば、左程注意すべきものではあるまいと言ふのが、現時我都市人士の一般思想であるかと想はれる。併しながら之を少しく緻密に考察すれば、中々以てかゝる空頼みを當てにすべきではない、何時復それ以上の恐るべき祝融の御見舞を受けぬとも限らぬのであるから、吾人は我大阪北區大火を、唯一時の災難と考へず、復々來るべき斯る災害に對する防備を研究すべく決心せよとの天の命令であると感得せねばな

らぬのである。大阪北區大火は、一六六六年（今より貳百五拾參年前）の倫敦大火と大体其廣袤を仝じくするから、此處に兩火災の記事を同列に掲げて、如何に我國の人士が、災害に無頓着であつて、少しも將來を考へないかと言ふことの誡にしたい。

	燒失戸數	燒失區域面積
倫敦大火	一萬三千三百三十戸	五十三萬三千三十餘坪
大阪北區大火	一萬一千四百〇三戸	三十六萬九千四百餘坪
倫敦大火		
大阪北南大火		

大阪大火の記

明治四十二年七月三十一日午前四時三十分、北區空心町二丁目七十番地莫大小製造業玉田正太郎氏方より出火し、初めは大したる火災になる程でもなかつた、先づ普通の火事のように見へたと言ふのは、風速僅かに、一秒間六米突より十米突までの間であつたからである、然るに家屋の構造の如何にも、燃へ易き小柄もの澤山に出來て居るところへ、七月の炎天に乾燥し切つて居た爲めに、又消防の手行き届かぬ時間であつた爲めか、漸次に延燒して、北東の增進する風力に煽られ、次第に西南の町々へ其紅蓮の舌を擴げてしまつた。然るに日出后に至り消防の勢揃ひする頃は、風速漸々加はり且つ水の手惡しかりし爲め、どうしても消し止める譯にゆかず、火は次第に擴がりて松ケ枝町、岩井町、壺屋町二丁目より河内町、此花町を嘗め、やがて浪華第一の名社天滿天神の宮を襲はんとしたが、危く同社を殘し天滿座を外にして天神橋筋二丁目へ燒抜け、旅籠町の天滿郵便局を全燒して、東堀川町へ燒出で、遂に堀川橋を渡りて、西堀川町、伊勢町、富田町、木幡町に出で、西天滿小學校を燒拂ひ、老松町一、二、三丁目に及んで來た、此時風速は漸次其勢を增し、消防夫は疲勞に疲勞を重ね、午前中延燒區域の小なる時に、且つ風速小なる時にさへ消し止めることの出來なかつたのであるから、紅蓮の舌は向ふ處を甜め盡さねば止まぬようになつて來たの



大阪北區大火燒失區域地圖　（格子ハ五町角）

である。

斯くて午後の延燒區域及速度は午前の比にあらず、又其燒け行く火の河の幅も次第に廣くなり、東西梅ヶ枝町より、若松町に噴出し、北區役所、北警察署、大阪控訴院、地方裁判所等を炎上し、回生病院を燒き大江橋にも燃へ移つた此頃に至り、第四師團司令部より援助として、約三百名の兵士を派して、消防隊と協力其消防に盡力した外に、附近都市より陸續援助の消防隊繰り込み共に協力したのであるが、風速益々加はり、一秒間三十米突以上にも達したから、其火焰の風下は數丁の間之に接近することさへ叶はず、大江橋北詰に延燒したる時は午後四時頃なりしが其時間の前後は一時に十七八町の長さに亘り一齊に燃へ盛りたる有樣にして東は控訴院の大建築より、西は渡邊橋北詰まで、北はお初天神、曾根崎一圓を、殆んど同時刻に燒き盡した其火焰の進む速さは、實に凄じきものであつた。其風速は後で査べたのでは、たしかに秒速三十六米突であつたと言ふことである。火

焔は尙ほも勢を得て梅田町より福島一圓に及び阪神電鐵の線路を限りて喰ひ止められたけれども、最後の修焉は風速の弱りたると、福島、日本兩紡績會社の煉瓦塀に突き止められたのと、阪神、西成の兩鐵路に遮斷された爲めであつた其時刻は翌日の午前五時頃にして、延燒時間丁度二十四時間と三十分であつた。實に近來見ざる大火災であつて、大鹽の兵燹より七十三年目に當り、同じく酉歲であつたのも一奇なりと言はれて居る。

燒失したる著名なる建物は。

大阪控訴院、地方裁判所、北區役所、北警察署、回生病院、米穀取引所、北濱銀行堂島支店、知事官舍、控訴院長官舍、商品陳列所、測候所、お初天神、大阪高等商業學校、藤田組等。

にして燒失戶數一萬一千四百〇三戶其面積三十六萬九千四百三十八坪に達した。畏くも　聖上皇后兩陛下より罹災者御救恤として金一萬二千圓御下賜あり、日野西侍從をして、具に災害の狀況を視察せしめ給はりたり。

人民の死傷は、燒死一名、重傷五名、溺死八名、微傷は無數であつた、消防手の之に奮闘したるもの、八百十九名、警察員千七百二十三名であつたと言ふことである。

吾人は直接此火災を詳しく、觀察することが出來た其感想を平たく言へば、風速の一秒間三十米突以上の場合に木造家屋を以て、大火の風下に立つことは、如何なる消防方法を以て、之に防禦線を張るとも、所詮延燒を免るゝことの出來ないものであると思はしめた。木造都市に於て、唯數箇の喞筒や、防火水栓を以て、安心出來る筈のものではない、若し市街の一端より失火し、颶風とでも一致すれば其風下に都市全体が控へて居た時分には其都市の他の一方まで全部燃へ拔ける筈である、思へば我國の都市も常に風前の灯のような存在に滿足して居るようなものである。大阪にても所謂新町燒と稱する大火のあつたこともあるし、東京にては有名な明曆三年の御小袖燒もあつたのである。今日若

し斯かる恐るべきものに出遇つたら、我國の經濟上の打撃は蓋し容易からぬものである。積極的の防止計畫の必要なること、今や年ど共に益々其急を告げて來たのである。防火區域の設立と、防火區域内の建築を防火構造に改造せしめること、之れ今日の我國都市の急務である、それにしても建築條例の基礎的國法を一刻も早く制定したいものである。

倫敦大火の記

（一九一六年十二月ビルヂングニュース所載による）

千六百六拾六年の大火で倫敦が一たび消へ喪せたことは、シエキスピアの言ふた通りであつて、今、其大火の有樣を一通り記述すれば、仝年九月二日の日曜日の早朝二時頃に舊倫敦橋詰なるパッヂンク、レーン（通り）の麭包屋から失火し、テームス河畔に沿ふて西へ西へと燃へ移り、二十四時間にドーゲートにまで達し、漸く市街高臺に延燒せんとしたが、さしたる大火になるとも思へなかつた。翌日は（月曜日）火勢漸く熾と成り、グレース、チャーチ街を燃へ上りロンバード街を殘らず燒き拂ひて、王立取引所や其他市内の富の中心たる、寶石貴金屬商店大貿易店、船舶取引商店、大商人の住宅等を仝部灰燼に歸せしめたときより、東風は益々荒れ廻り、各方面へ火の手を擴げてしまつた。

時の市長トーマス、ブラッドウォース卿は、無能力なる消防組織の責任者として批難され、其位地に据ること出來ずして罷免され、仝日、チャーレス二世王は、皇弟ヨーク公を司政長官に任命するの已むを得ざるに至り、各司政官や市政會議員たる諸卿は、消防所に集り、頻りに凝議を爲すのみで、實際何等適當の消防方法を案出することも出來なかつた。尤も、其當時の手押し喞筒は、二三斗の水を四五間の距離に注ぎ込む位のもので、其外には、鳶道具と手斧、梯子抔を消防用の機關として、寺院又は大會社

の物置に備へてあつただけである。

月曜日の夜に入り、火は遂にブラックフライヤー附近のベーナルド城に移り、其時、テームスを横切りて避難者や家財を舟に運びつゝあつた無數の小舟からは、さながらの火焔に包まれたる赤熱紅蓮の大都市の偉觀に、驚きながら凝視せざるを得なかつた。斯くして、火の手は、チープ、サイドの廣き通を越へて市の北部に燃へ移つたのは、其翌火曜日の曉方で丁度其時視察に出掛けて來た國務大臣アーリングトン卿の報告は、左の通り悲觀的のものであつた。

『火事は、今や我倫敦市の中心に喰ひ入り、猛然として暴威を逞ふし、最早セント、ポール寺院まで進んで來た、此の上は、奈何なる技術と努力を用ゆるも之を消し止めることは出來ぬ、唯一縷の望みは、神の助けを信じてホルボルン橋からプライドウエルに至る線を限りて市を中斷するのみである』

と。然るに、火焔の暴力は、此の線を突破してフリート、ストリートに延び、テンプルをも燒き拂つたのは、其日の夕方であつた。

火曜日の火勢は、前二日よりは更に激しく、遂にギルドホールに延燒し、其大建築の罹災の夜景は、遠方より光輝燦然として金色の大厦の兀立せる如くに視へ、偉觀壯絶のものであつたと傳へられて居る。（記者曰ギルドホールは主体として堅實なるオーク材を使用せし爲ならん）拾萬の市民は燒け出されて凡て市外の空地に野宿を爲すの慘狀となつた。

チヤーレス王は、護衛の一隊と共に馬上市内を巡視し、時には、一二の侍從のみを連れ東奔西走の活動であつた。王は、金貨入りの大袋を持參して、火災防禦に努力する消防夫に其金貨を撒き與へられたのみならず、自ら馬より下りて、消防の一隊に加はつたことさへあつたといふことである。

火曜日の夕方、舊聖ポール寺院の屋根は燃へ落ちた、全市は益々恐怖に襲はれ、王室の重寶はホワイトホールより河を溯りて幾分づつ運ばれ翌曉には、王母はソーマーセット宮殿より避難

して、ハムプトンコートに行啓といふ始末。愈々窮極の策として、今度は、チャーリング、クロスにて火を喰ひ止めん爲、其線を限りて家屋破壞の手段を採るに至つた。然るに、幸福にも、其夜十一時に至りて風は歇み、延燒の患も少く成り、唯クリップルゲートやシューレーン及テンプルに再發の小火を消し止める位にてさしもの大火も、四晝夜を經て、木曜日の日出と共に鎭火した。

斯の大火の罹災面積四百參拾六エーカー（約五十三萬三千坪）にして、壹萬三千貳百の家屋八拾七の寺院、四拾參の商會堂（コンパテホール）及一大寺院は燒失した、實に歐洲に於ける空前絶後の大火災と謂ふべきである。

倫敦大火は、其燒跡の狀態に於て大阪大火に酷似し、テームスの北岸一帶を一掃したると、大阪の堂島川北岸一帶を甜め盡したるとの有樣に於て、又其燒失戶數が何れも壹萬を少しく越したる點に於て、燒失區域が三十七萬坪と五十三萬坪と相接近する點に於て、全く一の暗合である。然しながら又甚しき差異をも發見するのである、倫敦大火に於ては、其火災の時間は四晝夜に亘りたるに、大阪大火は一晝夜を以て終りたると、彼に於ては其大火に懲りて、新築の際には建築構造を全く一變し、從來の木骨建築をば努めて、煉瓦壁体に改造せしが如きは、其著しき點である。固より四晝夜間も延燒を消し止め得ざりし不手際は、之を賞讃する譯にはゆかぬとして、此處に見遁すことの出來ぬのは、其當時の倫敦の家屋と雖も、我國の四分板や、美濃紙又は藁や竹細工物の多い構造物と其趣を異にし、燒失するのに、三倍以上の時間を要したことである。それにしても、倫敦市民は其苦痛を將來に免かんとして、大火以來大に警戒し、相當防火力のある建物を造るようになつたのである、倫敦には其後大火は全く跡を絶つたのは、火の要心が堅固になつたのではなく、家屋の構造が改良されたからである。我國は古來幾度か、恐るべき火災に惱みながら、罹災後も矢張り前と同樣程度の家屋を、平然として建て並べ

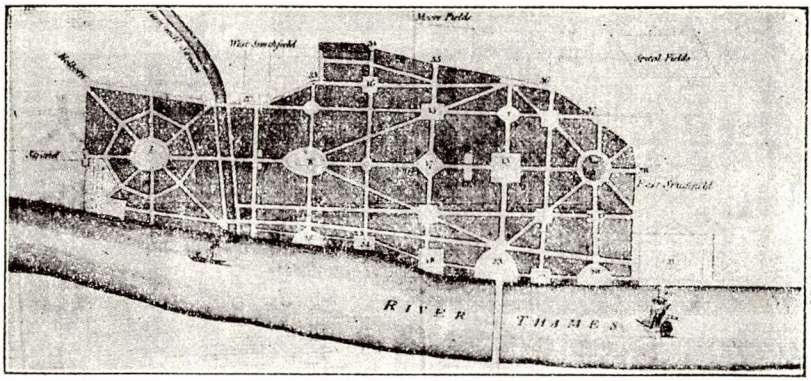
一向心配もせぬところは、無謀と言はうか、其日暮し式と難ずべきか、何れにしても、常識を疑はれる遣方であつた。吾人は最早大々的覺醒をなして、斷然斯る非常識の態度を棄て、經濟的預見思想を重んじ、科學的設備に倚りて、都市の確實なる存在を計畫せねばならぬ。

乍併、倫敦に於ても、今日より見れば可なり重大なる誤を遣つたのである、即ち建築其物の燃燒質なるを避けることは相當に自覺したけれども、其大火の機會を利用して、市街系統の大改善を實行しなかつたのは、取り返しの付かぬ失敗であつた。其當時にはクリストファー、レン卿や、ジョン、エベリン卿が、獻策したる改良計畫が、皇帝の御前會議に於て否決されたことは、有名なる逸話として殘つて居る。次の頁に右改良計畫の圖案を掲げて、其當時の狀況の一端を紹介する。

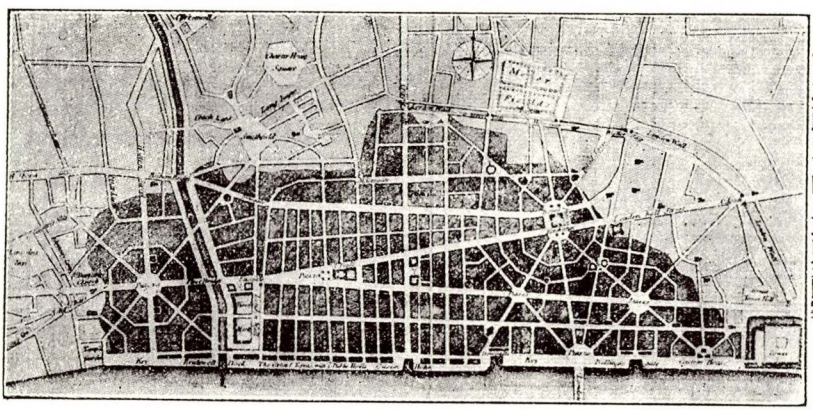
大阪大火の第一期

火元玉田庄太郎より發火するや、直に同所受持消防屯所（距離約七丁）より消防車を轉出し、直近の水道防火栓を利用し、防禦に努めたるも、水壓力の微弱なると、火元の小學校に近接せるとに、當時風力の強烈なりしが爲め、毫も消火の功を奏せず、忽ち小學校に延燒し、火勢は益猛烈を加へ、各消防組の應援を求め、戮力防火に努めたるも、遂に豫定の目的を達するを得ず……」

（大阪大火災公報拔萃）



ジョンエベリン卿の倫敦燒跡の市區改良計畫圖案



クリストファーレン卿の倫敦燒跡の市區改良計畫圖案

大阪市街改良法

大阪市は、這回、時代の機運に乘じ、市街改良條例案を作成して、其制定を當局に迫ることゝなつた。素より、其細則に至りては、更に研究の價値あり、又種々なる曲折あることであらう、けれども、其方針として、歐洲大陸には既に、古きは數十年前より、新しきも十數年前より實施しつゝある市街地分劃法や都市計畫法、及建築法規等をも參照とし、大阪市を將來に改良發展せしめるに便利なる、一の法律が制定されんことを期待するのである。東京には、明治廿一年に發布の市區改正條例ありて、今日まで其法律を背景として可成り大膽に街路の擴築新設等を企てた。其結果に就ては、必ずしも凡て良好なりと謂ふを得ざれども、兎に角、國法の權威を以て初めて實施出來たのである。我大阪市は、古來町人の都として、又、中古の籠若くば徒歩の人を運ぶ時代の遺物其儘の都として存在しゐるのであるから、今日は、交通經濟其他の關係上到底之に滿足出來る筈はない。電車經營の爲めに、其線路に當る部分は多少擴築を爲したれども唯應急的手段に過ぎず、今日では其線路さへも交通上甚しき不便を感じつゝあるような始末である。若し之を將來の發展に稽るに甚しき困難に陷るは、火を睹るよりも瞭である。茲に於て、大阪市は、曩に、都市改良計畫調査會を組織し、其問題を考慮して、何等かの具体的研究を爲さむと企てたのである。都市改良計畫調査會は、今續行中なれども、其計畫が一般に承認さるゝ曉に其實施を容易くせしむるには什うしても、國法の權威を以て相當に保護せねばならぬのである。這回の改良法案は即ち、其意味にて之を當局に申請し、更に一般輿論の後援を得て、成るべく速に國法たらむこと是れ吾人の希望に禁へぬ處である。而して、右草案は

現行の東京市區改正條例に比すれば、極めて積極的且つ進歩的のものにして、其適用區域を市接續町村にまで及ぼし、北は、新淀川より、南は、大和川にまで達せしむるのである。其包括せる項目は、市區改正の外に、

(一)土地增加稅の賦課、徵收。(二)地方稅一部の徹廢。(三)衛生上必要と認むる場合の貧民窟改造。(四)耕地整理法に準する宅地分劃法。(五)土地收用法に對する除外例。(六)建築條例に關する規定。

なり。とす而して、其要旨を擧ぐれば左の通りである。

市街改良法要旨

一、大阪市街改良設計及毎年度に施行すべき事業を議定する爲め、大阪市街改良委員會を置き、內務大臣の監督に屬せしめ、其組織權限は勅令を以て之を定むること。

二、大阪市街改良事業を施行すべき地域は、大阪府大阪市、西成郡豊崎町、中津町、鷺洲町、稗島村(以上孰れも新淀川以南の部分)傳法町、今宮町、津守村、玉出町、粉濱村、東成郡城北村、榎並村、鯰江町、城東村、中本町、鶴橋町生野村、天王寺村、住吉村、墨江村、安立町、敷津村とすること。

三、大阪市街改良事業の施行に要する費用は關係市町村の負擔とし、其負擔の割合は、市町村の意見を聽き、大阪市街改良委員會の議決を經て內務大臣之を定むること。

四、大阪市街改良事業は、大阪府下郡部に於ては大阪府知事、大阪市に於ては大阪市長之を施行するものとす。

五、大阪市街改良事業の經費を支辨する爲め、關係市町村は、內務大藏兩大臣の許可を經て、土地增價稅を賦課し且つ地方稅制限の範圍を超へて地租、所得稅、營業稅の附加稅を賦課し得ること。

六、道路、公園、水路の變更、新設、擴築に關し一宅地を爲すに足らざる殘地を生ずるか、又は之に伴ふ土地區劃形狀の變更、整理を要するが爲に必要なる土地は之を收用すること

を得、工事施行後に生じたる殘地は、市町村に於て適當に處分し得ること。

七、衛生上特別の必要あるときは、地域を定めて其地域内に存在する全部の土地建物を收用し、改良に必要なる設備工事を施行し得ること。

八、一定區域内の土地所有者總數の二分の一以上にして、其區域内の土地の總面積の三分の二以上に當る土地所有者の申請に依り、市町村に於て必要と認むるときは、内務大臣の許可を經、他の所有者の同意を得ずして、土地區劃の改良整理を爲すことを得、但し、整理の施行は、大阪市街改良委員會の認可を得たる設計に據るべきこと。

整理施行の爲、國有又は公有の道路、堤塘、溝渠、溜地、濱地等の全部又は一部を廢止したるに依り不用に帰する土地及整理區域内に存ずる國有又は公有の空地等は、無償を以て整理地域に組入れ、整理後新に築造したる道路、廣場、其他公共用に供する土地にして、前記廢止したるものに代るべきものは、無償を以て國有地又は公有地に編入すること、但し、後者は前者の地積の二倍又は總地積の二割を超ゆるを得ざること。

整理施行後、參加土地所有者には、從前の地目、面積位置等を標準として換地を交付すべく、換地の面積一宅地を爲すに足らざる場合其他已むを得ざる場合には金錢的補償を認むること。整理施行の爲め土地又は建物に付登記を受くる場合には、登錄稅内地方稅を免除すること。

區劃の改良整理に要する費用は施行者の負擔とす。但し、市町村は、土地所有者に代つて事業施行の任に當ることを得、此場合には、設計及監督に要する費用を負擔し、又は費用の立替拂を爲し得ること。

九、一人の大地主の所有する土地區劃改良整理に關しては前條の規定を準用すること、但し、全條第五項但書に付ては此限に在らざること。

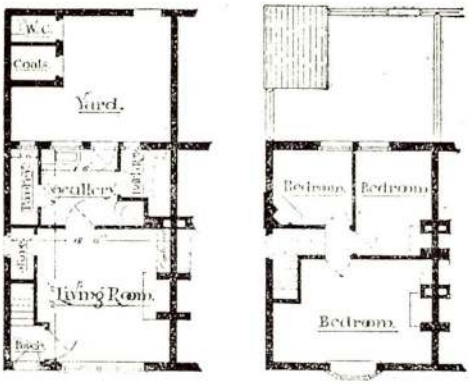
十、市町村は、市街改良委員會の議定を經、內務大臣の許可を受け、條例を以て市町村の全部又は一部に對し建築及土地使用に關する制限を設くることを得。

英國のポート、サンライト田園都市

ポート、サンライトは、リバプール市外に新設されたる工場附屬の理想的田園都市にして、リバー石鹸製造工場を中心とする職工町であることは汎く人の知る處である。今少しく其實情を紹介して、聊か、我國の現時勃興せんとする郊外住宅經營の參考としたい。

初め、ダブルユー、エチ、リバー氏は、自己經營に係る石鹸事業の漸次發展せんとする機會に、ワーリントンに於ける小規模なる從來の工場を放棄して、郊外の水運、陸運共に便利なる處に地を相して、一面大規模の工場を建設し、傍ら、職工に改善住宅を供給せんと決心し、一千八百九十年、プロムボロー、プールに於て二百三十エーカーの土地を購入し、其中、六十エーカーを工場及事務室用とし、百四十エーカー（約十七萬坪）を住宅地と定めた。其地價は、一エーカーに付平均二百四十磅（我國の一坪に換算すれば二圓弱）を支拂つたといふことである住宅の建て方は、三軒乃至九軒を一團と成し、同じき形のものを一對づゝ建てることゝして、街路は、大抵は幅を四十呎と定め、或場所は七十呎とし、中央の二十四呎を車道と成し、歩道には八呎乃至十呎を取り、宅地の前庭を更に十八呎乃至三十呎とした。故に、向ひ合せの家屋の隔りは、八十呎乃至百呎となる勘定である。而して、其前庭の草木、花園は、リバー會社の園丁によつて培育され保管さるゝが故に、住居人は少しも手を入れずして愉快なる綠園花圃の間に生活する譯である。又、住宅の背面は、廣濶なる庭園に面して、果樹、野菜畑と成すを普

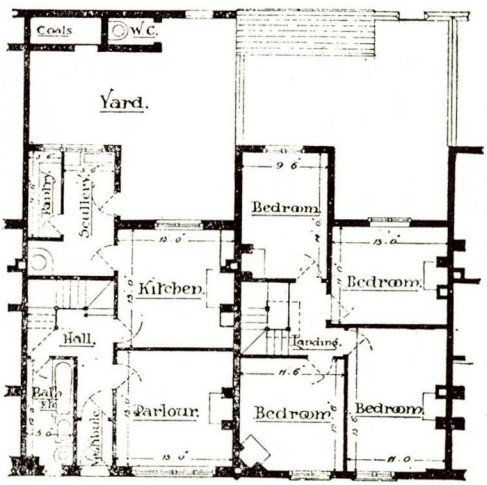
通とし、中には、貸畑地を設け、住居人は、多少の賃錢を支拂ひて自己の樂み半分に耕作をなし得る組織となつてゐる。左に、リバー氏が千九百二年三月、建築協會の會合に於て演述せるボート、サンライト田園都市の住宅概要を摘記せんに。



『余輩の計畫せる住宅は、大体二樣に區別出來る、即ち、コツテージ（田舍造り）及バーロア（都造り）の二種である。而して、コツテージの標準の設備より更に一般程度の低きものをも一種設けたのと、又、技師、敎師、醫師、其他管理人の爲に多少設備を余計に加へた家屋をも建てた以外には、大体、凡て最近の村莊（コツテージ）式のものを採用した。扨て、余輩の標準家屋は奈何なる方針に據りしかといふに、凡ての住宅には必ず前庭を設けて、道路より相當の隔りを取り、其前庭は、凡て一定の秩序と保管を爲すことゝし、縱へ一部たりとも不規則な穢き取扱のなきように、主任園丁を定めて之を培育及掃除せしめることゝし、其費用は、一前庭毎に毎週三片（ペンス）と定めた。而して、コツテージの各園には、必ず貸畑地を附屬せしめ、各戶夫れ々々に區劃を定めて、野菜其他の食料を耕作し得る以外、住居民の健康增進には、最も良き安全辨たらしめた。

コツテージ型の住宅には、階上に三箇の寢室を、階下に、居間と台處（キツチエン）、炊爨（スカラリー）、浴室及食料貯藏室（ラーダー）を用意し、小き後庭に塀を廻らして物

置様のものを造ることゝした。吾人の經驗に據れば、之等の各室は、余り大小色々の工夫をなすことの無駄なるを感せしめた。其理由は、室の面積大なるに從ひ、掃除其他に主婦の手間を要すること多く、却つて嫌はるゝ傾がある。又、余り小さきに過ぐれば、家具什器を置くに不便を感ずるゆへ、不平を懇ふる種子と成り、結局、手袋と等しく丁度適度の



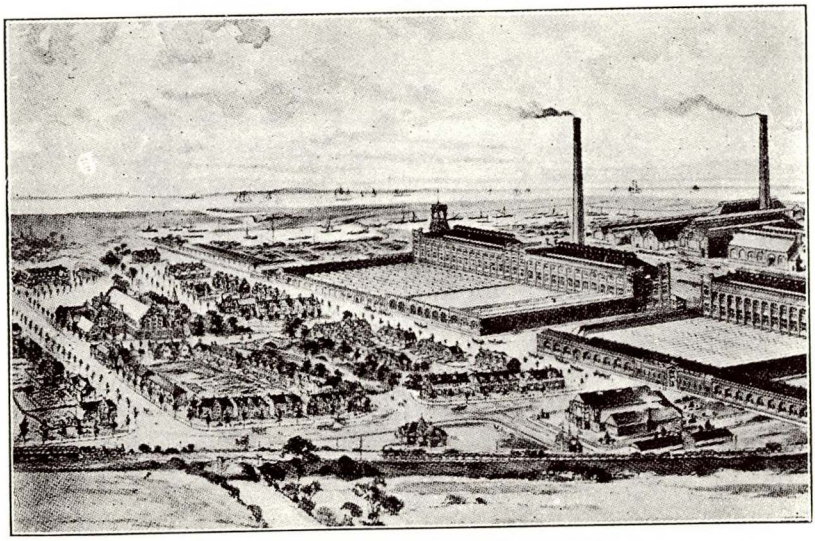
大きさを要求するのである。

バーロア型の住宅に於て、コッテージ型の住宅と異る点は、階上に寢室一箇を增し、階下にバーロア（談話室）一箇を增すのみである。而して、斯の型の炊爨室には、炊爨用竈を設くる場合に、台處は全く食堂として使用し得るの便がある。旁々非常に歡迎され、借り手は、殆んど永久の住居と心得て之を使用するようである。

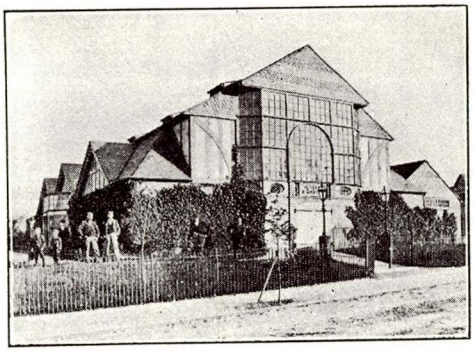
ボート、サンライト田園都市建設に就て資本關係の概畧を述ぶれば、地所百四十エーカーの買收費、コッテージ、バーロア、學校、店舖、倶樂部、研究所の建設費、道路の築造費公園設備等一切の爲に三百五十萬圓（三十五萬磅）を費した。コッテージ型一軒の建築費は、初めは（十三年前）二百磅なりしが、今は、三百三十磅と成り、又、バーロア型のものは、初め三百五十磅なりも、今は五百五十磅を要するように建築費の騰貴を來した。而して、リバー會社は、之等の投資に對して少

しも利益配當を求めず、唯、租稅、修繕費、及維持費を支拂ひ得る程度の家賃を徵集するのであつて、コッテージ一軒の家賃は、初め一週三志なりしも、今は五志となつた（一箇月に付六圓五十錢乃至十圓七十五錢）尙、住居者より常に申出づる過大の手入れ其他を加算したり、或は、建築物の償却其他を計算するときは、我ポートサンライトの如き經營は當分經濟的投資として、或は其成立が困難であるかも知れぬ云々』

ポート、サンライト會館は、實に、完備せる組織として、一千八百九十一年グラッドストン卿の開館に成るのである、中には一千人を收容し得る廣堂を有し、音樂會、會食其他に使用し別に、ハルム、ホールありて、單に食堂（レストラント）として使用され、一千五百人のものが一時に會食し得るのである。其他、使用人の爲に建てられてゐる處の貯蓄銀行、子供の小錢を浪費させぬ爲の學生貯蓄銀行の設けありて、一方には、智識開發の爲に、俱樂部組織の講演會其他の準備を恒に怠らぬように出來てゐる。斯くの如き住居設備と其常習に就きての注意は、住者に肉体的及精神的の好果を與ふること、殆んど疑ふの余地がないのである。別項に於けるポート、サンライトの兒童とリヴアプール市の兒童の發育が奈何に著しき差異を示せるかの統計を參照すれば之を具体的に識ることが出來る。又、全体の死亡率も非常に低く、開市以來七箇年の統計に觀るも、一千人に付九人八分にして、我東京市に於ける死亡率の丁度半數である。識工階級の健康向上は、今後の急要問題であることに念ひ至ると、我國の現狀は、果して滿足し得べきや否やは、之を深刻に考慮するの要がある。ポート、サンライト田園都市の斯の記事は、以て、我國に於ける事業經營者の指針となるべきものではあるまいか。

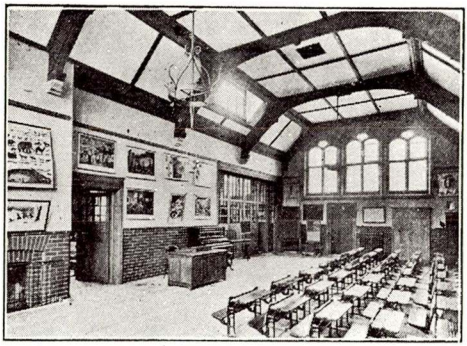


ポート・サンライト田園都市全景



同上の大集會所たるグラッドストーン會堂

ポート、サンライト田園都市の諸景



學校內部



コッテージ型住宅（プリッヂ町）



日用品販賣所



大阪市の細民住宅に就て

第三部委員　K. U. 生

はしがき

近時我國經濟界古今未曾有の高潮は、細民に關する各種の問題を一層緊張せしめたのである殊に大都市に於ける細民住宅問題は都市計畫のそれと相關聯して、社會の注目を惹き、改善のために何等かの解決が切に期待せられて居る、第三部委員會は同問題研究の一部分として、大阪市内の細民住宅の實地調査を企てゝ、實例に親察に熱心なる研究を持續してゐるがこゝに自分の報告稿の一部分を登載することにした、繁忙の際もとより杜撰の點の多いことは免れない、他日補正する事としたい。

細民住宅の標準

曩に内務省が東京大阪兩市に於て、辛して一戸世帶を構へたるものを標準として數回、萬余の細民につき、戸口調査、長屋調査及金融機關調査等を最も精密に行ひ、防貧救貧の社會的大事業の遂行に有力なる資料を發表したる事がある。

尙近時警視　は社會的政策の資料、犯罪研究乃至は慈善的救濟の參考に資せんがため東京市内の細民を左の標準を以て精査し、一種の細民臺帳を編成し終り、尙引續き接續町村に及び調査の歩を進めつゝありと聞いて居る。

△一戸一人の月收九圓以下

△二人にて十　圓以下
△三人にて十七圓以下
△四人にて十九圓以下
△五人にて二十一圓以下
△六人以上同居人を加算して一人宛四圓以下

これらは何れも細民をその富の程度によつて區分したのである、則ち彼等が今日身体を保持するに必要なる生活費の收額を現時の一般經濟狀態に比較して定めた最も適切にして便利なる標準である。

然し單に經濟狀態ばかりでなく、廣く人類生活の本義に觸れて、社會的に細民の度合を定めることは現下最も必要なる事柄であるが、また同時に頗る困難なることを免れない、まして彼等が日夜居住して、社會的活動の出發點ともなりまた最終の避難所ともなるべき住居に對して所謂細民住宅の標準を定むることは、尙一層困難であると言はなければならない。

從て今日彼等の居住する家屋のみを以て直に細民住宅とすることも余りにその範圍が狹少である樣に感ぜられる、況や大都市に於ける細民の範圍とその移動の率は時々變轉するにかゝわらず、その住家は寧ろ固定的にして永久に都市住宅の一部を形成するに於てをやである。

かゝる諸點よりして、都市細民住宅はこれを出來るだけ廣義に解釋したいのである、從て本稿に於ても、今日必ずしも細民住宅と見做すべからざるものにも觸れて居るかも知れないと思つて居る。

細民住宅と共同住宅舘

現今一般に細民と稱せられて居るものを、日常の居住狀態から大きく分類すると凡そ次の三通りに區分することが出來る。

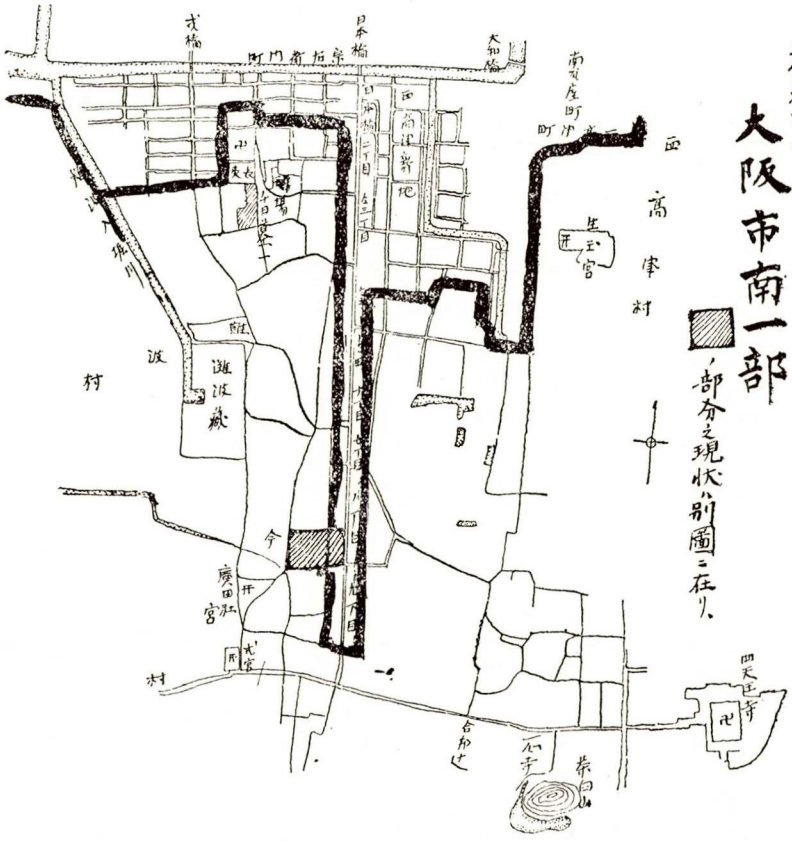
一、辛じて一戶世帶を構へ、獨立して生計を營むもの
二、官公立合宿所、慈善的收容所乃至は木賃宿に常泊して、共同生活を營むもの
三、全く放浪生活をなして居住一定せざるもの

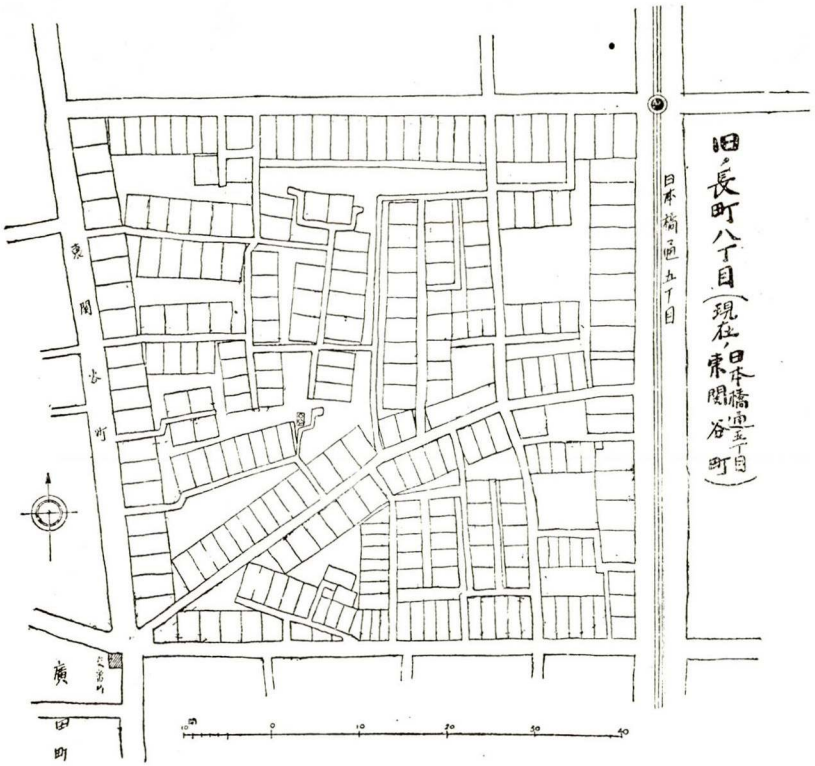
辛じて一戶世帶を營むにも程度あつて一戶一

軒を占有するものより、數世帶の寄合に至るまで、その範圍は實に廣いのである、その最も悲慘なる境遇に頻して居る者はやがて、二、三、へと移動し、放浪の家なしものもまた救はれて合宿所の人となる事も決して少なくない、所謂細民の移動が常に行はれて居るのである。

從つて細民住宅と細民共同舘とは常に相伴ふて研究すべき問題であると思ふ、歐米諸國にてはこの共同收容所の經營によつて細民救濟の實を擧げ彼等をして、より健康なるより安全なる生活を營ましめて居るのである。

舊幕時代に於ける大阪の細民住宅





元和元年大阪落城後、幕府は新に市制を布き、大阪城の修築を始とし、河川の開鑿街路の割付等鋭意市街の整理を斷行し、南北天滿の大阪三鄉の面目を一新した、これや今日の大大阪市に始めて培かつた嚆矢である。

當時より大阪市民は、町人家守及借家人の階級に分れ、町人家守は土地家屋を所有し、町内の公事一切に預るも、借家人は町中一切の義務を負担する必要はなかつたが、一面には公民として毫も權利を有することが出來なかつた、則ち彼等は公民權を有する丈の富の程度に達せなかつた細民と見る事が出來る、裏居住と細民との緣も古きにあることが偲ばれるのである。

尙大阪三鄉及接續町村には穢多

非人と稱して、殊更に階級的に取扱はれて居た細民のあつた事は無論である。

町奉行は常にこれら市民の生活に嚴重なる制裁を加へ、殊に家屋に對しては、表家、裏家、母屋、借家と各區別をたて外觀結構は勿論內部の諸造作に至る迄相當の制限をなし、今日の如き自由なる住宅建築は許されなかつた、從つて細民住宅の如きは可成悲慘なるものであつたに違ひない、寶曆十年細民救濟の目的にて家賃引下の覺書によれば、表借屋十疊以上の分一ケ年九十文裏借家九疊より六疊敷迄の分六十五文、四五疊敷以下の分四十文とあり。また元祿年間急增せる非人の處置に苦み遂に彼等を集合せしむるを可として、大阪に於ける細民舘（非人小屋）の例を當時の塲末に開いたのである。

富崎町（東區田島町の北町）西裏に二十軒、生駒町（空堀町）六十三軒及尾張阪町（西新兵屋町）に四十軒と三ケ所に分設して、合計百二十三軒何れも一戶一間に一間半の長屋であつたらしいこれらの令達施設は大阪三鄕當時の輪廓と、細民住宅及共同救濟所の規模を想像せしめ得るものである。

大阪は當時既に本邦商工業の中心地として、物貨の集積頗る豐富にして、其調節も最も宜しきを得たが、天災殊に飢饉凶作に遭遇しては常に夥しき窮民糊口の途を失ひ、路頭に迷ふたのである、此等の救助すべきもの、享保の六千余人、天明の五萬七千五百余人、皆、其例である。

天保年間大塩平八郎の變亂と大饉飢に引續き幕末の騷亂は經濟界に著しき變調を來たし、生活難に追はるゝもの全國にみち、衣食の途につかんがため大阪に流入するもの日々增加し、老幼病者は飢渴に苦み壯者は勢遂に市の秩序をも亂すまでに立到つたのである。

文久元年奉行はこれら無宿非人のために、長町四ケ町に補助費を與へて大仕掛の細民收容所を設立し以て雨露を凌がしめ剩へ勞働就職の便宜をも取計つたのである、爾來長町か大阪南部の細民居住區域となつたのも、この頃からと思はれるのである。（未完）



戰爭と建築

會員　大蘆生

●數年前の事であつた、米國から世界的使命を帶びて渡來した、ジョルダン博士は中の島公會堂で「戰爭と平和」といふ大演說をされた事がある、戰爭の悲慘なる結果や、軍備擴張の無意義なる所以や、將來到底大戰爭の不可能なる理由を多方面からの觀察に基いて論斷されたのは今に市民の記憶に殘つて居るのである。

●然るに博士の豫言も一二年ならずして、根本的に破壞されてしまつた、事實の前に數多の名論は何等の價値もなくなつてしまつたのみか古今未曾有の大戰爭となつて、人道と正義の爲にはさすがの北米合衆國も劍を執つて立たねばならぬ事となり、大仕掛の軍備擴張、大々的の動員計畫に多くの平和論者も閉塞の止むなきに至つた樣である。

●目下の處では地球上の國といふ國は、殆んど此世界的大戰亂の渦中に卷き込まれてしまつた、そして此の大亂の結末は何時如何樣に結末が付くのやら、到底判斷が付かなくなつて、開戰當時に群り立つた數多の豫言者も煙の樣に消ねてしまつて、折々平和の叫聲が渦と卷く戰塵の間から漏れて來る樣な奇現象を見る樣になつた。

●觀し來れば人類と戰爭とは、徹頭徹尾離れられぬ關係があるものと解譯して差支ない樣である、進化論の說明でも、人生は偉大なる一つ

の競爭場であるとしてゐる、優勝劣敗、適者生存の眞理は天地の在る限り自然の約束であるのであらう。否自然其物が既に榮枯盛衰の理を明示して居る以上は、人生は一大爭闘の舞臺であつて戰爭は人生に缺ぐべからざるものゝ一つであろう。

●戰爭が人生に附隨して離るべからざるものとすれば、吾々は亦其覺悟が必要である。一時は非常の權威を持つて居たかの樣に見へて居た國際公法にしても、今日では「事實」と「力」との前に空文となつてしまつて、「强者の權利」は「弱者の正義」を蹂躙してしまつたる事實を非常なる犧牲を拂つて實驗しつゝあるのである。

●若しまた平時の準備を怠つて、一度强者の爲めに屈服の止むなき破目に陷つてしまつた時は、實際「小鳥の囀鳴」も只悲痛なる叫喊に過ぎないのであつて「道理」も、「無理」の前に負けなければならぬ、殊に最近の科學的文明の產物たる各種巨大なる武器武具は、いやが上にも大仕掛となつて、平面的戰爭は立面的戰術に早替りをしてしまい、其顯著なる威力は、峻烈なる慘劇を逞しふしつゝあるのである。

●戰爭は現狀の打破を欲する願望から起る、從つて戰爭の齎らす當座の土產は「破壞」である所謂「修羅の巷」である、あらゆる「建設」を一先づ破壞してしまはねば其目的を達しない譯である。從つて科學的文明の將來は科學的文明の力の衝突から、決局同士打の破壞で自滅するのではあるまいかと考へない譯には行かなくなる、此世界も一度は蛇虫類の支配する處であつたと聞いてゐる、そして其支配者もいつか自滅の原因は、其偉大なる体軀が新時代の生存に適しなくなつた爲であるとか。

●則ち知る折角築き上げた世界的文明も、科學的破壞力の增大と共に自滅の第一步を踏み出したのではあるまいか、乍然中歐帝國の自棄連は「破壞は破壞でも建設の爲めの破壞をやるのだ」といふ、自畫自賛をやつて居るに違ひない處が彼等の建設が同し科學的基礎の上に彼等の文明を築き上げやうとなる以上は、所謂自家撞

着であつて、彼等の思想の根底に甚しき「矛盾」が潜んで居る樣である。

●「建築」は凡てが「建設的努力」から出來上つてゐる。從つて破壞を目的とする「戰爭」の渦の中に數多の建築物が見慘な最後を遂げるのは止むを得ざる現象であらう、古往今來數多の建築物が戰爭のために如何に破壞され來つたか、史を繙くものゝ痛歎措く能はざるものが甚だ多い人生の終局に於て「建設」を目的とするなれば、人生のあらん限り「建築」の生命は永遠ならしめたいと希ふものである。

●畢竟、「建築」の友人は平和である、「建築」の敵は戰爭である、敵軍の行爲が橫暴の極を盡すにせよ、出來得べくんば、戰爭の慘禍なからしめば、無慘な「破壞」は到來せぬのである、若し軍備擴張が事實に於て平和の保障であるとすれば「平和」のための軍備は「建築」の爲めに福音である、同時に「建築」のためには「好旅伴」である建築が軍備と相待つて經營されべき機運は漸く到來したといふて差支ない樣である。

●本誌前號の所論は遺憾なく此機運を道破してゐる。將來の戰爭のために、平時の軍備を忘らざるものは同時に建築の準備に必要の手段を講ずるの例を悟るべきである、由來可燃性建築の櫛比する我國に在りては殊に想を鍊つて將來を建設しなければならぬと思ふ。

●過去を觀よ歷史を味へと叫びたい。靑丹よし奈良の都の七堂伽藍は一度平重衡の亂に、紅蓮の焰に包まれて一夜にして灰燼となつたのである、星月夜、鎌倉の府は勤王の兵火に襲はれて七代の榮華夢の如しとなつたのである、戰爭は無慘なものである、殊に吾國の戰爭にあつては「夜擊」と「放火」とは義朝、爲朝以來の唯一の戰術であつたらしい。

●千年の都は日本文化の寶庫であるといひながら加茂川原の荒野原に古都の俤が何處に浮ばうぞ、戰爭は無遠慮に、一天萬乘の大君の御在ましますも、闕下から屢々起つた。山法師の橫暴には法衣に涙を注がれ給ふたが、戰爭は遂に彼等の巢窟を遠慮もなく襲ふて、傳敎大師の偉業

は信長公の怒に觸れてあはれ一朝の兵災に烏有となりてし來つた。うらむなかれ、我國過去の建物は美術の精、工藝の華と唱はれても千年の齡を保ち得るもの果して幾何ぞ。

●兵火に逃れ戰爭に離れて古の俤を傳へつゝあるものは眞に指を屈して數へ得るに過ぎないそれとても、今は末世の法の道、屢々行樂の客に荒されて、千年の風雨に曝されて見る影もない有樣である、法隆寺は千年の俤を今に傳へて居るといはれ特別保護建造物中の最も貴重なるものである、乍然修繕に繼ぐに修繕を以てして當年の材は最早殆んど其を跡を絕つてしまつて居るのである。幸にして都會の中心になかつた爲めに、兵火の慘を免れ、俗燼の焰を絕ち得たのである、思へば危い話ではあるまいか。

●鐵血宰相ビスマークが多年の宿望成りて、一七七〇年の巴里包圍戰の初期に、その遠慮深い性質から砲門を巴里の市街に向け得なかつたにも係らず、最後には遠慮もなく無辜の市民に砲火を注いで「砲彈は命令をきかぬから仕方がない」と苦しい答辯を與へた事がある。カイゼルの無遠慮な指揮の下に今日の獨軍が、平氣で「破壞」の惡業を行つてゐるのは、言語同斷といはなければならぬ。

●巴里が陷落して、ウキルヘルム一世はヴエルサイユの宮殿内で獨逸帝國の帝冠を戴いたのであつたが、さすがの獨軍もチエール外相の手腕によつて巴里市街に一步も入ることが出來なかつたので數多華麗の建築物は市民と共に獨軍の凌辱を免れた、ために「破壞」の無慘を見ずに濟んだが、同時に獨逸宰相の遠慮も其因をなしてゐるのである。

●勤王討幕の波瀾萬丈の最後の幕になつてはしなく懷しい物語を傳へてゐるのを忘れることが出來ない。多年幕政の嫌惡の焰が渦卷き立つた擧句薩長の兵は日光廟の結構を燒打の痛快事を夢みたのであつた、上野の戰爭に寬永寺の紅焰に味をしめた兵はいよ〳〵宇都の宮から、大谷川の河畔を行軍しつゝ如何なる「破壞」を畫いて居たゞらうか、輪王寺の老僧が夜を犯して盜

軍板垣將軍の營に赴くまでは、日光廟の運命は朝露の夫にも似て居たのであつた。

●「板垣は王者の軍を總べて居る」といはれた位の堂々たるものであつた。猛り立つ勤王黨の血を如何にして宥めたか、さすが將軍は三德兼備の良將であつた。今日の觀光客は內外を問はず、將軍の遺德を慕ふべきではあるまいか、顧みて阿彌陀峰豐公の廟を礎石迄覆し、錦城の遺業を根底から破壞した、德川家の惡業と對比して、うたゝ英雄の心事をを歎美せざるを得ないではないか。

●豐公はさすがに大きい處があつた、破壞的戰爭は彼の望まぬ處であつた、出來得る限り圓滿の結果を得ん事に骨を折つて居る、中國の征伐に、四國の征服に、九州の攻略に、小田原城の包圍に、何處迄も温和な手段を用ひて居る、從つて太閤の達業はむしろ「建設」に努力した事を偲はしめる、方廣寺の建立や、聚樂邸の造營や、桃山、大阪兩城の大土木に、豪華な建設を敢ねてした。桃山期の建築は一に豐公の雄大な氣宇から出來上つてゐるのである。

●しかも此等の大建築、大土木も夢の跡となつてゐる、豐家の根底が覆つた後には、あらゆる故太閤の建設は見る影もなくなつて、竹生島や、西本願寺に僅かな破片が殘つて居るに過ぎない。自分は桃山期の建築を破壞し盡した、江戸幕府が此度は日光廟の建築に、天下の金を拋つても、あの織弱な藝術より出來なかつたのを笑はない譯には行かないと同時に、僅か二十餘年の短かい桃山時代の藝術を歎美措く能はざるものである。

●太閤の率ゐられた征韓軍は、朝鮮では大分荒れ廻つた。倭軍の向ふ處敵すべくもなかつたために、建築物の破壞は割合に少なかつた、つまり戰爭にならぬ戰爭では、建築物は借りの宿となるものである。それでも物好きな倭軍は隨分と大きな御土産を持歸つて居る。御土産のための破壞は大分行はれた樣である、乍然明の大軍の襲來には、さすがの倭軍も防禦の戰線をつて、却つて明軍の破壞の手が八道を荒した形

跡もないのではない。

●關野博士の御調査によると、平壤を攻略した時の日本軍の劍筴と、平壤を改復した明軍の武器とが、城門の建築物に殘されて、大正の初めに發見されたといふ事である。そして更らに面白いのは、明治二十七年の平壤包圍攻撃の際に於ける、砲丸の破片も、天井裏に宿つて居つたそうである。牡丹臺の夕、大洞江の川霧に、懐古の行客をして夢を語らしめないで、事實を與へたのは其「建築」であつた、

●話は違ふが「建築」も時によると平和の時代にも、無慘の「破壊」を蒙ることがある、亞米利加では時々建設のための破壊をやると聞いてゐる。乍然、破壊のための破祥が、計らず行はれんとして、危くも救はれた一佳話を思ひ出す、京城の南大門は李朝五百年の昔を語る最古のものである。秀家や、清正や、行長や、景隆の眼にも殘つた建築である。この好記念物が、軍隊の通行に支障を起すといふ理由で、あわや燒打の悲運にも遭はんとした。

●恰も此時、八道の古蹟術調査に、連日の熱汗拭ふに暇なき、關野博士一行は京城に到着した、此報を得た博士は憤然として警告を發表されたのである、かくて此の好記念物は昔の俤を其儘に殘されて、新大街路の眞中に幾多の思ひ出を宿して居るのである、、李朝家の血脈の永續さるゝ限り、日鮮民族の懐古門！世界の旅人をして博士の德を傳へしめよ、

●江戸八百八町の都市、千代田城濠の風致、此等も亦一度は兵燹の巻と化すべきであつた、しかも幕末の危機に際して、兩個の偉人の恩惠を今日の東京市民は如何に偲んで居やうか、上野臺上南洲翁の像を改築せんとする市民は須らく愛宕山上に海舟翁の記念像を建設せんとするの意圖なきや否や。

●願くは建築をして永久のものたらしめよ、平和の保障と建築の關係を圓滿ならしめよ、そして世界人道のため、人類の遺業をして永久に光榮あらしめよ、戰爭と建築！終に仇敵たらざるべからざるか。（終り）



歐州西部戰線に於ける歷史的建築の破壞

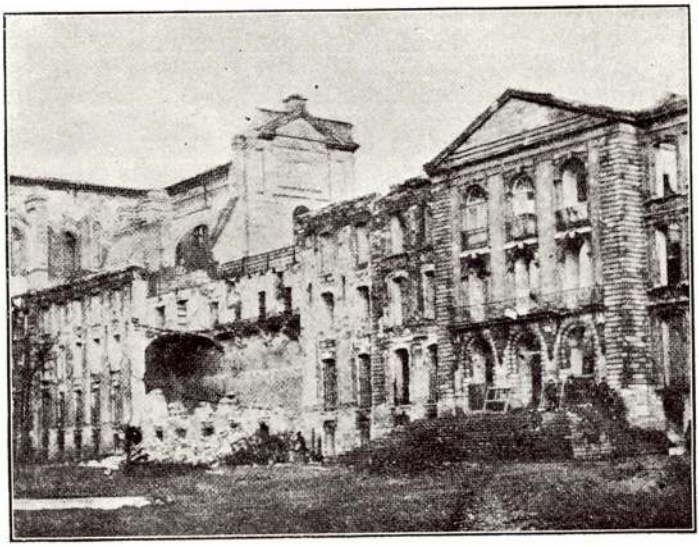
（アーキテクチユラル、レコード十一月所載トーマス、イー、トールマツヂ氏記）

會員　谷本多喜治譯

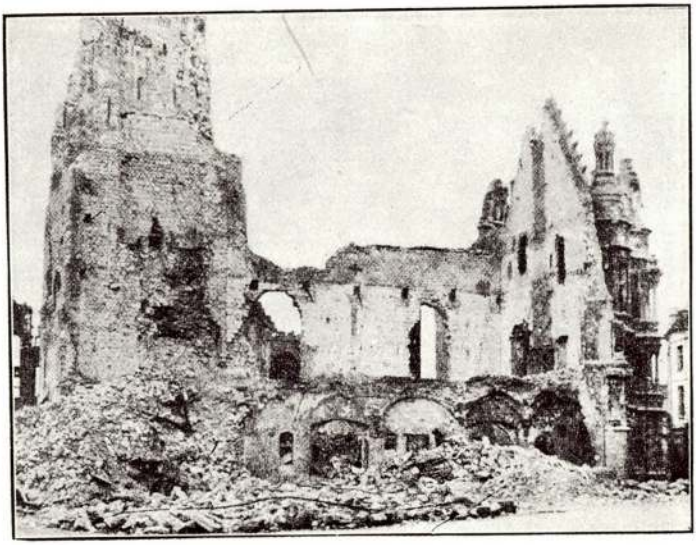
アラスは北佛蘭西アルトア洲の優雅な古い都市の一つであるが、無殘にも兇猛な獨軍の馬蹄に蹂躙さるゝ悲運に陷つた多くの町の中では代表的のものである。獨軍の占領に歸した多くの町村落は、戰塵の裡に無事に餘命は保てるにしても、悲しいかな、現に奴隷の樣な境遇に沈淪して居るのである。

此の滅落の徑路は殆んど次の樣な順序であつた。獨軍は恰も無人の境を行く如く進擊を敢てし、無抵抗な都市を占領しては得意となつて、次から次へと僅少な軍隊を派遣した、大した死傷もなく强奪もやれば、宿泊もやつたのである、勇敢な佛軍の後衛とは處々に小戰を交へたけれども殆んど無損害で行軍した樣なものであつた。そして今度は形勢一變して彼等は退却をしなければならなくなつた、天狗の鼻を折られた彼等は念怒と激憤の餘り、一度は彼等の救護所となつて居た此の靜かな町を引拂はせられた報酬として大砲を此の都市に向けて、眞中の廣場に面して建てられてあつた市廳舍の愛すべき、峨峙（ゴシック）式古塔や、其附近一帶の繁榮歡樂の巷は無殘にも數日の間に恐ろしき瓦礫の堆積と早變りをしてしまつたのである。

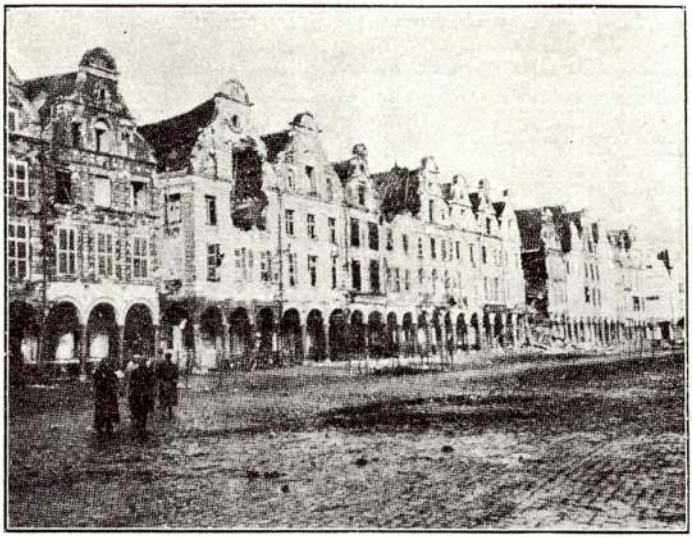
頃は一九一四年八月も末の事である。カーレロアの戰の後、佛軍は北佛蘭西を引拂つてセーヌ河迄退却をした、獨軍は遂に進んで、アラス



聖パスト大僧正の邸宅



アラス市廳舍の殘骸



塲廣大の初當擊砲



塲廣大の後擊砲

の前面に現はれて、防備のない此の都市は何の容赦もなく彼等の蹂躙する處となつて、壯年の輩は總て捕虜とせられ、老人や可弱き婦人や、頑是なき小兒達の寂びしく留守番をする町とつてしまつたのである。

獨軍の前衛は九月六日にアラスに侵入したが、此古都と住民とは尊重されて幸にも何等の兇暴を敢わて爲なかつたのであるが、間もなくマルヌの役が始まつた、將軍ジョッフルは機を見て突然攻擊を開始した爲めに、獨軍は其右翼を威赫され總退却の止むなき至つた、獨軍は此の都を徹退して北方約一里十五丁餘の地點に塹濠を堀つて防禦の姿勢となつた。

此の附近に於ける戰鬪は佛軍もさすがに獨軍の勇敢なる抵抗を充分に認めたのである。けれども獨軍は惡戰苦鬪の一ケ月後、遂にアラス占領を斷念した爲めに彼等の復讐的兇惡なる願望と戰略的自我の獨斷とから、十月六日の朝九時に至つて、第一彈は町に放たれて、市廳舍の歷史的鐘樓に正確に命中したのである、いはゞ此第一彈は砲手の熟練と敵軍の願望とが見事に一致した結果であると考へられる。

初日の砲擊が始まつてから、七、八、と三日間續いて中止されたが、此の市には一千發以上の砲彈が見舞はれたのである、此の亂暴な砲擊の結果、此の優雅な都市も慘々破壞され、戰塵の煙の中から、昔の榮えありし建物の殘骸は、今尚其無慘な姿を聳え立つて、うらめしき獨軍の行動を監視してゐるのである。そして短い秋の日は過ぎて、十一月の中頃に砲擊は再び開始せられて殆んど十日間經續せられたのである、十一月廿三日には六十九發の彈丸(フィニアル)が鐘樓に命中して其なつかしい尖塔は遂に粉碎せられてしまつた。此の日を最後として、砲擊は中止せられたのであるが、鐘樓や市廳舍の全壞後、砲彈は遠慮もなく聖マリヤ寺に集中され、聖バストの大僧正の邸宅も同樣の運命に葬られてしまつたのである。

文豪ビクトール、ユーゴー翁は此の有名な古鐘の町について次の樣な記述を綴つてゐる。

『茲にはルイ十三世時代のスパニッシ、フレミッシ式の廻廊（アーケード）のある切妻を持つた家の並んで居る（寫眞參照）、昔ゆかしき廣場が二つある、其小さい方には第十五世紀頃の市廳舍と復興式（ルネッサンス）の愉快なる住宅とがある』

此のスパニッシ、フレミッシュ式の廻廊を廻らした二つの廣場の外に、同じ樣な町並のゲリー街があつた、有名な市廳の塔は高さ二百四十呎あつて、三面に大時計が懸つて居り「歡喜」と銘打つた大鐘が安置されて居つた、蓋しこの建物は一度寺院であつた。

優雅な古典式（クラシック）結構で一七五五年から一八三三年の間に建築されたのである、此の寺院と續いて、大僧正の邸宅、僧院、公立博物館、並びに此地方の有名な彫刻及びフレミッシ派の繪畫を秘藏してゐる陳列館を抱合して居る建築の一群があつたのである。

アースラインの塔は十六世紀頃の峨峙（ゴーシック）式建築である、聖ジャン、バプテスト寺の古塔を模して建てられた近世建築中の大なるものであつたあゝ、此等の美しい建物及び町全体に亘つて、恐るべき獨軍の復讐的破壞は、目擊者の說明を待つ迄もなく、茲に揭げた寫眞に依つて明かであつて喋々を要しない位である。

廢殘の遺骸！　荒廢の遺跡！　戰塵の煙なびくアラスの古都はウブレ、ルーバン、ランス等の町々の樣に永い〳〵歲月の風雨に耐へて來た、懷しい建築ーそれは石や木や玻璃等の無心の材料から生れて居るがー都市の愛兒の樣なものである。哀れなる哉此の古都は其愛兒の一群を喪失し、かてゝ加へて、數多勇敢なりし古武士の子孫に、はかない運命の悲慘を味はゝしめて居るのである。

美術と建築とに墜下する兇猛なる破壞は、文明に對する殺人である罪惡であると信じてゐる吾々は、獨軍の暴惡を永久に忘れまいと同時に獨逸の諸新聞紙が一聲に吾々の抗議を「小鳥の囀り」と惡罵を加へたのを永久に記憶する。彼等蠻賊の如き獨軍の隊長は此等の惡戲を平氣の平左で敢行しつゝあるのである。

最後にアラスの僧正が十月の七日に書いた手紙の一節を紹介して置きたいのである。

『私の御寺はどうぐ〳〵住めなくなりました、聖マリヤ寺も破壊されてしまいました、あの塔も名刀で斬られた様にやられてしまいました、二百餘りの住宅は燒かれ傷けられ見る影もなくなりました、私は此寺の殘骸の眞中にある郵便局に避難して居ります、先月の十五日頃から砲聲は小休もなく續いてゐましたが砲彈は一個も此町には落ちませんでしたが、此二三日前からは、私等は恐るべき砲撃の的の中に葬られてしまいました、彼等の射撃は惡むべき程正確であります。

市民は目下の處新しい死骸の外に何等の幸福も見出す事は出來ません、私は最早訪問客の影も見る事が出來なくなりました、さりながら、唯一の天帝の御指圖に賴よつて生くるの道あるのみにあります。……』

（終り）

◆常ならぬ世◆

飛鳥川の淵瀬、常ならぬ世にしあれば、時うつり事さり、樂ひ悲びゆきかひて、花やかなりしあたりも、人すまぬ野らとなり、變らぬ住家は人あらたまりぬ、桃季物いはれば。誰と共にか昔を語らん、まして見ぬ古のやんごとなかりけん跡のみぞいとはかなき。京極殿、法成寺など見るこそ、志とゞまり、事變じにける樣はあはれなれ。（徒然草）

爆發に對する 建物の強さ

―東倫敦兵機工場爆發の狀況―

（一九一七年四月二十七日 倫敦タイムス、工學月報）

倫敦の東部市外廓地に於ける這回の大爆發が各種の建造物に與へたる結果は、建築士及構造技術家には有益なる敎訓を與へた。

爆發の起りし建物は、巾三百ヤード奥行百ヤードの大建築なりしが、爆發の爲に全部崩壞し燃へ差しの材料や、各種の鐵材、爐用材料等は片々と成りて、附近一面へ雨霰の如く降下したのである。殊に壓迫されたる空氣の激波動は、漏電及瓦斯の炎焰と共に、大小の鋼材破片の突擊を附近の建物に與へたる爲に、爆發工場の現物より可成り遠方までも窓の破壞したるもの多く、近きものは、壁破れ屋根落ち、工場と其れに接近せる住宅の如きは、全然倒壞した。然るに、斯る災難に數次有る如く、極間近き建物にして、輕易の損害に止まり、其れと全く無關係のものが全部倒壞したやうな一二の例も發見された。地層は、アルビヤル質なりし爲、爆發の激動は甚だ著しく地面に傳はり、空氣の壓迫せる波動と共に建築物を襲ふにから、固着力の少き建物には、可成り著大なる損害を與へたのは事實である。故に、木材又は鐵骨の上家にして桁行の兩方明け放しのものは、空氣の衝動の爲には餘り大した損害を受けて居らぬ。唯、周圍の羽目板や、屋根板等は、大抵吹き飛ばされて影を止めぬような有樣であつた。或る鐵骨工場は、梁間三拾三ヤード桁行二百ヤードのものなりしが、建物の全部飛ばされて了い、唯、裸の鐵骨のみ完全に殘骸を保留して居つた。又、平家建にして、周圍全く明け放しよきものは、大抵は崩壞したので、其好適例は、平家の波板張

りの一敎會堂であつた、其建物は全部吹き飛ばされて、其位地には、全く何等の形骸さへ留めなかつたのである。

煉瓦造の建物——各種の煉瓦建物は、爆發の衝動に對しては存外に脆弱な事を示した。即ち、爆發工場に接近せる二箇の大工場は、セメントモルタルにて可成り叮嚀に積みありしに拘はらず、其外壁は倒壞して了つた。又、頑強に造られた消防署及平家倉庫は、全く倒壞し、接續の民家も、數町に亘りて甚しき損害を受け、夫等の民家は、地盤まで之を取毀して改築せざればならぬ程の狀態であつた。

要するに、煉瓦構造物は、比較的凝固力小なるものと見へ、外部の壓力に對しては、抵抗力少く、强大なる爆發力に暴露さるゝ場合は、所詮、大損害を免るゝことを得ない。上述の煉瓦造建物には、多少脆弱なものもあれども、極堅固なものも其中に介在してゐたのであつた。然るに、其結果は、多少の善惡こそあれ大抵甚しき損害を受けたので、十分に煉瓦造建物の抵抗力少きを証明して剩りあるものと謂はねばならぬ。爆發工場より四分の一哩餘も離れた處では堅固な煉瓦造は其損害を免れ、唯、脆弱なものゝみは、甚しく損害を受けた。

鐵筋「コンクリート」造建物——此の爆發衝動の中心地帶に在りし數箇の鐵筋「コンクリート」建物が、凡て何等の損害をも受けなかつたのは蓋し、著しき事實である。而して、爆發工場に隣れる四箇の工場は、其外壁煉瓦にして、床と中列の柱のみ鐵筋「コンクリート」なりしが、其中の二棟は煉瓦壁の倒壞と共に崩落せるも、他の二棟は比較的著しき損害を見ざりしは、一は都合よく煉瓦外壁が支持されたる爲全く完全に殘り、他は、基礎全部鐵筋「コンクリート」なりしと、內部の鐵筋「コンクリート」床及屋根上のタンクの爲に外壁が支持されたるに因りて、矢張り都合よく損害を免れたのであつた。

火災に對する抵抗力——爆發後に起りし火災に對する各種建物の抵抗力は、可成り確な經驗を與へた。即ち、木造の建物は全然灰燼に皈し、

木造の床と屋根を持ちたる煉瓦造建物は、煉瓦壁のみ殘りて砲彈の殻の如きものと成り、鐵柱鐵梁、鐵小屋等に依りて構成されたるものは鐵の加熱變形に因りて煉瓦壁を殆んど崩倒せしめた、然るに、部分又は全体に鐵筋「コンクリート」構造の三箇の建物は、火災には遇ひながら何等構造上の損害を見なかつた。殊に、其中の二棟は猛火に包まれ多量の可燃材料の存在の爲に可なり甚しく火焔に胃されたのであつたが、表面的にこそ損害は受けたれ、實質上には完全に遺つたのである。他の一棟は、其内の木造の一部分に引火し、間仕切、床板、屋根等木造の部分は、全部燒失したにも拘らず、鐵筋「コンクリート」の本体には何等の致命傷を與へなかつた。

□ プロバビリチー □

倫敦では、屢、敵機の來襲に困つて、其度毎に數十人かの人命と數多の建築物を破壞されるので、市民は日日安き心もなく、詮方なき運命と觀念して、種々の防衛方法に苦心して居るが、或博士は數理上より打算して、一度爆彈の落下した處へは、二度と御見舞を受けるプロバビリチーは殆んど零であると、公表した、從つて破壞された建築物は、却つて安全區域に遍入される事となつてゐる。



公共的築造物の管理又改善

會員　葛野壯一郎

(一)

私有の物に就ては必ずしも左樣では無いやうで有りますが、公共的築造物即ち各種の公館道路其他の管理並にその改善に就ては、方法に於て頗る遺憾の點が多いのみならず一般世人の是に對する注意も甚だ冷淡であるやうに見受けられます。これは官衙學校病院等各種の公館は勿論のこと街路橋梁公園を初めとして街頭の辻便所に至るまで、すべて公有に屬する何の種類の築造物にも最も明瞭に認めらるゝ欠點で、吾人これが建設に從事する者から觀て平素甚だ遺憾に感ぜらるゝ事實であります。

經濟的に觀ても是は頗る不經濟極まるはなしで、保管その宜しきを得ないといふ事は建物としても或はその他の築造物としても利用の途を一部失ふのみならず、二十年存續す可きものも十五年、十五年のものも十年と云つた樣な譯でその市町村なり府縣なり國家なりが、是等の公共的築造物に對する工費を最も不經濟的に費して居るといふ事に歸着するのであります。此問題は決して小いさな問題ではなく社會國家の上から觀て講究の價値ある事は申す迄もないことであります。

また一面之等公共的築造物の利用上から考へても、不完全に管理し放置し是れが保管に關し

て何等考慮せられて居らないといふ事は、建物としても或はその他のものにあつても、利用能率の減殺せらるゝ事の著しきは勿論、社會的にその市その地方の威權を汚損するのみではなく一般教育衛生等の問題とも互に密接の關係を及ぼし、ひいては國力の發達進歩に重大の關係を生ずると考へらるゝのであります。

教育に例をとつて考へてみても國家或は地方公共團体が年々教育費として支出する金額のうちで、建物その他の建設補修に費さるゝ額は決して鮮いものではないので有りますがその經營施設に當つて甚だ注意を欠ぐといふ事は、その影響するところひとり建物その他の築造物自体の損害に止まらず直接間接一般教育上に重大の關係を及ぼす事は明らかで有ります。イクラ學制が完美しても其組織が統一しても是れに要する建物その他の基礎的施設に欠ぐるところが有るならば其効果は押して想像せらるゝ譯で有ります。此點に關して現今の教育家の多數は餘り深く考へて居らない樣で有りますが、吾人技術者としては教育の基礎的要素は一にその建築及附帶の施設にあるので、その適當なる管理並に改善は教育上最重要の問題と信ずるので有ります。

(二)

一般に吾々日本人の通弊として創造的或は建設的觀念が歐米人に比して著しく劣つて居るとは信せられないので有りますが、一端創造し建設されたるものを如何に管理し利用し改善するかの技能に至つては甚だ及ばざるものが有る樣に觀察せらるゝので有ります。此事實は獨り公共的築造物にのみ限つた問題では元よりないので有りますが、吾々技術者として平素是等の物に接觸し關係する上に於て最適切に感ずる事實で識者の見逃す可からざる問題で有らうと思はるゝので有ります。

すべて造る當初には相當研究調査をも重ね綿密な注意も拂はれる事は勿論で有りますがその後の維持管理の問題に入つては甚だ欠くるところが多いため折角大層をして造り上げたもので

世間から無用の長物視さるゝ樣な例も出て來るので有ります。一二の例について述ぶれば各地方に多く建設せらるゝ公會堂とか物産陳列場等の如き、建設最初の趣旨に就ては何人も異議の申立樣はないので有りますが其後の狀態に於ては頗る遺憾至極で何等實際的利用の途甚だすくなく塔屋徒らに聳ゆて內容の空疎寂漠たる例に乏しくないので有ります。公園の如きも名は公園にして其實の是れに伴はざるもの至るところに發見せらるゝ樣な實狀で有ります。無用の長物等と呼ぶのは或は當を得ないかも知れませんが、すくなくとも有るも可し無くも可しの程度に終つて居る公共的築造物は兎に角割合に多い事は何人にも容易に認めらる事ゝ實で、是れが管理經營に當る者として一層の努力考慮を求めざるを得ない次第で有ります。

暫く建築物の主題をはなれて法律の如きものに就て考へて觀ても、當局が時勢の必要に應じ相當の抱負信念を以て立案し公布したる法律も是を實施し運用し時の經過に應ずる適當なる改善の事をおこたる時には、其法律は多數者の利益權利を擁護するものには非ずして反つて是を剝脫阻害し多數者の不便を餘義なくする樣な結果となるので有ります。吾々が其實施期の一日も速やかならん事を希望する建築條例の立案公布並に其運用如何についても、特に此點に關しては充分深重に考慮する必要が有ると信ぜらるゝので有ります。

市街道路の如きものに就て觀ても其管理並に改善に關しては大少各都市を通じて常に遺憾の點が甚だ多いので有ります。巨額の工費を投じ大英斷を以て市當局が市區改正の偉業を開始しても、その完成後の管理並に改善に就ては一向物足りないのみならず年々歲々繁雜になりつゝある交通の實際に應ずる路面の改良修理の如き全然閑却せられ高低凹凸甚しく交通上の不便は勿論、黃塵萬丈の不衞生都市を實現して何等顧慮するところがないといつた情況で有ります。

(三)

一体管理といふ事は物その物を建設の主旨に依つて出來るだけ完全に保管し修理する事で有ります。然し是れだけでは未だ充分では有りません、必ず時勢の進運に應じ是れに適切なる改善を行つて初めて完全に且つ最有利に利用せらるゝ次第で有ります。此管理と改善は常に互に相併行して進む可きもので綿密なる管理が自然適切なる改善を促進し適切なる改善が一層周到なる管理を要求すると云つた様な具合に両々互に相關連するので有ります。

公共的築造物の破損及び自然的朽廢に就ては常に綿密なる注意を以て適當に處理する事は管理者の主要なる任務で有ります。此場合特に專門的知識を要する事項が多い事は勿論では有りますが其凡てが必ずしも左様でない事は明かで有ります。むしろ常識的事務家の仕事としてたゞ時々是を專門的技術家が補佐すればよろしいと云つた場合の方が多いので、此點に關しては特は管理者の注意を促したいので有ります。

また一面に公共的築造物管理の問題に關してはたゞ獨り其當事者のみを責むる譯には行かないので全時に一般使用者にも充分責任があると思はるゝのであります。すべて吾邦人は公共的觀念の甚だ幼稚なる結果として一般建築物及其他についても其取扱上甚だ冷淡不注意なる事は驚く可きものがあるのであります。建物について例をとれば扉一ツの開閉にしても其れが公共の物である場合には立派な紳士が尚且つ亂暴を極める如き、或はまた泥靴で以て立派な敷物の上を平氣で汚して廻つたり、至るところ烟草の吹殻をすて唾を吐き、無暗と汚れた手で立派な調度に觸れたり不作法に椅子に倚り掛つたり一々擧ぐればコンナ例は實に澤山あるのであります。また多少とも機械的のカラクリのあるものは至極單簡堅固に出來て居ても直ちにコワして仕舞ふ、是れは平素使用に慣れないからだといふかも知れないのでありますが其れでは申譯にはならないのであります。私は此點に關して敎育者も兒童敎育に當つて單なる形式的作法を廢し宜しく斯様云つた實際的訓練を試みられん事

を希望するのであります。

日本人は本來潔癖の人種であると人も吾も考へて居るのでありますが公共の築造物に現はれたる吾人の潔癖は甚だ當にならないもので掃除の行屆かないといふ事は最著しい事實であります是れは獨り公舘に止まらず道路橋梁公園の如き皆一樣であります。公共的築造物を平素最清潔に維持管理する事は其保存上最大切であるのみならず社會衛生上からしても由々しき問題であります。國民保健問題の相當論議せらるゝ今日に在つては一層是等の事實に關する深重な考慮を要する事は當然であります。また一面風敎上にも大なる關係を有して居る、例へば學校建築の如き何よりも先ず其校舍を最清淨にするといふ事が生徒薰育の第一歩で有ると信ぜらるゝのであります。

(四)

建物の自然的朽廢に就ては當事者は平素最周到なる注意を拂はなければなりません。建物其他の保全は大風雨等特別災害の場合の外平素に在つて必要な修理をおこたらないといふ事が第一義であります。恰も人間の身體と全樣病も其初期に適當な手當をおこたらなければ大事に至らぬと全樣で有ります。是は何人も充分了解して居る頗る明白の事理でありますが然し公共的築造物に在つては多くおこたり勝になつて居る事實であります。近年ヤカマしくなつた白蟻の害の如きもその初期に發見したる場合は修理並に豫防の方法も至極簡單でありますが、是をそのまゝ一兩年も放置すれば意外の邊まで其害を及ぼし遂に如何とも方法を講ずる事が出來なくなるのであります。每度當事者は修理費の不足と專門的知識の皆無を以てその申譯として居るのでありますが、元より是れは當らないので要するに平素充分周到の注意さへ拂つて居れば此欠點は補ひ得るのみならず、更らに僅少の修理費額を以て完全に管理し得るともいひ得るのであります。

使用上の注意については是亦其當事者と共に

一般世人にも相當責任が有るのであります。たとへば爰に新らしく公會堂が出來上るとすれば當事者は務めて其建設の主旨に則りその公用を研究すると共に一般世人も亦其利用に就ては充分注意する必要が有るので有ります。すべて公共的築造物の利用の智識については吾々は甚だ乏しきものが有る事を認める譯で、多額の工費を投じて倶樂部が出來てもそれは社交的に一向はか〴〵しき利用はなく、實際の社交は最卑俗な花柳界で行はれたり、折角大騒をして公園を造つてみても市民は朝夕何等是を利用するところなく單に其都市の一裝飾に止つたりする例は決して鮮くはないのであります。是れは度々論じた如く一般に公共的觀念の欠乏といふ事に歸するので甚だ痛嘆に値する事實であります。

ひろき意味に於て都市生活は共同の生活で自分計りの都合のみでは立行かないのであります近時、都市改良の聲の可なりヤカマしくなつて來たのも此共同生活に對する觀念の一進歩だといひ得るのであります。都市に在つては自分の費用で自分の家を建築するにもその前面街路並に周圍の狀況を顧慮せずには遂行出來ないのみならず、進んでは共同の利益のためにムヅカシい建築法規の取締を受けるといふ事が自然必要となつて來るのであります。此意味に於ても吾邦人の公共的觀念が一般に層一層進歩せん事が望ましきのみならず識者は務めて其開發に努力しなければならぬ次第であります。

(五)

最後に公共的築造物の改善についてはすでに論じた如く周到なる管理と相併んで時勢の進運に應ずる改善即ち大修理とか增築とか改造とかの改良工事が最適當に遂行せられなければならないのであります。世界の經濟的進歩は今や所謂永久的或は記念的建造物といふ版圖を頗る狹めつゝあるのが事實で、火災とか震災とか其他の災害豫防の必要上壁も厚くし床も堅固に組みたて大仕掛な構造を取るには取つても其れは必ずしも萬代保存の主旨からではないのでありま

す。時代の趨勢と周圍の事情が自然何等かの改善を要する場合は遠慮なくドシ〳〵改造でも模様換でもヤツて行かなければ其だけ遅れる譯であります。現在吾人の見聞するところでは公共的築造物改善の觀念は世人からしても技術者にしても甚だ幼稚を極めたものゝ様に信ぜらるゝであります。政府に屬する各省建築の如き三十年も四十年も以前の最舊式且つ不便極まる建物で平氣で事務をとつて居るが如き、何だか建物を新らしくする事はエライぜいたくでもする様な誤解が一般に在る様に感ぜらるゝのであります。

改良思想の乏しき實例としては本問題とは別ではありますが住宅改良の如き、世間で相當論議が有るにも關せず何等進歩改良の認む可きものなく五十年以來のものを其儘引ついで居るが如き狀態であります。公共的築造物にあつては一層其進歩改良の遲々たるは當然の事で、官衙學校各種の公館道路橋梁公園等修築改造事業は日々行はれて居るとしても其内容は依然として何等進歩の跡なく十年前或は二十年前の計畫を今でも殆んど其儘採用して居るといつた有様であります。古きに依るといふ事は必ずしも凡てがわるいといふ譯は無いのでありますが日々進んで此世界的風潮を何等顧慮するところが無い様な計畫は其價値の甚だ貧弱である事は明白な道理であります。多數官公省建築の如き出來上らない前からして既に狹隘を告げて居るといつた様な例も決して珍らしい事ではないのであります。吾人が常に公共的築造物に關して甚だ遺憾に思はるのは獨り其保管修理の問題に止まらず、時宜に應ずる改良事業に於て甚だ冷淡に且つ消極的である事であります。今や建築其他の公共的築造物は次第に其規模大となり利害の相關するところ最一般的に一都市民一地方民にまで及ぶ事の切なる時に會して吾人技術者として特に此問題を提供して一般の考慮を煩す所以のものは、吾國の現狀に照して頗る緊急なるものゝあるを信ずるからであります。（完）



大阪を立ち退いて

まがね

大晦日の梅田驛、朝寒のプラットホームに私は一人淋しく上りの滊車を待つて居た。

『大阪を立ち退くのか』

思はずためいきが口を衝いて出た。見果てぬ夢を殘して、此の懐かしい心の故郷を立ち退くのかと思ふと、情けない様な、あつけ無い様な、何だか濟まない様な、譯の分らない心持が胸にこみ上げて來た。

一昨年の夏八月、旅鞄一つに身を托して、漂然と此の大阪へ流れ込んで來た私は、今また漂然として外套のポケットに兩手を突込んだ儘で、此の大阪を立ち退いて行くのだ。

來る時には三ケ月の筈だつた、一寸上方見物に行つて來ます、と云つて東京を飛び出して來たのが、たうと三年になつて了つたのであつた。だけども過ぎ去つた三年は、期待した三ケ月よりも遙かに愉しい物であつた。まるで夢だ、私は來る時に在阪三ケ月の餘暇に探究を期した事項のかず〳〵を、つい其儘に打ち忘れて、うか〳〵と三歳の月日を消して了つた。さうして遂に何にも爲すじまいで、今おめおめと東京へ歸つて行こうとしてゐる。

プラットフームの群衆の裡で、慥感慨に沈んで居る程に、物凄い空氣の震動に續いて滊車はまつしぐらに飛び込んで來た。

妄想から醒まされた私は、慌てゝ乘ろうと先をあせる人達を乘せ切つて了つて一番後から悠々と客車に這入つて行つたそしてポケットに手を突込んだ儘、御納戸色のクッションにごぼつと身体を埋めた。之れで最う今夜つから東京の人間に成るんだ。

早く乘り込んだ人達は未だ赤帽から荷物を受取つて棚へ載つけたり、窓から首を突き出して見送人と挨拶を交はしたりして居る。荷物一つ無い、見送人一人無い私は、車窓に凭れて同車の人達の所作を面白さうに眺めて居た。

だが私も豫定の通り昨日の朝立つたの

だと、矢張りそんな風にごた〳〵し乍ら大阪を立ち退いて行つた事だつたろう。私は昨日三たび出發時間を變更した。二度目に告知板に向つた時には昨日迄の同僚達が最後の送別會だと云つて新地の鳥屋の二階で待つて居た。それで私は持物の全部手荷物に預けて了つたのだ。そしてポケットの底で東京行の切符をいぢり乍ら、之れで最う何時でもヒヨイと歸れるんだと思つた。馬鹿に身体の自由を覺へた。そこで私は譯も無く第三の設計變更を企てたのであつた。——りん〳〵と電鈴が鳴り出した——

いよ〳〵大阪を離れる時が來たのだ、やがて一聲の滊笛を合圖に列車は緩く動き出した。澤山の人の澤山の見送人の顏が車窓を辷つて行つた。實に種々雜多な顏を見た。だけども私の知つた顏は一つも無かつた。懷かしいのは却つてプラットホームの廣告繪の美人だつた。その裡に懷かしい北野の街が車窓に現れ出た。大晦日も此邊では睡つて居る。

それから淀川の鐵橋のトラッスが目まぐるしく車窓を通り過ぎて行つた。

『たうと大阪を離れて了つた』

私はがつかりして思はず恁う呟いた。何だか最う取り返しのつかない事をして了つた樣な心持がし出した。今迄は何處かに姿を匿して居た未練と執着とが不意に心の裡に躍り出して來て私を攻め苛み出した。そして又肉体的には空腹を覺へ出した。兎に角、今迄張り切つてゐた氣が一遍に緩んだのだ。

食堂車へ身体を運んだ私はオートミールを味ひ乍ら未練に耽り出した。

何でも此の十五六日頃だつたと思ふ。

『須藤君、君こんだつから協會雜誌の編輯補をやつて貰ふんだ相だよ』と突然佐藤さんに聞かされて私はどきまぎしたのだつた。

『そいつは困りましたなあ』

『さう謙遜しないでやつて呉れ給へ。何でも理事會で決議されて最う此間の會で發表したんだ相だから』

『實は私は今月一杯で東京へ歸る事に成つてるんです』

『へえーそいつは困つたなあ』

『全く殘念ですけどね』

二人は暫く無言で手持無沙汰に顏を見合して居た後、各自の机へ歸つて行つて圖板に丁定規を辷らし初めたのだつた。そこへ間も無く波江さんの顏が見へて又同じ言葉を繰かへしたのだつた。

二十五日の編輯會の通知を受けた時も生憎クリスマスの先約をしたことだつたので、一寸しか顏を出せなかつた。然しその短かい時間に片岡先生から受けた暗示は大きかつた。だが雜誌が三號からは印刷所が變つて、あの手ざわりの好い九ポイントの活字と別れなければ成らないと聞かされた時には些か悲しい心持がした。恁うも私はセンチメンタルでいけない。そんなくだらない見るより、最つと重大な使命を自覺した私達ぢやあ無いかその一つは帝大以外の大學及び專門學校出身者を糾合して建築學會の正員資格實

惜しみを打破し、關西建築協會の例に倣はしむる運動である。

―ボーイが新らしい皿を運んで來た、―

窓の外をアサヒビールの建物が流れて行つた。あれも懐しい建物だ。夏の暑い日によく○君に引つ張つて行かれた物だつた歸りはいつもドロンケンだつた。さう云やあ私は大阪の三年間をまるで醉つぱらつて暮し了つた。それも酒よりも空想に醉つて居たのだつた。遂に醉へるが儘に歸へて行く。

曾根崎新地をそゞろ歩いては大近松の空想に醉つた。戀なさけ此處を瀬にする蜆川は火に燒かれて、小春の涙も源五兵衛の怨も焦土と一緒に埋つて了つた。

三勝半七が相對死を遂げた千日寺の跡はいづこ、封印を切て小判を擲つた忠兵衛は千日と聞いて身顫をした。その千日前は生々しい歡樂の巷となつて活動寫眞館軒を並べ、騒々しい樂隊の囃しに人達の心を浮立たして居る。心中した處に心中の芝居とは面白い謎だ。

だが私の空想は戎橋の欄干に凭れて道頓堀の黒い水を見入る時に最も盛んに燃へ立つた。大阪落城を他處に見て、戰ひよりも交通、主君よりも市民の爲めにと安井道頓が擧世の心血を傾けて開鑿した舟運の堀だ。その堀が今では歡樂の堀と化して了つた。左岸は五座の櫓に、無數の幟、極彩色の看板、一列の暖簾、其處はいつまでも春である。右岸は名にし負ふ宗右衛門町の賑ひ、皷の音、太皷の音笛の音、三味の音、歌ふ、舞ふ、踊る。醉ふ。耽る。溺れる。享樂の不夜城。黒い水の上ではモーターボードが道頓の靈を驚かして行く。

私は未だ澤山に建築屋としての空想の種をあの大阪の地に所有して居たのだ。長夏の宮や高津の宮はその宮趾さへも分らない。遺跡が無いと云ふ事は空想に無限の自由を與へて呉れる譯だ。堀江には日本最初の佛像が投げ込まれて居る。四天王寺は佛法最初の伽藍建築の配置圖を傳承して居る。天保山を築いた河村瑞軒も私の空想中の人物なのだ。

噫私はそれ等の寶の山を望んで大阪へやつて來た。そして三月の豫定を三年間も寶の山に住み馴れて了つた。然かも其れで手を空しうして歸つて了うのだ。

失敗つた、と思つて氣が付いた時は寶の山を降りてゐた。

―小さな停車場が車窓を流れて行く―

「いばらき」と書いた白い札が五六人の旅客の姿を一緒に流れて行つた。(完)

□三つの碑□

大阪に三つの懐しい石碑がある。中の島に一つ、安治川の南岸に一つ、それから日本橋北詰に新しく出來たのが一つ、共に淀川から拾ひ上げた自然石で拵らへてある。それは重成と瑞軒と道頓とを偲ぶにふさわしいものである。



□曉の鐘□

會員　野人生

（一）

昔自分が或る町の或る學校の寄宿舍に居た時の事である、書き出すといかにも老人の寢言でも云ふやうに聞ゑるが、決してそんな大昔の事ぢあない、つい此間の事だ、十年一昔とよくいふが、はやいもので、愚圖々々して居る內にもう昔の部類に繰り込まれて居るのだ、其時は自分は父兄の命令で寄宿舍に入ることになつた、自分の親爺は病院が大嫌で、どんな病でもといふて傳染病は別だが、ついに一度も病院に入つた事がない、その癖友人の入院を聞いた時には、第一番に驅け付けて親身も只ならぬ世話をする風があるのに係らず、「病院と監獄と下宿屋とは考へのある人間の入るべき處でない」と硬く執つて承知をしなかつたものだ、尤も誰だつて監獄へ入る事を欲する人間もあるまいが、實際似て居る處があるかられ、殊に市內の病院へ行つて見たまへ、一つとして病人を滿足させる樣な處がない、病院の性質からいへば、病人に安靜と、安眠と安慰とを與へなければならぬ筈である、それが却々そうはゆかぬ、電車の響、荷車の音、さては工場の汽笛などが、亂雜な音律をなして、絕へず枕元に押寄せる、扉を强く閉める音、草履ざわりの荒々しい響、癇高い看護婦の聲が、一々両方の耳に飛び込んで來るまして往來の沙塵は遠慮も無しに窓の隙間から侵入する、何月となく蓄へられた埃芥、煤けた天井や、汚れた壁の色は、其處此處に病人の視神經を刺擊するだから衛生家を以て自任してゐる親爺は、病院が大嫌である、兄の或友人が上京して、本鄉の或高等下宿と銘打つた三階建の、六疊の室を獨占した事がある、一週間ばかり經つてから兄を訪つれて來た時「何うだれ」と兄が聞いたら「まあ丁度動物園だれ」と答へたのを思ひ出す、「仮時になると女中がれ、梯子段をトン〳〵上つて來る、障子を一寸明けて、膳と御鉢と土瓶を置いて、スーと閉めて、それから隣の室へと廻つて行く、人間の樣な氣がしないれ、檻の中の動物に似てゐる」と兄の友人は述懷してゐた、兄はそれから以來「俺は一生下宿屋住居をしたくない」といふてゐた。それで自分は父兄の

命令で、愈々入學試驗が通過してあの學校へ入る時寄宿舍へ、追い込まれたのだしかし、寄宿舍も下宿屋も大して違つて居ない、あの町に親戚や知人が居らぬ爲めに、止むを得ぬ次第でもあつたのだが病院と寄宿舍と考へても解る筈だ、いはば御親類筋ちあないか、處が愈々近日立つといつ時、親爺は自分を呼んで「寄宿舍は病院や下宿屋と違つて、立派な共同生活をやる處である、いはゞ少さな社會である、御前が學校を出で一人前の人間として、實社會に立つ爲めには、丁度よい修業になる、永い事はない僅かに三年の間だ、餘分と總てに用心をして、勉強をして來い、遠く離れても、家の事は心配するな、自分の修業が第一だ、御前は今迄親の家で育てられ、世間といふものを知らないから、此度は、丁度よい經驗になる、身体丈は大切にしなさい」と說明と注意と訓戒を與へてくれた、そしてその時親爺は言葉を繼いで、こう云ふたのを覺えて居る「俺はお前位の時分から他人の家に永い間苦勞をしてゐるが、寄宿舍の生活を知らない、お前の叔父は俺と反對に、永い間兵營の飯を食つてゐる立つ前に暇乞ひ方々、參考になる話を聞いて來い」そこで自分は叔父の意見を聞きに新宿へ出掛けた、叔父は丁度風を引いて寢て居たが、自分の顏を見詰めながら、こう云ふた「私はこれ丈云ふて置く知つた者の居らぬ處へ行くと、先立つものは金だ、決して無駄使をするな、そして不時の用意を心掛けておけ、それから決して人に金を借りるな、亦人に決して金を貸すな、どうしても借りなければならぬ時も、此處だと思つて辛棒するのだ愈々說破詰つたときは私に電報をうて、萬止むを得ぬ場合に到つた時は、見込を付けて借り、直ぐに返濟をしろ、又たゞへ親友から申込みがあつても、貸すな、親友の情義を破ることがあるから貸さぬと斷はれ、萬一貸さねばならぬ事が出來た場合は、その金は返つて來ると思うな與へてしまつた事とするがよい、それがいやなら、立派に斷はるか、持たぬと答へろ」それから四五日して自分は故鄕といふと可笑しいが、東京を立退いたのである。

（二）

考へて見ると、もう一昔になつてゐるその癖つい此間の事だ、まざ〳〵とあの時の事は覺えてゐる。

寄宿舍は何處でもそうだろうか、あんまり立派な處でない、汚穢と亂雜と呑氣とは若い者の癖で、とても御話にならない位の生活をやる處だ。

停車場から行季を乘せて、車の上から勝手も知らぬ町の中を眺めながら城下を離れて、一里ばかり行つた村はづれ、松山の麓の學校の寄宿舍についた時には、色々の想像と實際とが衝突して、頭の中が混亂しない譯には行かなかつた、顏も知らぬ連中が夫々に忙しさうな、落ち付かぬ体度で、出入する支關から敵地へ乘り込んだ氣持で、生徒課に聞き合せ、さもかく自分の室といふのに、行季を下した時は、永い道中の疲勞と、心配でぐつたり椅子に腰を下したのであつた。

自分の室は何號室、机は勿論椅子にしても備品何號と札が打付けられてゐる、二階の寢室は寢室で多人數一所に寢られる樣に出來てゐて兩側は疊敷で一段高く

なつて居るこれから此處迄が自分の學だと決める譯には行かぬ、戸棚は戸棚で第何番と書いてあるのは丁度風呂屋の衣服入と、大差はない、夜具の置場所もない廣々した寢室に行季の網を解いた時、やはり動物園と大差はない事を爲へない譯には行かなかつた、何うしても此建物を我家といへやう、什うしても我机、我室と親しむ事が出來やう。

食堂の不潔さ、便所の汚なさ、便所の紛々たる、臭氣、下駄箱の亂雜なる、中庭の草茫々たる、一として自分には不快ならざるはなしであつた。寢ても滿足な夢を結はず、醒めては他人行儀の挨拶にひし〳〵と迫る寂寥にやるせなき涙が時々頬を傳うて流れるのであつた。

八人といふ同室の連中が。七人迄揃ふたとき、今迄顏を合はしたら、簡單な紙頭を交換して居たが、終に年長の男が氣をきかして、賄所から菓子を買ふて來て始めて初對面の挨拶が交換された。

「おいどんな、熊本から來ました、宜敷う頼みますばい」

と一人かいへば

「私しあ　博多くさ」

と小さいのがいふ。

「僕は土佐の高知です、あんたは松山であろうと思ふよ」

と隣の男を見ると。

「宅は松山にあるさかいに、まあさうだす」

と大阪出の男が答へる。

中津の者と出雲の男は名刺を出して配るので、自分も持つて居た名刺を出して交換をした。

一週と過ぎ、二週と送つて、そろそろ慣れるにつれて、不思議なものである中廊下の暗いのに、左程の不愉快も感ぜなくなつた時には、食堂の飯も大分臭氣が拔けて居た。教室で數學の問題に黑板の前の立往生、下讀の豫習を怠つて英語の教師に散々、油をしぼられた日の不面目も、運動場へ出ると忽ち忘れてしまふ樣になつた時には、城下への散步に、同室の誰彼れと袖を連れて肩で風を切る樣になつてゐた。

或日の事、浴室で計らず、舊知の上級生に出會した時には、懷しさか込み上げて來て、其夜は新寮で遲くまで色々の話を聞いた、寄宿舍に關する七不思議には思はず耳を傾けたのであつた。

浴室の隣りにある井戸、其處には既に二人の若い未來ある青年が、飛び込んで居るとか、運動場の西北の隅にある小池は屢々野球のボールの飛込むので之を埋める計畫は時々持上るが、其度毎に計畫者が病氣となるとか、校門を入つた所にある松林には時々人魂が迷ふとか、裏門を東へ四十四步の處で手を鳴らすと物凄い反響が鳴るとか、新寮の何號室は、月に一度、必ず盜難があるとか、南寮の第何號室は病人が絕ゑぬとか、最後に寮の時を報ずる鐘は、寮に何か事變の起る前には、必ず自然と鳴り出すといふのであつた。

時の鐘！、さうだ、玄關の東寄に高く釣してある鐘は、日日夜々寮生の節度の標準を打つ爲めの鐘である、入寮當時は此の鐘の鳴るときは、必ず目が醒めた、それか鳴ると起きなければ居られない樣であつたが、やがて此鐘の音がうるさくなつてしまつたが、此頃では每朝鳴るの

やら、鳴なぬのやら、一向頓着せぬ様になつて居たのであつた。

（三）

始めは自分と全く同化しさうもなかつた、室が、此頃ではそれでもなつかしきものゝ一つになつた、あの南向の窓に、城下から買つ來た梅の鉢を置いて、それに毎朝毎夕水をやるのを樂しみにして居た事を思ひ出す、日毎に暖くなつて行く二月の初めである。教室から歸つて來て見ると、梅の花の蕾がどうやら、綻び始めたのに氣がついた、二三日したら愈咲くぞと心待ちに待つて居た、丁度寮の紀念日の前日の事である。入浴をすまして歸つて來て見ると、鉢が窓にない。はつと思つて窓際に走せ付けて、見ると、窓下の兩溝の上に、眞二つとなつて居る、梅は根を拂はれて抛げ出され、折角の蕾も目茶々々となつて居た、自分はどうして落ちたか、知らないが籠の鳥の死んだ時の樣な氣持ちで、破れた鉢を眺めて居ると、後から肩を叩く者がある、見ると赤ら顏の肥ゑた男が氣の毒氣に立つて居る。

「濟まん。許してくれ、僕が割つたのだ」

と自分の手を執つた、顏には同情の誠心と申譯の苦しさとか衝突して居る樣に見へた。

此男は南寮の何室かに居るのを自分は知つて居た、野球の熱心家で暇さへあれば、運動場に居る、今日も例によつて例の如く、得意の遊戲をやつて居たのに「ボール」は意外にも、自分の梅の鉢を割つたのである。

自分は勿論破れた鉢や、折れた梅の枝には未練はなかつた、其男は右手に「ボール」を握つたまゝ喜しさうに、室を出て行つた。

翌日は祭日で且寮の記念日だといふので、朝から寮は、賑かであつた、運動場の土俵では、大相撲か始まつて居た、昨日の男は力士の一人となつてゐた、五人抜の捷章を得て彼れは如何にも得意の樣であつた、僕がぶら〳〵見物して居るのを見て、彼は彼の得た捷章を持つて自分の傍へ來た。

友達は一寸した事件が元で出來るものだ、自分は此の男と不思議な緣から親しくなつた。彼は昨日の無禮を詫びて、斷る自分の懷中に彼が得た「メダル」を抛げ込んだ。そして自分は遂に彼れの好意を受けたのである。

裏庭では、南北對抗の庭球が始まつて居た、紅白な聲援旗を振つて、兩軍正に酣であつた、背の低い自分は、のび上り〳〵ボールの行衛に注意した、勝負附は南軍顯る優勢で北軍の旗色危げに見へた北軍の應援隊は此處ぞと、猛烈な勢援を開始した。赤旗も劣らじと狂ふて居る、興味に乘せられて思はず、前に一歩進んだ時、自分は隣の丈の高い男の蹠を踏んだのに氣も付かなかつた。

「痛か！」

と彼は叫んで、突然自分の背中をどやし付けた。

何も知らぬ自分は勿論不瞞な顏をした。

「何にをするんです」

と答へた、彼は恐しげに自分を眺めながら。

「何も藏もなか、おいどんの足を踏みお

つて」彼れは亦右手を擧げて詫をいふ自分を、再び打たんとしたが、後から其手を扣へた者がある。

「貴公も解らんな、詫びちよるに、もうよか！」見れば、先刻「メダル」を吳れたあの男だ。

自分は計らず救はれたが、見物も面白くないので、自室へ歸つて來た、所在なさに窓を開けて、昨日の割れた鉢の死骸を跳め入つた。

ふと響く鐘の音に、思はず首を延ばして左手を見ると支關口に立つて居る、あの鐘が風もないに鳴つたらしい、おやと思つたが、もう聞ゑぬ、自分の氣の爲であつたのかもしれない。

（四）

夜に入つてから、雨天体操場では、記念日の祝賀の夜會が開かれることになつてゐる、五百の寮生が樂しい一夕の歡樂を齎にするのである。

夕飯の御馳走の食堂で自分は同室のものから今日の「マッチ」は南寮の勝である事を知つた、相撲も北寮の負であつたそうな。

寮歌の合奏の後で舍監は毎年の例によつて祝賀會の劈頭、記念日の所感を述べた、それから寮の先輩の演說や、招待された教員の賀詞や何かで、中々盛會である、其度毎に拍手が起る、自分は氣色の悪い爲めに少しも、面白くなかつた、そして夕景に聞いた鐘の音が何事をか暗示してゐるかの樣に響いて止まないので、

會場を出て運動場を彷つて見たが、只寂寥に襲はれる丈で、却つて心細くなつて、亦會場に入つた、今正に餘興が始まる所であつた、寮中の音樂家を選抜した、音樂家の合奏がある、美聲家の一團は各得意の詩吟をやる、薩摩琵琶の得意なもの、浪花節をうなるもの、狂言をやるもの、それ〳〵が專門家そこのけの妙技を演ずる、何事も出來ぬ自分は只感心の外はなかつたが他の寮生が興を湧かして樂みを分つてゐるのを見て羨しかつた九時頃、自分は亦獨り自室に歸つて來たそして久振りに、父兄に宛てた手紙を書いた、東京を立つ時分の事が、浮んで來る、叔父の訓戒などが回想される、そして故郷の懷しさが込み上けて來ると同時に、此半歲の不勉強、不成績を悔まずには居られなかつた。

ワーといふ鬨の聲が耳に入る、萬歲を三唱して今夜の會合も終つたらしい、廊下が急に亂雜な足音を鳴らす、扉の開く音、閉つる音、詩吟や、寮歌の叫喊が一時に起る、ドヤ〳〵と歸つて來た同室のものも、それ〴〵に面白かつた一夜の餘談を咲かし始めた。

自分は手紙を書き終つて、寢室に上つた淡暗い室の窓際に何やら蠢つて居る、ビク〳〵しながら近づいて見ると、それは非常の際に窓から逃れ得べき荒繩であつた。

殆んど引放しの床の中に入つて、亦家の事を思ひながらウト〳〵と寢てしまつた、同室のものが床に就いたのも、夢の內であつた。

夜も大分更けた頃である、隣室で騷がしい音が、突然起つたので。ふと目が醒めた、窓が開いてゐるのか、寒い風が膚を襲ふ、何事だろうと思ふうち、誰か四五人どや〳〵入つて來た、混亂が忽ち

つた、兩側に枕を並べて寢てゐたものは大程、布團のまゝ床の上に引づり落されてゐた、自分も其一人であるのみならず、夜具を掩られて上から散々に蹈まれたのであつた、思はず、立上つて一人の背中をどやし付けると、其男は自分を腰拋げに掛けて放り出した、起き上ろうとする處を横面をいやといふ程叩かれた、此連中が又隣の室を襲ふ爲めに引上げて行く、廊下の火光で覆面のとれた其男の顏を見ると、今日寒庭で足を蹈まれて怒つた男であつた。

氣の毒さうに同室の連中が介抱してくれた、一時は目が暗んだが大した事もなつかた。

「一体什うしたんやろ」と一人が聞くと

「ありあ 北寮の連中が勝負に負けたのを殘念がつて夜襲（ストーム）に來たんだと思ふよ これが話に聞いた夜襲（ストーム）かと始めて氣が付いた、そして無念の涙が思はず流れ出した。

隣室も間もなく騷がしくなつて。

「何をする糞」！と

と組打か始まつた樣子だ。

「生意氣な奴 なぐれ」

と怒鳴なる聲が漏れて來る、巨棚の上に登つて見ると開いてゐる入口から光線がさし込んで居て來襲の四五人を相手に相撲と野球の選手は得意の柔道で戰づて居るのが見へた。今し方自分を慘々な目に遇はした男は此度は、自分の新しい友から見事に拋げられて、柱でひどく腰を打つたか、暫く起き上れない樣子だつたか、同勢に助けられて引上けて行つた。

亦しても彼は自分の爲めに見事に敵を打つてくれたのである、暗い中で愉快でたまらなかつた。

寢やうと思つても中々寢られない、一度冴ゑた目は閉づべくもなかつた。

同室の連中の喊の聲が聞ゑて來た時分には夜襲の連中も北寮に引上けたらしい靜かな三寮の夜は沈々と更けて行く、かすかに聞ゑる犬の遠吠や、折々寒山で鳴く夜鳥の聲が、寒い風に送られて來る、時計を見ると三時近くである。

（五）

寢返りを打つて窓の方に顏を向けれさき、北寮の靜さを破つて、叫聲が聞ゑた同時に強い火の光がパツと映じた。

「火事だ」！

といふ叫聲が此度は「ハツキリ」聞ゑて來る、自分は思はず、飛び起きて、窓より見れば北寮の東の隅から燃ゑ上つてゐる、中庭には四五人のうろたへた影が見ゑる、黑い烟は物凄く吹き出してゐる。

呆然と立つた儘兎角の思案が浮ばないちに、そこ此處の窓を開ける音、廊下を走るもの、がだん〳〵多くなつた、柔道着に身を固めた隣の友人は。

「火事だぞ 起きろ」！

と吐鳴りながら入づて來た。

「おい君、什うした荷物丈は仕末して早く加勢に來てくれ」と親切にも聲を掛けた、そして直ぐに隣室に行つた、始めて危險に氣の付いた自分は、布團を包み初めたがもう、氣が轉倒して滿足に結ぶことが出來ぬ。

同室のものは夫々に洋服を着るのを忘れなかつた、混亂と恐怖と惑亂と同時に

襲來した、無中になつて一段荷物を運動場へ運んだ後、二階へ取つて返さうと思ふとき、突然「時の鐘」はけたたましく鳴り出した。あつと氣が付いて玄關口の方へ行つて見ると、其處に例の友人が綱を引いて居た。

「おい君！一寸暫く此處で鐘を鳴らして居てくれ」と云ひ殘して、赤鬼の樣な顏色凄まじく、彼は再び北寮へ行つた。

れむけ眼の小使が來たので、任務を渡して二階に驅け上ると、もう北寮は手の付けられぬ程の火の家となつて居た。

西妻の端から渦卷く黑烟は、龍の如くに、吹き上つて居る、西へ〳〵と移り行く紅蓮の焰は夜叉の樣に物凄い響と共に板張りの側壁を甜めて行く、火勢は愈強くなつて、窓際に立つて居る事が出來ない樣になつた。

階段を下りて中央の渡廊下の處へ行くと其所に彼は「ポンプ」を指揮して廊下を襲ひ來る火勢と戰つて居る。徑二吋のホースから出る水の量は。とても之れを喰い止められさうにもない、が大童になつた彼は丸橋忠彌の樣な姿勢で井戶の綱に命の水を汲み上げる。

折から東端の渡廊下は遂に火の手を導いて南寮に燃移つたと見るて防禦隊は身を以て遁れて來た。

「もういかん」

と破れた「バケツ」を持つた連中が絕望の破聲を擧げる、阿修羅王の樣な彼も萬事窮するを見て「ポンプ」隊を率いて圖書館の防禦に全力を注ぐ事とした。

烟は中廊下に渦卷いて、防火壁もない木造の家の隅から隅を埋め盡すばかりである。

「諸君！危い。怪我をしてはならん一先づ運動場へ引上げてくれ」

と非常用の提灯を提げた舍監は寢卷の上に外套を掩つて居る。

「殘念です　殘念です」

と叫んで丸橋忠彌は兩眼の淚を拂つて無念がる。

運動場に行つて見ると、漸く驅け付けた△△村の消防隊は新寮と食堂との防禦に全力を注いで居た。

※　※　※　※　※

木造板張の寄宿舍二棟は、便所を殘して一夜に灰燼となつてしまつた。其便所は寮生の努力で殘されたにしても半壞の姿である。新寮と食堂とは幸に無事であつた。

其他の建物は離れて居たので、皆無事であつたが可燃性建物の失火は到底貧弱な消防機關のよく防ぎ得べきものでない廊下の要所に配布してあつた臨時の消火器は到底斯の如き、大事の役には立たなかつた。

火は果して如何なる原因で起つたか、自分はとう〳〵知ることが出來なかつた或物は漏電だといふ或物は放火だといふ或物は聲を潛めて過失だといふ、寒い冬の夜の火事は遂に原因不明の下に葬られてしまつた。

其後彼と自分とは親しい友人となつたが、夜襲に自分を拋げた北寮のあの男は有名な亂暴者の一人であつたが、どういふ者が其後其暴狀を愼んで見違へる樣な男となつて居た。

「時の鐘」は無殘にも燒け落されて記念物の一となつて居るが、もう再び自分はあの冴ゑた曉の鐘の音を聞くことが出來なかつたのである。（終り）

都市建築法令調査會設置に關する建議

我國の大都市は、東京を始め何れの都市も、其都市内容の根本たる建築に對して、未だ何等の制限なき狀態にして、少しも現代文明の進路に沿ふものにあらず、識者をして常に其將來を憂へしめたのである、從來數次其緊急なるを唱へた場合に、多少の反響はあつたが、時運の到達せざりし爲めか、或は又論者の努力足らざりし爲か、何れにしても、事實何等社會一般の共鳴を得なかつたのである、東京市は、十數年前に、我建築學會に其法令の草案を求め、學會に在りては、萬國の有名なる都市建築法令を汎く蒐集し、其長を採り短を棄て、前後五六年餘の日子を費して、一の成案を得、之を東京市理事者に提出したるは、已に五年以前の事に屬するのである、併るに理事者の机上に置かれた儘で其後少しも其實施の準備行爲には取掛らなかつた、昨年春我日本建築士會は、其法令實施の急要なるを認め、一の草案を造り、之を當局に進達したけれども、未だ何等の反響を得なかつた此等は其主唱する側に於て、何等かの欠陷あるにはあらずやと考へ付いたのが、即ち我關西建築協會の態度であつた。

我關西建築協會にては、我國の都市に建築法令を布くことは、急要であると同時に、國民に取つては又重大な事柄であるから、唯建築其物の立場より見て之が法令を制定するは、むしろ甚しき矛盾であつて、殊に過渡時代に在る我國都市建築を、過去現在に通貫して之を將來に改善せしめんことは、事實無理な遣方である、故に若し我國の都市を將來に發展せしめんには、部分的に大改造を要する場合甚だ多く、其強制方法の寛嚴宜しきを得ん爲めには、唯建築構造や、都市美觀又は衛生上の問題のみより、打算する譯にはゆかない、どうしても經濟上の問題國防上の立場又は國法上の疑義等より研究する爲め、あらゆる最高智識を一堂に蒐めて、以て國法上合理的にして且つ都市改善の目的を最も

速かに達し得る、一大法典を編成し、之を法律案として輿論に愬ふの順序とすべきであると考へたのである、乃ち本年二月の例會に於て、其意見を理事より發表して會員一同の同意を求め我協會より之を內閣の大臣に建議せんとする手段を定め、先づ以て建築學會及日本建築士會に向つて、聯合して此建議に加はるや否やの回答を求めたのである、日本建築士會は役員會を開き、其主旨には全く同意し、直ちに總會を召集して之を一同に諮りたるに、滿場一致之を是認し、實行委員として、會長長野博士及會員清水仁三郎氏を選定した、又建築學會に於ては、役員會に於て大体其主意に賛同し之を建築法規實施委員會(常設)に移し、討議の結果其聯合に加はることゝなり、同時に都市協會の加盟を慫慂することを提議したのである、此に於て去る一月三十一日建築學會の委員として佐野、岡田、兩氏、日本建築士會より長野、清水兩氏、我協會より片岡理事長、又都市協會より藤原氏相集り、原案たる我協會提出の案文に多少の修正を加へ、直ちに淨書及印刷に付して、急速に之を當局に提出し、傍ら貴衆兩院議員各個人に其意見書を配布し、又新聞其他の通信機關に此努力を敷衍せしめんと決議した。

二月六日、午後塚本、長野兩博士、藤原氏、清水氏及我協會理事長片岡氏は同道して右意見書を內務大臣、及ひ陸軍大臣に提出し、交々其意見を敷衍せり、首相は遇病耨中にあり、面會の機を得さりしゆへ、內閣書記官に其傳達を依托し、上述決議の實行任務を果したのである、其意見書の全文を左に揭く。

意見書

我國の重要都市に對し速かに建築法令の布かれんことを望み其制度に關する調査會を設置するの急要なるを認め下記各會聯合の決議を齎らし茲に之を建議す。

願くは淸鑑を垂れさせられ御採納あらんことを切望の至りに勝へす。

大正七年二月　日

建築學會會長　工學博士　辰野　金吾

日本建築士會々長　工學博士　長野宇平治
關西建築協會理事長　片岡　安
都市協會幹事　藤原俊雄

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

理由

我國の大都市は今や封建鎖國の時代より一躍して、世界的文明と接觸すべき機運に達し其施設に於て改革を要すべきもの甚だ多く、明治貳拾壹年の勅令による東京市區改正條例の如きも其一端に着手する準備なりしや明かなり、然るに市區改正の事業も東京を除きては他の大都市に及ばざるが如き現時の狀態は畢竟都市改良問題の閑却されたるを証するものなり現時文明國の都市として其改良施設を考慮すべき問題は一にして足らずと雖も、市區改正と建築條例の制定とを以て其根本となすべきは敢て呶々を要せず、然るに我國の都市は帝都の中央に於ても未だ建築統一の法規なきの狀態にして、若し此儘に放棄せんか、之を現狀に觀、之を將來に稽ふるに到底文明國の都市として進展し得べからず、殊に今後當然被むるべき都市大火の災厄、震災の大破壞を慮るに、其慘狀は蓋し容易ならざるものあるべし、況して將來戰時に於ける都市襲撃に對する防備の急要は國防上欠くべからざるものあるに於てをや、此次歐洲の大戰亂には都市の破壞を以て其戰略の一とし盛に之を實行しつゝあるを聞く、此點に關しては我國都市の建築の抵抗力殆ど絶無なるを考ふる時は、我國重要都市の改造は焦眉の急務なるを感ぜざるを得ず、彼歐米の各都市は已に古きは百年以前より新しきも數拾年以來嚴正なる建築法規を以て其建築を制限し、以て都市の健全なる發展を計らざるなし、然るに獨り我國は之を各箇人の放縱に任せ何等の制限を加ふるなく、其外觀に於ては統一を欠き、市民の安寧公衆の衛生を保するなく、災害防備の實質に於ては不完全を極め空中攻撃に對しては全く抵抗力なし、吾人は何故に斯かる非科學的の都市に甘んじて益々世界文明の大勢に遠ざからんとするや、憂國の士は到底之を容るゝことを得ざるべし、吾人は之を歐米の都市の過去に鑑み、現時の科學應用旺盛の傾向に稽へ、更に將來我國都市の發展に思ひ臻る時、到底現在の秩序なき不統一を持續すべき時期にあらざるを感ずるや切ならざるを得ず、今や我國は世界的強國の一として宇内に雄飛せんとするに際し、國内の重要都市進展の方針を定むる能はずんば之れ百年の計を誤るものにあらずや、是れ吾人が速かに我國重要都市建築條例を布かれんことを望み、其制定準備の爲め調査會設置の急要なるを唱ふる所以なり。

調査會に對する希望

内閣若くは内務大臣直屬の機關たらしめ、各省代表者、衛生局長、土木局長、警視總監、各重要都市の市長、市會代表者衛生工學家及若干名の建築學家を以て委員會を組織することゝ



安田倉庫の經驗せる火災に就て

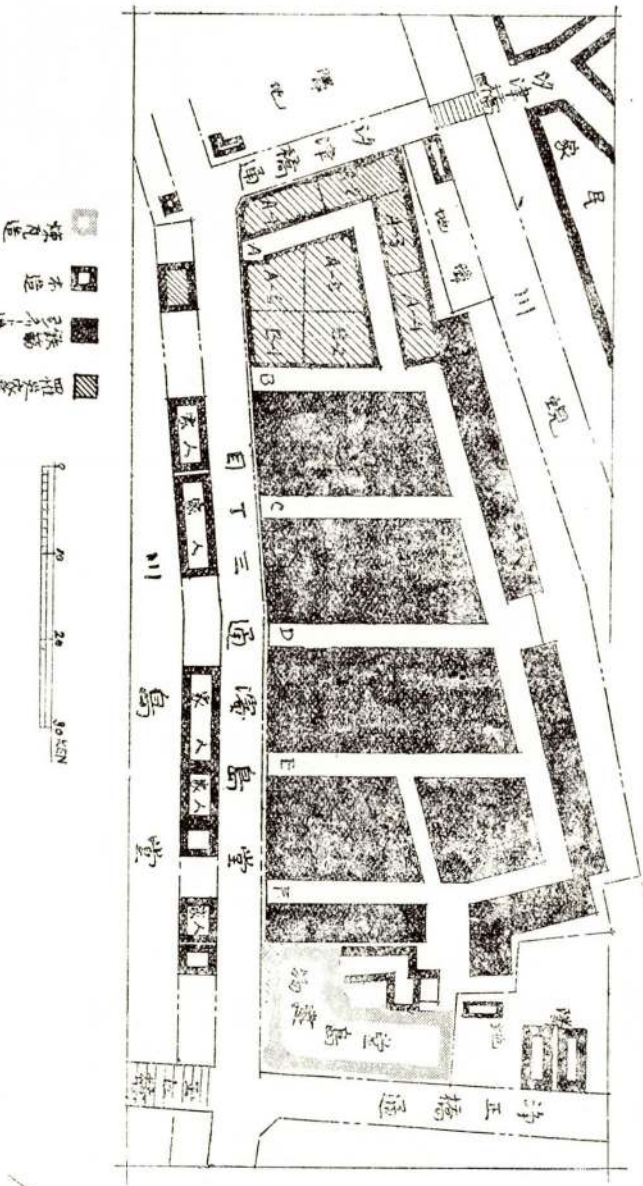
第四部委員
波江悌夫

第一章、序言
第二章、堂島倉庫の構造
第三章、爆發の原因と「セルロ井ド」
第四章、罹災後の慘狀と調査
第五章、調査方法と研究資料
第六章、A-5室の修繕工事
第七章、結論

第一章　序言

大正三年、夏八月三日、午後三時頃、大阪市北區堂島三丁目河岸に在りし安田倉庫は突如、不慮の爆發を惹起し、三棟八戸前の倉庫に多少の損害を蒙りたり。當時歐洲の風雲急にして、獨露塊佛相搏たんとし、英白亦劍を執つて立たんとするの報、頻々として到り、號外の振鈴、戸外に鳴り渡るの際なりければ爆音轟き、黒烟天に沖し、警鐘の響音相次ぐや市民の驚愕一方ならざりき、此の異常なる火災が、耐火構造の金城鐵壁たる、鐵筋「コンクリート」倉庫に特發したるを目擊したるものは、皆啞然たらざるを得ざりき。殊に此新構造物に多大の注意を拂ひつゝありし、倉庫業者、並びに建築專門家は、此突發の災害に基きて、新たなる疑倶の念の增大するを覺ゑたり。たとへ不

慮の災難たりしとはいへ、八戸前の倉庫を猛火の荒るゝに委し建築並びに荷物に尠なからぬ損害を與へたるは、信賴し得べき此新構造法の前途に暗影を投ずるものなりとの斷定は、必然、起らざるべからざる處なりとす。されば、此變災後新聞紙上に傳へられたる一二の報道は、頗る悲觀的にして、從來我國唯一の耐火構造たりし、土藏造に及ぶべくもあらずと斷ぜられたり乍然、是等因より素人的皮相の觀察に過ぎずして事實の眞相を調査するに及んで、毫も悲觀すべき材料なくして、却つて高價なる實證を齎し得たるを知り、喜悅の情を禁ずる能はざりき。爾來幾度か此眞相を明かにして、世の識者の參考に資せんと欲



安田倉庫罹災建物平面圖

して遂に果さず、茫茫四歳を送り來りて、衷心の苦痛漸く重くるに及んで、彼此、對照して益々興味ある研究資料たるを覺ゆ。機會の到來を待ちたりしが遇々芦分倉庫の大爆發事件の突發す余が親しく調査し得たる事實を擧げ、一は速斷せられたる誤解に對へ、一は斯道の諸先輩に對して他日の參考の一端ともならん事を期し、禿筆を驅り、墮氣に鞭打つて、茲に本誌の紙上を穢すものなり。芦分倉庫の爆發は實に未曾有の大慘事にして、因より雲泥の差ありと雖、此の四年前の災害が等しく爆發による被害にして、しかも附近人畜に殆んど死傷なく類燒の厄に遇ひたるは、僅かに大阪市土木課北區出張所の建物のみなりし事は、不幸中の幸なりしと同時に、世の特別なる注意を惹かず、市民の記臆に僅かに存するのみなる點は、特に注意すべき事實にして、然も最も仕合なる結果なりしを思はずんばあらざるなり。

目下同倉庫は擧げて浪華食庫會社の經營に移管せられつゝありと聞く、回想記を述ぶるに當りて感慨無量なるを覺ゆ。幸に余が漫筆を咎むなからん事を。

第二章　堂島倉庫の構造

安田倉庫は舊安田商事株式會社の經營に係りし、倉庫にして北區堂島に於て約貳千坪、同中之島に於て約壹千坪を算す。前者を堂島倉庫と稱し。後者を中之島倉庫と名つけられたり。現時擧げて、浪華倉庫會社の所管に移りたるものにして、茲に述べんとするは、堂島倉庫の遭遇せる災害なりとす。

堂島倉庫は、實に明治四十二年に於ける北區大火の砌、猛火の一嘯に遇ひ、一溜もなく灰燼に歸したる舊土藏造倉庫の燒跡に建設せられたる、鐵筋コンクリート造平屋建合計拾二棟、四十室、總坪約二千坪の倉庫なり。類燒の大損害に鑑み、不燃質構造により再建するの急務を感じたる當事者は一切の設計を擧げて、辰野葛西事務所に依頼計畫せるものにして、當時他倉庫會社を驚かしたる新築構造物なりき。起工せるは明治四十三年七月にして、全部竣工せるは同四十五年二月にして、一式受負工事として大倉土木組大阪支店の實施に係り、工事施工監督は辰野片岡事務所に委托せられたり、余は當時現場監督として任に就きたる關係より、罹災後の調査並びに修繕工事に從事したるものなり。

堂島倉庫は、合計十二棟より成る、西、北及東に廻る六棟は間口夫々四間半、中央に亞べる六棟は間口夫々十二間を算す通路は約三間にして、南側通用門番號によりA、B、C、D、E、F、等の名稱を附しありき、各棟共隔壁（厚五寸）を以て區分し各室番號は從つて1、2、3、等の名稱を附せられ合計四十室を算す。

軒高十六尺、屋格勾配一寸、屋根葺覆は生子板二十八番ものを使用し、埋込根太杉二寸角の上に取付けらる、外部は總て厚四分「セメント、モルタル」塗、內部は厚二分漆喰塗とす

各室出入口は平均二個を有し、夫々內外二個の扉を有す、鐵枠にして厚二寸鐵筋（三分丸鐵五寸間組合）「コンクリート」打アキシル釣車を以て釣込みたり、內外共　二分の「セメントモルタル」塗とす、

室内には三間に孤立柱（一尺角側柱と同じ）を配置して屋根梁を支へたり。柱角は養生用「アングル」鐵を以て保護せり、室内貨物荷揚用として、杉押三寸角高平均二間半、一尺間に配置し八番線を以て、壁に取付けあり。

採光は凡て天窓（巾二尺長三尺）より取り、金網張、蓋破は厚二寸鐵筋「コンクリート」造とす、又各室換氣用として、徑一尺二寸の換氣孔平均二個を有せり

通路は鐵骨小屋、生子鐵板葺の上屋を架渡し、各採光用、天窓を備へたり、荷物は車馬を以て運搬するが爲めに通路中央は板石敷とし左右は「コンクリート」打「モルタル」塗とす、其他防火用消火栓、合計六個を配置し、不時の際に備へありたり

今更に主要なる、構造並びに施工仕樣の大要を擧げて後章の說明に便せんとす。

地形、割栗地形、五十貫胴突、割栗丈八寸

基礎　地下三尺に達す

柱下　四尺角、丸鐵徑七分約八寸間、スタラップ巾一吋、厚一分平鐵

壁下　二尺巾、丸鐵徑七分約八寸間、スタラップ巾一吋厚一分平鐵、右柱、壁基礎は連絡せり

柱　尺角、徑六分丸鐵、四本、フープ、亞鉛鍍八番鐵線一尺間

壁　厚五寸、縱筋徑三分丸鐵、二列配列、横筋八番鐵線



形

大梁　巾一尺、高二尺、徑七分丸鐵四本、スタラップ、巾一吋厚一分平鐵平均一尺間

中梁　巾一尺、高一尺三寸九分、鐵筋同斷、スタラップ、同斷

小梁　巾五寸、陳八寸、徑三分丸鐵四本、スタラップ、同斷

屋根片　厚三寸、三吋メッシ、エキス、パンデットメタル

右仕樣

基礎「コンクリート」は「プーチング」打固めの上、地盤線迄壁厚一尺打込み仕上、夫より各柱九尺間に假枠組立て高さ十三尺餘一遍に打込み、假枠取外し後、壁假枠取付、二段仕掛、二遍に打込み、夫より、軒桁（中梁と同じ）中梁、大梁（棟梁）並びに小梁假枠組立、支柱を以て床コンクリート（厚五寸　割栗厚五寸）上に支へ、屋根床假枠取付後、鐵筋配置、三叶目エキスパンテット、メタル、半目重なりに敷並べ、鐵筋接合部は總て亞鉛鍍鐵線十六番及二十番線を以て緊迫し、「コンクリート」打込の際は、各場廻り打込後、屋根「スラップ」打廻りたり。

而して當時災害を惹起せしは西南部の第二棟にして西端に在りし二棟と合計三棟に多少の損害を蒙らしめたり、此等三棟の倉庫は實施の際第一期工事として大正四年十二月竣成せるものに係る。

第三章　爆發の原因と「セルロ井ド」

大正三年盛夏の候に入りて、氣溫暴昇して、市民は例年になき暑氣に困却しつゝありたるの時に當りて、大阪市附近に在りし、「セルロ井ド」加工場の失火せるもの頻々として報道せられ

たり。

七月廿八日、午後一時半
大阪市南區炭屋町、紙箱製造業某氏
床下に保管せし石油函中の「セルロヰド」下駄表より發火

七月廿八日、午後三時
府下東成郡古市村大字南島某煙草入筒製造所
原料が早天に乾燥し、引火、三名火傷

七月三十日、午後七時半
府下西成郡北中島村大字十八、「セルロヰド」工場
工場の一部に堆積しありたる原料屑より發火工場一部、舍宅三棟燒失、

八月廿四日、午後五時
府下西成郡北中島村大字十八、管氏工場
乾燥中の「セルロヰド」大爆發。工場一部全壞

斯くの如き頻々たる失火は實に酷烈なる暑氣に依るものにして當時大阪測候所は七月廿二日以降に於て、築港の外天王寺及福島に於て氣溫の測定をなせる程なりき

	築港	福島	天王寺	（午後二時迄に於ける最高溫度）
七月廿二日	九〇、四	九七、四	九四、八	南西風、晴
廿三日	九〇、九	九五、〇	九三、八	同上晴
廿四日	九四、六	九八、一	九六、二	同上晴
廿五日	九一、〇	九三、五	九二、一	北東風、晴
廿六日	九〇、一	九五、〇	九三、七	同上曇
廿七日	九〇、三	九三、五	九三、〇	南西風、晴
廿八日	八九、二	九〇、	八八、三	同上晴
廿九日	八九、八	九五、〇	九四、五	同上曇
三十日	九一、九	九五、一	九三、五	同上晴
廿一日	九一、八	九六、四	九五、一	同上晴
八月一日	九〇、七	九三、九	九四、三	同上晴
二日	九一、〇	九四、一	九五、〇	同上晴
三日	九二、〇	九六、六	九三、五	同上曇
四日	九〇、九	九五、〇	九三、五	同上晴
五日	九一、三	九六、五	九五、〇	同上晴

右の如く市内三方面の溫度は福島方面に於て甚しく且つ八月に入りては漸次上昇しつゝありしなり。爆發當日に於ける溫度左の如し

築港測候所記錄

八月三日

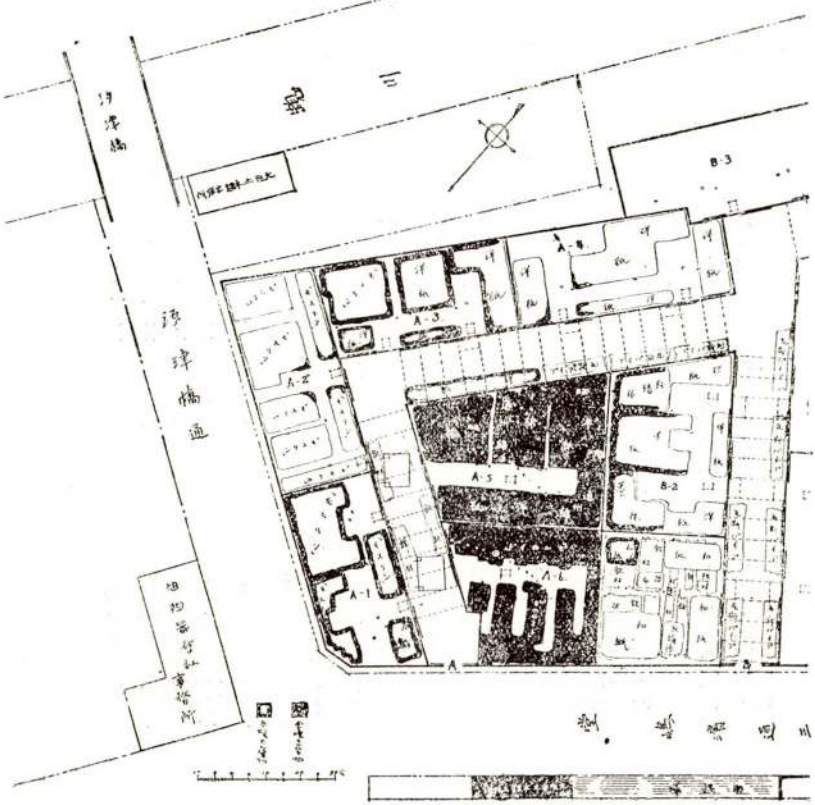
正午	八八、三
午後一時	九〇、五
同二時	九一、九四
同三時	八九、九六
同四時	八九、二四

而して當日早曉小雨あり午前中時々日光を見たれども、午後に至りて曇天となれり、又當日最大風速度は、南々西、八米突なりき。

斯くの如き溫度の上昇に伴ひて「セルロヰド」原料の引火爆發並びに加工品等の燃燒の類出に驚きたる、倉庫當事者は當時保管中の「セルロヰド」荷物を A-6 號室に集中して萬一を警戒し、事務員、仲仕其他の關係者に特別なる注意を拂はしめつゝありた

れども、不幸にして當業者は「セルロ井ド」荷物の危險性を知りつゝ其取扱方並びに保管方法について充分なる理解なかりしを以て、A-6號室は八月一日より密閉され外氣の溫度の上昇につれて、分解を引起し遂に八月三日午後三時爆發の慘害を見るに到れり。

出火の原因は主としてA-6室内に保管せられたる「セルロ井ド」貨物の自然分解に歸因す、最近「セルロ井ド」工業の勃興に伴ひて製品の巧妙となり危險性「セルロ井ド」は跡を絶ちたりと雖、由來引火性にして可燃性の物質なるが爲めに、屢々失火の災害なきに非す昨年初夏に於ける三國工場の爆發の如き其一例なり。而して當時に於ける「セルロ井ド」工業は尚未だ粗製品多く殊に内地製のものに在りては、外氣溫度の影響を受けて、引火性瓦斯体の輝發するもの、頗る多かりき、而して安田倉庫に管理中のものに在りては、大正二年五月以降入庫せるもの二百五十個に達したるを以て、漸く拒絶の方針を執り、荷主の懇願と且つは保險會社の承認を得、其耐火構造に信賴して同年八月中悉くA-6號室に集中し、出火當日迄に積込みありたるは實に四百五十三個の内



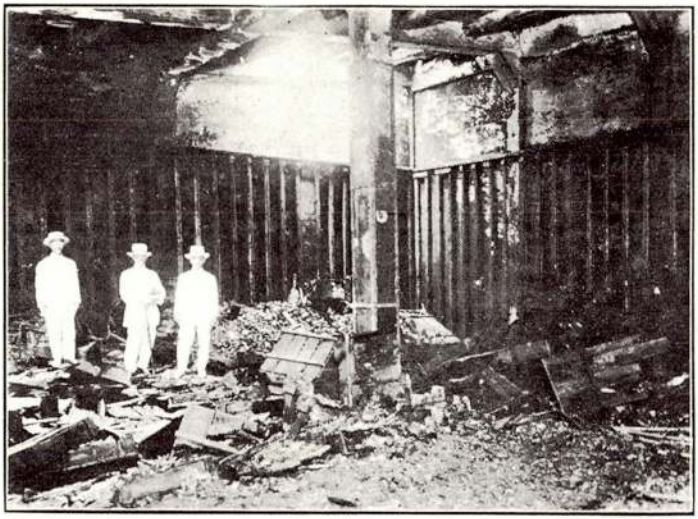


A通路内の惨状

右端は(A-6)入出口にして中央に倒壊せる壁外同扉也



A-5號室の一隅



A-6號室内の慘狀（視察中の兩博士）

右端は大藤博士　　中央は日比博士



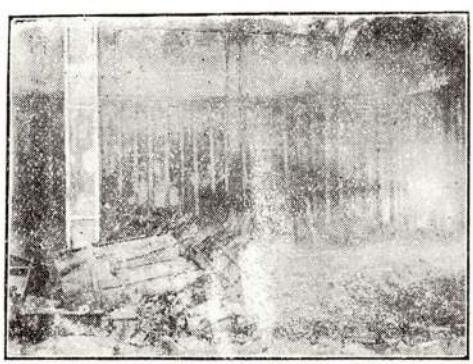
A-5號室内の慘狀

せり。乍然新來の貨物を拒絶して、舊貨を保管せしば千慮の一失なりしなり。

余は失火の原因に就いて疑問を懷き、一日閑を得て、姫路に赴き斯學の泰斗、工學博士西田博太郎氏を訪ひ、親しく教を乞ひて疑問を氷解し得たり、今博士の談話の一節を擧ぐれば

「セルロイド」は熱に對する不良導体であつて、純粋のもの程熱を吸收する事激しく且つ熱を蓄積して分解を始める。不良のものに在りては攝氏六十度位で盛んに氣体を放散する、放散された氣体は極めて引火し易く、多量なる場合に於ては爆發し其危險性は綿火藥と大差なし、亦爆發する節は、溫度稍下降（約五度）する際に發し、從來數多の例を見ても同樣なり、殊に侵透性の恐ろしきもので、間隙さへあれば侵透する引火するときは、分時を待たずして、燃燒し切り、非常なる熱を放散し、毒性の瓦斯を發生する、蓋し燃燒に必要なる總ての要素を備へたるが爲めに、空氣（及酸素）のない場合にも、燃燒する、されば之れが保存法は充分なる注意を要し、通風換氣を充分にし、天窓の直射光線の如きは大禁物であつて、黒布を以て射斷するを宜とす、爆發の際には、上方に其威力を振ひ、焔は天井を舐ふ而して不良品に在りては、特に危險なるものがある、之れ其分解猛烈なるが爲である、蓋し不良品は精製の際、溫湯にて洗滌せぬ爲で、硝酸の微量を殘有せるものに在つては、時々刻々分解を始める、且つ乾燥せる時には分解愈猛烈であつて、安田倉庫の失火は明かに不良「セルロイド」品の在庫せる爲であつて從來數多の實例と全然相一致する、殊に昨年以降、保存されたる貨物が殆んど出庫することなく、加ふるに發火當時の狀態が發火に最も都合よい條件を具備せし爲ならんか」

余は實に博士の談話によつて、出火の眞相を捕へることを得たり、即ち不良品の古き分を貯藏して新しい貨物を拒絶せるが爲に、益都合惡かりしなり。



A6號室の一隅

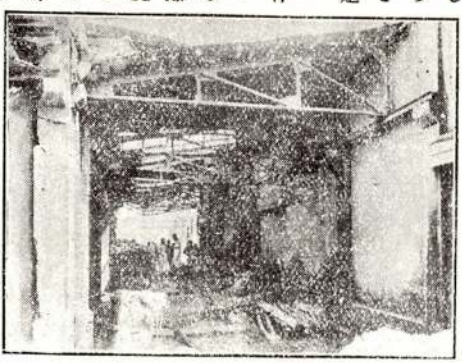
A-6號室の貨物配列の狀態を見るに、燒跡の寫眞にもある如く、皆一層に棊枰竪しに陳列せしものなり、而して同室には唯一個の天窓を有し居たり災後其射入光線の投下せる光脚を檢して、其軌跡を見るに朝は西側の出入口に近く、午後三時頃北寄中央に來り夕暮に於て同室の中央に至る、圖に示せる如く、出入口よりの運搬路以北の貨物は此直接光線を充分に受けたるものにして且此等部分に在りたるものが一番最初に入庫せるものなりし由なり。

されば木箱（長四尺巾二尺五寸厚一尺）中の不良品は八月に入りて大に分解を初め、三日間の暑熱のために放散せられたる瓦

斯体は同庫内に充滿し其氣壓は實に午後三時に至りて出入口外扉を壓倒せしむるに到れり。(內扉は殆んど開放しありたり)

當時A通路內、即ちA-6號室出入口の前に在りたる仲仕四名はA-1號室に入庫中の貨物につきて相談しつゝありたる際、突如A-6號室外扉の轉倒に仰天し突差の間、「セルロ井ド」の爆發と氣付き、大事よと叫びA門を出でゝ、東走せり。

濱通を東へ逃走せる仲仕は叫聲を擧げつゝ、一度立止まりてA門を眺めたる際(此間約一分)大爆音と同時に黃、赤、黑の混色を帶びたる一種異樣の猛火突出して、眞向なる土木課出張所を襲ひし瞬間にして燃燒を始めたるに愈々驚天自失せるもあり。



北より見たるA通路

蓋しA-6號室外扉は「セルロ井ド」氣壓に耐へずして放下せられ白色の氣体は通路に充滿し、且つ大部A-5號室に侵入せるものゝ如し、(同室外扉は約二尺餘開かれありたり)而してA-5號室に在りては晒綿、通州綿及洋紙充滿し、室內の溫度は二個の天窓よりする直射光線によりて上昇しつゝありしなり。かくて「セルロ井ド」瓦斯体の侵入せるものは、熱せられありし室內の空氣と混合し、大爆發を惹起せり。瞬間にして瓦斯体は猛火に一變しA通路の上家に壓せられて低く南北に突出せり、南せるものはA門より土木課出張所の建物を襲ひて忽ち鳥有とし北せるものはA-3號室を襲ひ、更らに右折してB通路に出で、漸く上方に放散せり。

而してA-5號室を爆破せる猛火の主力は、同室の天井を突破して上散し西南風に煽られて東向し、堂島建物(三階建鐵骨煉瓦造)を襲ひたるも距離遠く火焰益上昇して何等の損害を與へざりしは不幸中の幸なりしと雖、黑烟天に沖し凄絶を極めたり。蓋し此等猛火の狂奔は實に瞬間の出來事にして「セルロ井ド」を燒き盡して約二千度に近き火焰の四散したる後は各室庫內の貨物の燃燒に止まりしと雖、黑烟を各天窓より放出し、加ふるに屋根の埋込栓は引火燃燒を始めたれば、附近住民の驚愕一方ならず、逃走避難せんとして混亂したり、されど耐火構造物の堅固なる室內は猛火充滿せりと雖周壁並びに屋根には何等の(A-5號室を除く)損害なければ消防隊の活動に大なる便宜を與へたり。

第四章　防火方法と研究資料

失火當時に於堂島倉庫は、從業中の事とて、各室出入口扉は殆んど、開放されありたれば、A通路に於ては、各室忽ち猛火の襲來を蒙り、庫內の貨物は盛んに燃燒を始めたり。

B通路に在りたる一事務員は、早く、同通路の各室外扉を閉

鎖するに努力したれば、幸に無事なるを得たり、一旦東走したる仲仕は各危急を知り、C、B、A等の各通路に入りて閉扉に努力せしは各適機の所置なりき。

されど、爆發と猛火の奔騰に驚きたる各員は、一種の恐怖に襲はれて混亂せしが、消防隊の來援するに及びて、始めて消火栓を抜き、B通路内に保管せし「ホーズ」を利用して注水を開始せり。

按ずるに失火初期に於ける猛火と爆發は、頗る異常なる火災にして、土木出張所の如きは半時間ならずして燒失せられたる位なれども「セルロ井ド」瓦斯体並びに同貨物の悉く燒却せられたる後は、黒烟漲り、異臭鼻を襲ひたれども普通の火災にして最早危險的性質なかりし也、然るに來援せし消防隊は却つて何事をも、知らざりければ蒸氣唧筒一臺はB門前、他の一臺は旭陶器會社前に据へられ盛んに活動し、A通路各出入口に侵入して注水し、來援の各人は夫々屋根に登りて天窓より或は急穿せし破孔より「ホーズ」を挿入したれども、急には鎭火せず、

然るに安全なりしと判斷しつゝありしB-1、B-2、兩號室は、界壁あるに係らず、類燒しつゝあるを發見し、大に恐慌を來たしA-5、A-6、兩室の消火を急速に努力せんと欲し、消防隊は直に通路内に在りたる四時鐵管を利用して、遽に壁に大孔を穿ちて、注水することを得、火勢漸く衰へ、B-1、B-2、兩室も、出入口より注水して、目的を達し、夕刻に及んで、全く類燒の憂なきを確め、午後八時消防隊は引上ぐるに至れり。

かくて當夜は消火栓を利用して、社員人夫を以て警戒しつゝ夜を徹したるも、餘燼は三日後に於て尙は貨物の間隙に焔を擧けつゝありき。

斯くの如くして各號室貨物の狀況及び損害は大様左の如くなれり。

A-1	號室	モスリン、石鹼、大半燒失
A-2	號室	モスリン、出入口扉半開あり故損害小
A-3	號室	モスリン、洋紙、大半燒失
A-4	號室	洋紙、出入口扉半開なりし故損害小
A-5	號室	晒綿、通州綿、洋紙、全燒
A-6		セルロ井ド、全燒
B-1	號室	鐵材、和紙、綿布、紡績系、一部燒失
B-2	號室	洋紙、紡績系、蔴繩、一部燒失
A	通路内洋紙、半燒	

大阪土木課出張所建物、全燒

之を要するにA-2號及びA-4號室は猛火の襲來の際、突入し得ざる狀態なりし故損害頗る小なりしものにして、唯B-1、B-2號室への類燒は蹟も不可思議といふべし。

第五章　罹災後の慘狀と調査

出火の原因とB-1、B-2兩室への類燒に關する疑團とは災後の調査によりて全く氷解することを得たり。

今各室災後の情況を擧くれば

A-1	號室	荷摺燒失
A-2	號室	室内黒燻す、（屋根床破孔三ヶ所、壁部破孔一ヶ所）
		其他異狀なし

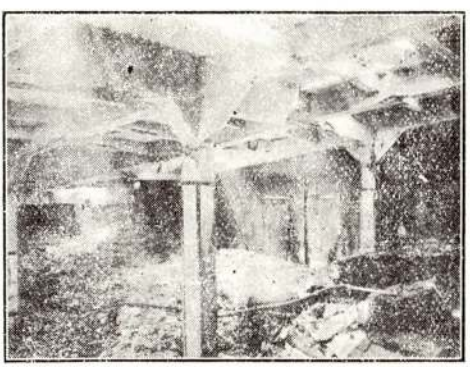
A-3	室	室内黒燻す、 荷物大半焼失 屋根床破孔二ヶ所
A-4	室	室内黒燻す、 其他異狀なし
A-5	室	壁部破乱三ヶ所 荷物焼失 屋根構造大破
A-6	室	室内黒燻す、 荷物半焼 壁部破孔二ヶ所
B-1	室	室内黒燻す、 荷物一部焼失 屋根床一部破損
B-2	室	室内黒燻す、 荷物一部焼失 屋根床一部破損

A 通路南部上家 鐵小屋屈曲烈し 生子板剝脫

A 通路北部上家 鐵小屋西部屈曲せるものあり

以上を通覽するに損害最も烈しかるべきA-6號室は意外にも、割合に輕微にして貨物並びに破箱の全焼せると消防隊の穿ちたる大破孔を壁に有せるのみ、而してA-5號室に在りては屋根を構造せる各大小梁、並びに屋根床は全く大破の慘狀を呈し壁部のA-2號室との界壁が其中央を挫折せられたる如き、形跡あると北部一帶の側壁は大壓を受けて傾斜せるあり、其出入口外扉はA通路に轉落倒伏しあり、之を要するに、大爆發は實にA-5號室に於て惹起せしものなる事明瞭となれり。

蓋しA-5室外扉は當日半開(二尺餘)の狀態に在りたるが爲めにA-6號室より放されたる瓦斯体は大半風位の關係より、A-5號に侵入せるものと解譯し得べく、加ふるに 内には晒綿二七〇個、通州綿三〇三個を藏し、天窓の射入によりて、上昇せる溫度を保留するに最も有力なりしのみならず、晒綿は硫酸の小量を含有しりあたる(災後晒綿殘留品の定量分析を、大阪工業試驗所に於て施行せしに供試体百分中 〇、〇二三の無水硫酸を拆出したり)等は爆發するに最も善き狀態に在りたるものと推斷し得べし。



A-5號室内の慘狀

然らばB-1、B-2號兩室の類焼は如何、一見兩室への類焼は界壁を侵透したる瓦斯体に點火せられしにあらざりしがを疑ひしが計りざりき兩號室屋根床片はA-5號室爆發の際一方より剝脫し、且つ瞬時「セルロ井ト」の火焰の侵入するあり、而して自個の重量にて舊狀に復し離脫する事なかりし故、一見異狀なき樣なりしが「セルロ井ド」の黒煙煤は界壁の上端、棟桁と屋根床との間をも埋め、全く瞬間の襲來を受けたるものにして且つ兩號其界壁に近く燃焼に都合よき藁及藁包多く忽ち引火せしもの、如し、されども幸にして出入口は早く閉鎖しありたれば、通風換氣の不充分なりしため除々に燻焼されたるが如し

而して界壁(厚五寸)を侵透し或は界壁によりて火勢を傳導せるやの疑問は其荷摺木の半焼狀態にて美事に說明せられぬ、蓋

し荷擔木は上部より燒下し來りて、隣室の火熱最も猛烈なりしと思はるゝ部分は、何等の異狀を認めざることは其証據なりしなり。

而して更に失火當日の目擊者をして、大なる不審を懷かしめたるは、屋根全体に亘りて、黒烟を擧げ耐火構造物の價値を疑はしめたる事實なり、それは屋根被覆生子鐵板取付用として使用せられたる、埋込棰の燃燒是なり、一見室内の猛火が屋根床を熱して點火せしめたるものゝ如かりしが、災後の調査によれば、埋込棰は其上部を燃燒して、「コンクリート」中に埋沒せる部分は何等熱の傳導より來りし引火を發見する能はざりき、蓋しA-5號室屋根は根本的に破壞せられたるなれば、破孔よりして燃燒せる形跡ありしも他室屋根は爆發の際通路に沿ひたる軒先を煽られ「セルロイド」焰火の襲入を來せるものと判斷する事を得たり、或は寧ろ焰火は波鐵板を赤熱し、却つて上方より内部の埋根太に傳熱せられたる傾きありき。

更らに吾人をして滿足を覺ゆしめたるは、出入口扉の有効なりし實驗なり、僅々總厚二寸余の「コンクリート」扉が猛火の通過せる際に於て、見事に其火焰を射斷し得たるものはA-5室の眞向にありたる、

A-2室の南部出入口外扉也、これは平時より閉鎖しありたるもの全く猛火に抵抗したるのみならず、内部の情態は貨物が僅に尺余の位置に積堆せられありたるに係らず、異狀を認めず、若し同室北部の扉の全く閉鎖しありたらんかA-2室は全く災害を逃れたるべしA-4號室に於ても同樣の推察をなし得らるゝ也、

界壁の有効なりし事實は前述せる如しと雖、A-1及A-3室の貨物は殆んど全滅せる程の燃燒をなしたるに係はらず、隣室のA-2及びA-4室に何等の損害を與へざりしを見れば思半ばに過ぐるものあり、

側壁の有効なりし事實は消防隊が何等の危險を感ずる事なくA通路に侵入して、注水せるのみならず、余亦當日A通路を通行して庫内の情況を觀察し得たるのみならず、猛火焰々たるA-5、A-3、A-1等の側壁に手を觸れて、何等の熱度を感じ得ざりしを明瞭に記憶す、況んや消防隊が安心して屋上に活動し、平然として注水せる如きは、耐火構造物の有効なる實証に外ならず

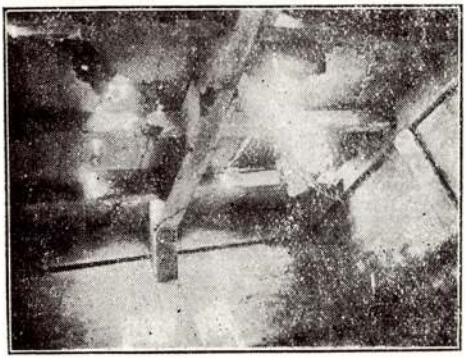
第六章　A-5室の修繕工事

A-5號室が、計らずも爆破の大損害を受けたるは、實に意外とするの事實なり、而して同室が此回の災害を受けたる各室の中央に位せしは、誠に不幸にして幸なりし如し、中央に在りたるが爲めに、周圍七室を擧げて損害を蒙らしめたると同時に、爆發の際附近民家並びに人畜に大損害を與へざりしは不幸中の幸なりしなり、

A-5室の慘狀は如何に其爆發力の甚大なりしかを想像せしめ得べし、大小各梁は下方よりの壓力に耐へずして悉く中央にて挫折し屋根床の如きは、夫々「エキスパンデット、メタル」の大さ（長八尺巾四尺）に離脫し、一度上方に擧げられて、落下せしものゝ如し蓋し屋根床が隣室との隔壁の上部に於て連絡しありたるは損害を隣室に與へたる原因にして、界壁は屋上に於ても両

室を隔離するの必要を認め得たり。

爆破の偉力は屋根全体を約三尺扛げたるもの如く孤立柱は其基部に於て離脱し、鐵筋は共に拔離して更に舊穴に入りたるものあり、入ることを得ずして屈曲せるものあり、蓋し柱鐵筋は下端直狀なりし故脫離せるなり、若し下端にて屈折しありしなば伸斷せられたるなるべし、而して一反上昇したる屋根が更に落下せし際に於ける運動量は重大なりしものありしに係らず、孤立柱はよく其衝動に耐へて支へ得たるを見る



A-5號室一隅の天井

大小梁は悉く中央にて折れたるに係らず、鐵筋は折斷せずして、稍舊狀を保ちて落下せざりしは構造上の性質を明瞭に示したるものといふべし

壁部の中央に於て外方に龜裂を生ぜるは、東側の界壁にして柱も同時に龜烈せしも、北側に在りては全體の壓迫を受けて其兩端の連絡部にて龜裂を生ぜし爲め、全部外方に傾斜せるを見る、

斯くの如き慘狀を呈せしに係らず、これが修理は比較的簡單に行ひ得たり、則ち屋根全部の「コンクリート」を剝落せしめ鐵筋、鐵鋼を收めて之れが屈曲を訂正し更らに鐵筋を追加補強し、孤立柱は悉く新たに打直して、同じ基礎上に立て龜裂せる柱は補強を加へて以て屋根假枠を組立て、全く修理工事を完成するを得たり。

第七章　結　論

堂島倉庫の經驗せる火災は以上の如く、不時の災害にして、しかも未曾有の椿事の一たりしなり、殊に幸なりしは芦分倉庫の如き大爆破ならざりし爲め附近住民に一時の恐慌狼狽を與へたる位に留まりし事是なり、乍然倉庫會社にとりては異常の損害にして、保險會社亦不時の損失を招きたるのみならず、貨物依賴者にとりても意外の失費を要したるや、勿論なり

されど斯くの如き災害が、耐火構造物中より惹起し、且つは風下に在りたる他の倉庫が又悉く耐火構造物なりしは其損害をして、此一部に留まらしめたる原因ならずんばあらず。されば倉庫當時者に在りても耐火構造物の有效なりしを認め往年北區大火當時の窮狀を追懷して大に滿足する處ありたると同時に、附近住民及び失火當時驅け付けたる市民は、一時的驚愕に襲はれたる位にして安然として見物し得たるは更に擴大するの憂なかりしを以てなり、

元より「セルロイド」の自然分解に歸因する火災を芦分倉庫の如き大爆發とは或は比較すべくもあらざらんかなれどもそは寧ろ附近損害の大小を比較するに過ぎざるものあり。若し安田倉

庫の爆發にして更らに大なるものありたらんか。危險物取締規則は大正三年の冬に於て施行せられしやも知れず、されど結果をして斯くの如き程度の火災に留めしめだるは實に耐火構造物としての鐵筋「コンクリート」構造物の價値大なりしを証すべし、若し其構造法にして、準耐火構造物か、若しくは可燃性構造物なりしならんには、附近損害は蓋し非常のものたりしなるべし。

之れを消防の側より見るも、注水消火の方法に於て多少の困難を見たるにせよ、家屋の倒壞するの憂なく、隣家へ類燒の恐れなき事は實に消防隊をして安心して消防に盡力せしめ得る原因の一なる也、

されば斯くの如き耐火構造物が市内の要所〻所に所在する事は、市の防火區域を縮少せしむるを得べき重要なる實驗の一なるべし、

而して更らに吾人をして此の高價なる實驗の結果より得たる眞果は其學術的數多の參考資料なり、其耐火力に於て其構造法に於て、其耐震的威力に於て、特別なる事實を提供しつゝあるのみならず、種々の材料に於て鐵筋「コンクリート」構造の將來に大なる寄與を加へ得べきことを信じて疑はざる也、余は茲に其大樣を略記したれども局部的學術的講究は之を避け此災害の事實と眞想とを擧げて世上識者の參考に資せんと欲するに過ざる也、

因に本稿に要する各種材料の調査に際して會員德永庸氏の勞を多とせざるを得ず、茲に同氏の好意を謝す。

□ 大阪大火の一原因 □

大阪北區大火の原因が、給水の缺乏と、風力の强烈との爲なるは、明かなれども、建築防火上より見るときは尙幾多の原因あり

第一、大丈夫と思ひし耐火造りの家屋にても、窓の東に面したるものは、悉く燒け落ちたり、安田倉庫、控訴院の如きは其實例である、大阪倉庫の如きは、窓が東北に面し居らざりしも、床下に空氣抜ありしため、火は此より入りたる如き形跡あり、同じ窓にても隙間を目塗りし、更に表面を目塗りしたるものは、燒失を免れたり、是れ窓の設備の不完全あるを証すものにあらずや、

第二、堀川に於ける防火線家屋破壞の如きも、大家屋を破壞すれば後にて多額の賠償をなさゞるべからずとて小家屋より破壞したる結果は、火は却つて大家屋の二階に移りて燃て擴がれり、又家屋を破壞すれば火災保險金を得る能はずとて、躊躇したる人もありたる由なれば、此等は保險知識なき結果にして、商法には斯かる場合あるを豫想して破壞家屋も亦保險料を支拂ふべきことを規定しあり、此等は眼前の算盤頭より割り出し、肝腎の鎭火機を過りたるものといふべし

（明治四十二年八月東京新聞紙所載）



會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第三號は大正六年十二月下旬刊行し、理事會の決議に基き、建築學會正員諸氏、各府縣知名有力者、各種學會協會及び各新聞社並ひに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、第四十議會開期中に付き、衆議院各政黨本部並ひに貴族院各派本部へ宛本號寄贈の必要を認め理事會の決議に基き、各數十部を發送したり。

新入會員

一、左の諸氏は第九回例會の決議により入會せられたり。

小野木孝治　弓削鹿二郎
岡　大路
一、左の諸氏は第九回例會の決議により承諾を得、入會せられたり
荒川義夫　宮飼克二
一、左の諸氏は昨年十二月中本會特別賛助員として入會せられたり
安藤組　代表者　伊藤卯之助
大阪支店
松村組　代表者　松村雄吉
錢高組　代表者　錢高善造
大倉組　代表者　大原忠隆
大阪支店
一、左の諸氏は本年一月中本會特別賛助員として、入會せられたり
松尾和助　瀧山源三郎
井上國助　石井定七
駒井喜兵衛　中川辰藏
辰巳吉之助　須賀豐治郎
濱恒次二郎　東松孝時
熊取谷熊次郎
一、左の諸氏は、今回本會の普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり
熊谷熊市　鴻上佐藏
天津英次　井上謙吉
高畑護　竹内雄次
楠田實　大久保榮藏
石川寛三　稻富秋吉
佐野俊三　井上與左衛門
小林久之助　泉谷千秋
小川久太郎　樋口弓太郎
久米平藏　田中俊助

島田良馨　安藤伊右衛門
古川太吉　伊東敏夫
池上榮次郎　片岡長參
村上寅藏　鈴木秀次郎
木越誠二郎　城塚元義
齊藤又吉　藤野師樓
西田卯一　大下守造
藤井令三　松浦基二
清水集人　大塚錦三
伊東宗太郎　三宅重二郎
足立彌一郎　島照平
小林巳之造　青木齊次郎
伊達健二　中城恒夫
高橋直喜　中原光穗
南館次直　多田七五三一
計四十八名

會員　移動　改性

須藤眞金君は　十二月下旬、東京に轉任せられたり
友野富造君は　此度中島と改姓せられたり

會員　死亡

會員　伊達陶二郎君は　本年一月廿九日永眠せられたる旨、通知ありたるを以て、直ちに吊詞を送りたり

「故會員、伊達陶二郎君の英靈を弔ひ謹んで哀悼の意を表す」

大正七年一月三十日
關西建築協會理事長　片岡安

寄贈雜誌及新聞紙

建築世界一月號　（建築世界社）
住宅　新年號　（アメリカヤ）
營林局事業一班　（臺灣總督府營林局）
煖房冷藏協會誌第一號　（煖房冷藏協會）
通俗衛生一月號　（大阪府衛生局）
材木新聞　（材木新聞社）
北國新聞　（北國新聞社）
建築雜誌一月號　（建築學會）

會計

大正六年度收支決算書

收入之部

一會費	五二三、五〇〇	
一寄附金	一四九、五三〇	
合計	六七三、〇三〇	

支出之部

一圖書費	八一、五〇〇	
一器品費	二五、五五〇	
一消耗品費	六、三〇〇	
一筆墨文具紙	七、二二五	
一諸印刷費	一四、五〇〇	
一郵便費	六三、六九〇	
一振替貯金手數料	一四、四二〇	
一手當	二五、〇〇〇	
一例會費	一四〇、二五〇	
一理事會費	三一、九二〇	
一大會補助費	一一一、九〇〇	
一臨時會補助費	七二、一〇〇	
一雜費	二、〇一〇	
合計	五九六、三六五	
差引殘高	七六、六六五	

雜誌之部

收入之部

一雜誌賣上金	三、八二〇
一廣告料	五九二、五四〇
合計	五九六、三六〇

支出之部

一雜誌費	九三〇、二五五
一報酬	一二五、〇〇〇
一雜費	二一、四〇〇
合計	一〇七六、六五五
差引不足	四八〇、二九五

會合

特別理事會

日時　大正六年十二月十九日
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、宗、波江、
記事　終身賛助員として左の諸氏を招待し意見の交換をなし、且進んで入會申込を申出でられたり。
大倉組　代表者　大原　忠隆(欠席)
安藤組　代表者　伊藤卯之助(次席)
錢高組　代表者　錢高　善造(代理)
松村組　代表者　松村　雄吉(代理)

特別理事會

日時　大正七年一月十五日午後五時
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、宗、
記事
一、第四十議會開會中都市建築法令制定に關する建議案につき建築學會並ひに日本建築大會と協議するの件につき意見を交換せり。
一、材料商及其他專門的建築請負業者諸氏の第一回招待をなし、本協會に相當なる援助あらんことを懇請せり

出席者
松尾　和助　瀧山源三郎　井上國助
石井　定七　駒井喜兵衛　中川辰藏
辰巳吉之助　須賀豐次郎　濱恒次郎
東松　孝時　熊取谷熊次郎

一、出席者諸氏は、終身賛助員として直ちに加盟申込をなし且つ相當の寄附をなさん事を申出でられたり。

第九會例會

日時　大正七年一月十七日
會場　中央電氣倶樂部
出席
吉本、谷、葛野、田村、木村、瀬戸、渡部、松本、中村、大林、伊藤、光安、井上、今林、石田、永瀬、河合(清)、中村、須川、小笠原、内藤(太)、山本(鑑)、三木、宮本、小林、浦、藤本、辰野、井尻、置塩、片岡、中西、山本倉、森山。計三十四名

記事
一、片岡理事長座長席に就き會務の報告をなし、大正六年度會計收支決算の報告をなせり。
一、新入普通賛助員及終身賛助員氏名の報告並ひに新會員の詮衡をなせり
左の三氏は普通賛助員として申込ありたれども特に地方會員として入會承諾することゝせり
小野木孝治　　弓削鹿二郎
岡　大路
一、本日討論會主題「建築材料價格調査方法に就いて」に關し石田氏議長となり、第七部委員會の意見を報告し、且調節の字義につき疑義あり所以を說明し其到底行はれざる旨を述べ、更に調査方法に就いて委員增加の請求ありたるにつき、討議に附したれども、結局否決となれり、尚ほ調査項目を木材、石材、瓦材、セメント、煉瓦の五種とするの件は賛成可決せり。
一、當日例會の決議により來月例會を十八日に決定せり。
一、都市建築法令制定に關し、調査會設置に關する建議案を建築學會並ひに日本建築士會に諮問の件に就き、意見を交換せしに滿場異議なく、且つ理事會に一任することに決定せり
午後十時閉會

都市計畫（二）

前紐育市技師
亞米利加土木學會々員
チルソン、リユイス述

一九一五年桑港の萬國工學大會に於けるリユイス氏の講演



都市計畫

前紐育市技師
亞米利加土木學會會員
チルソン、リユイス述

回市街系統回

古來有名なる都市にして、一完全組織体として計畫されたるものは甚だ少ない。即ち、其行政區、商業中心區、製造工業區域及住宅部面の區劃を明かにし、交通運輸の系統と、其終點の設備を將來永遠に適合せしむる樣攻究したものは稀である。唯北米合衆國のワシントン市は、最も良好なる計畫の下に實施されたる一例にして、今より百年以上も以前のランファン氏の設計に基き、今だに其の趣意を失はざらんとして努力して居る近來、南大陸の各都市に對して幾多の計畫が提供されたのであるが、それ等は、一つの村さへもなき地勢の良き處へ新規に築き上げんとする方法にして、存外立派な計畫が實施されて居る又、北米合衆國鋼鐵同盟會が建設したるインヂアナ州ガーリー市の如き工業都市や、近來英國にて盛んに持て囃さるゝ田園都市の如きは、矢張り何等の傳來なき新規な地所を選んで、そこに築き上げる方法である。しかし、都市計畫者が常に出會する場合は、殆んど凡て古來傳說に捉はれたる舊都市の改良であつて、歷史的の遺跡や、古木喬樹を保護せんとすれば、市の肝要な交通系統を犧牲にせざるべからざること多く、實際上非常に困難を感ずるのである。ニユー、イングランド村莊の如き、巾廣き村道が放射するものを廓大せんことや、バツファロー市及デトロイト市の如き都市計畫の端緒を有するものは大都市化することは、比較的便利なものと謂はねばならぬ。又、歐大陸に於ける舊城廓を放棄して其都市の計畫を立つる方法は、カールス、ルーヘ市や、マンハイム市の如く、又はエツンバラ市やヌーレンベルヒ市の如きもので、前者は、舊城廓の中心を王居として、周圍に市街を造り、後者は、城壁を楯として、其下に市街を形成したのである。一般に舊都市は、何等の都市計畫を持たずして、徐々に膨脹して來た。稍統一されたる計畫は比較的晩近のもので舊式の部分と、新規膨脹の分とに明かなる不統一を示して居るのは致方がない。而して、斯くの如き都市は四方に膨脹することもあれば、半月形にも、又、一方へ直線にも發展するのである。倫敦、巴里、伯林、及ブラッセルは前者に屬し、アントワープは半圓形にして、紐育市は後者に屬する

紐育市の現在マンハッタン區と稱へらるゝ商業殷盛の地域が紐育市擴張の際に市に編入されたる理由は、一八一一年に其調査委員の報告に基くものである。右調査委員は、一八〇七年に創設され、其當時紐育の人口は、漸く八萬五千六百人にして、市の區域は、北は漸くハウストン街まで延び、第八街とグリニッチ街が、西方の塲末であつた。委員會にては、將來を豫想しマンハッタン島全部を市に編入して、二十五年以內に人口四十萬に達するも差支なき積であつたが、事實は此に倍加して、一八六〇年には、人口已に八十萬を超ゆることゝなつた。其當時市區の設計に就きて、直線式を採用するか、將た惰圓式、圓帶式又は放射式になすかに就て議論があつたのは事實である。しかるに、衆論は、直角と直線は建設に最も經濟的にして、使用上最も便利なりと言ふに歸着した。

斯くの如く、直角式格子形に市街系統を確定し、市の交通は主として東西の川より川に亘るものと假定し、斯系統に該る市街は、其幅員を六十呎とし、其間隔を二百呎とした。殊に、主要なる交通路として、十街目には其幅員を百呎に擴げた。又、其直角に亘る南北縱貫線としては、數條の幅員百呎間隔六百五十呎乃至九百二十呎の廣小路を造つた。しかるに、實際今日になりて見れば、ホドソン河と、東河とを連絡する交通を主としたる豫想は大誤算にて、紐育市は、南北に益々發展して、已にマンハッタン島を超へて、ロングアイランドへ延長し、又、其の當時、市の東の境界と考へられたる東河を渡つて、四大橋と其橋下のトンネルによる八鐵道線路は、其對岸のブルークリンへの連絡を必要とするに至つた。更に、今後發展の爲めに、四箇の河底隧道は工事中にして、尙二箇の隧道は設計中である。又、西の方ホドソン河の六鐵道線路は、ニュージャーシーに連絡を取つて居る。斯くの如き發展に連れて、南北縱貫の交通は四條の高架鐵道と、其下を走る軌道とにては到底不足を免かれぬのである。殊に、對角線交通路の欠乏は、地上地下共に交通の急速を妨げて居る。上述の如く、紐育の市區設計は、一も賞讃の價値なき平凡の作である。之に比すれば、ワシントン市は紐育の市區設計委員が市區の計畫に着手せし數年前にランファン氏案を採用したのは、余程進歩した考と謂はねばならぬ。しかし、紐育市の委員は、右案を以て余りに放漫式なりとし國都には適せんも、紐育の如き商業都市には採用すべきものにあらずと斷定せるものならん。丁度、それよりも尙一世紀半以前に倫敦大火(一六六六年)の後クリストファーレン卿と、ジョン、エベリン卿が、同時に燒跡に放射式整齊の立派なる市區改正案を實施せんことを提案せしも、當時の官權は之を採用せんとせざりし不名譽と其の軌を一にするは、眞に殘念なことである。

巴里市の改造はオスマン男の計畫に據るものにして、各處に中心點を置き、放射線に廣小路を以て擴がるゝと同時に、各中心は、十分著しき直通の大通りを以て連絡さるゝ仕組である故に、市の全体は、圓周の形を以て整齊を保つことが出來る。其他、歐大陸の都市は、大体に於て巴里式と似寄つて居る。ケルンや、モスコーや、又、維那にては、殊に巴里に似た點を發見する。而して斯の市街系統は、今日では一般に賞讃さるゝに

至つたのであるが、輪街と放射線式街路とを有する都市は、もともと、中古時代の城砦の中に護衛されたる舊都を骨子としたものが、漸次進化したものである。故に、舊街は一般に狹き砦内に押し込められ、密集の度甚しく、不衛生的なもので、唯、目的は、外敵に對する防禦を主としたに過ぎないから、市外に通ずる道路と雖も、都市交通の大動脈たる價値のないものであつた。しかるに、近代に至り、平和的の都市となす爲めに、城砦を毀ち壕濠を埋め、此處に快濶なる輪街を設けたと言ふ順序である。しかるに、取毀ちて以て輪街となすべき舊城壁を有だない都市にありては、新たに輪街又は大廣小路　建設する場合に、其敷地に該る建物の取毀ちや敷地の買收等　實に容易ならざる工費を要するのである。現に、市俄古は、數百萬圓を投して大規模の大廣小路を實施せんとしつゝあり。リバプール市は一種の美觀よりも交通の實用を主眼としたるプールバールの實施中である。又、ブラッセル市は、市の最も殷盛なる部分を貫通したるプールバールを建設中にして、其東の部分は已に出來し、歐洲中稀に見る華麗な市街となつた。

如何なる都市と雖も、現今未だ開けざる廣大の空地を存し何等の計畫の立ち居らざるものあるは事實にして、それ等の部分は、早晩現在の都市の有樣と相類似の市街となるべき運命を持つて居るのである。而して、此未開の部分に對する計畫は、舊市街と余り關係なき系統を採用することもあるが、又無意味に不都合なる舊系統其の儘を踏襲することが多い。

若し、都市の計畫を其建設の初めに之を樹つるを得ざりし場合、後に之を完全になすを要する時は、大凡そ一定の原則によりて之を實施せねばならぬ。左のレーモンド、アンウヰン氏が一九一〇年の倫敦都市計畫會議席上に於て爲したる講演の一節は明らかに斯原則を示して居る。

「都市計畫者は、先づ第一着に各空地の目的を定め、大体に發展の骨子を決し、更に、幹線道路と副道の系統を造り、然る後に、中心地を見出さねばならぬ。又、之に續いて、第二位たる中心地の幾何かを定め、幹線道路を以て之を連續せしめ以て計畫の骨子を定むべきである。而して、各骨組との間に更に小道路や、車道を造りて、建築物の接觸を便利にせねばならぬ……。都市計畫は、紙上に畫かれたる機械的の系圖ではない、故に、必ず計畫に就ての順序と確實とを期さねばならぬ」

都市が計畫さるゝ時には、たとへ全市に亘りて系統を考ふる場合でも、亦殷盛なる現市街に連續したる、小部分に關した場合でも、先づ第一に、現在の道路系圖と、其幅員や建物の現狀を十分に圖解せねばならぬ。此等の道路は、之を兩種に大別することが出來る。一は舊街路にして、市又は町村の連絡線である。場合によれば、計畫せんとする敷地の中を橫斷することもある。他は、即ち個人又は市の所有地の中に、將來發展の爲めに配置されたる道路又は市街である。故に、其道路に沿ふて建物の已に出來た部分もある。前者の如き道路は、從來の成立上欠點の多きは已むを得ざる順序にして、其の曲線を直し、勾配を緩にし、又は幅員を或る程度まで擴張せば、以て將來の都市

計畫の幹線となすべきものである。而して、斯幹線を確定せば之に關連して副道の必要があり、又、之を横斷せる道路や、下水路の開鑿等種々の道路網の設計を樹て、全体の骨組を決定し得るのである。

如何なる人と雖も、將來其都市の發展の詳細を前知し得ることは出來ない、故に、都市計畫の目的は、なるべく將來發展に無理の少き樣に系統を樹つるより外に方法がない。前述の如き道路幹線は、恐らく將來交通の脈路となるべきものと見ればならぬ。故に斯の方法により、其土地を幾多の三角四角又は多角形に邊と邊と相接して分割し、一邊の長さを半哩內外とす。而して、斯の區劃を道路との交通にも便ならしめねばならぬ。斯の幹線道路及二等道路の幅員は幾何にすべきやは、余程六ヶ敷問題であるが、倫敦の交通委員會が數年來の研究の結果發表したる處によれば、

幹線道路廣小路……一四〇呎、壹等道路……百呎、二等道路……八十呎、三等道路……六十呎、四等道路……四十呎——六十呎

斯の幅員は多少寬容に過ぎ、工費を要する事餘りに大なるの嫌あれども、倫敦の交通委員が、現在倫敦市の交通上非常に困難を嘗めつゝあるに鑑みて、深く都市の將來を慮り發表したるものならん。

次に論すべきは、住宅に通ずる小路にして、之等は直接に幹線に又は貳等道路に通ずると雖も、其の直線式なると否と、又勾配の有無如何などは、餘り大なる問題ではない。むしろ、光線や通風等の健康を維持する方の考慮を先にせねばならぬ。而して住宅專門の街路は、必ずしも連續したる直線式のものを要しないので、却て、一區域內特殊の配置を有したる住宅區は、餘程趣味多きものと考へらる。若し、斯くの如き區域が、其時々に別人によりて計畫さるゝ場合には、恒に其趣味が實現さるゝ譯である。

記者は嘗て言へり「一都市の發展は、決して完備したる新區域が之に添加さるゝに非ず、先づ、其新區域の骨組が出來、次に其骨組の各所に、地形に支配されたる道路網が發達し、徐々に殷盛を增すのである。而して、其發展の經路は、抵抗の最も少き方面に向つて走るものなるが故に、行政上斯の發展の順序を適宜支配し行けば、恐らく便利なる都市の一區域となるであらふ」と。

都市計畫に際し、幹線及副道系統の未だ確定せざる以前、已に發達したる一道路系統が其地域に中介すれば、若し其の衞生上の點にまで注意をなしたるものとすれば、其系統は、之を本計畫の中に合併し得るものである。然し、其場合には、先づ系統の各戶土地所有者は十分の賠償を得て、新所有者に之を讓り渡す順序となるが故に、前者は、都市計畫に對して妨碍者であるから、何等の損害を蒙らぬ譯である。

直通の關係は、幹線道路や副道に於て恒に緊要なる要求なれども、其道路自身一直線なることは、必ずしも必要の條件ではない。時には、直線式は趣味を欠ぐの嫌あり。又、圓周式や弧線式も、整齊に配置されなければならぬ要はない。現に、巴里

の大廣小路（ブールメアール）は、色々長さの異れる弦が色々の角度に連れるにも拘らず、愉快なる結果を示して居る。一体地圖上の整齊は、實際上の整齊と必ずしも一致せざるは、平面圖に於ける小變向は直ちに發見さるゝも、實地に於ては之を見分ける事が出來ないので証明し得るのである。又、乘馬或は散策の際に、婉曲なる圓周を成す廣小路を通過するも、其半徑の幾何なるやは感得出來ないが、地圖ならば一見して其曲率を知り得る樣なものである。若し、斯くの如き廣小路が、短かき距離毎に多少の角度を以て連なる場合には、其交通上の利益には少しも害を與へずして、其方向の異る部分に該る美しき建物を殊に著しく現出せしむるの利益がある。廣小路に於てさへ、そうとすれば、尚より以上狹き街路にては、直樣式の必要は更に乏しい譯で、直通は尚更必要を認めない、獨逸の諸都市にては、上述の曲線及小整齊を特更に使用して居る。其の著しき例として、エッセン市を擧ぐれば、全市にては、六百五十呎乃至千呎より見界を許さぬ程曲線系を採用して居る。袋小路は、舊都市に屢々見らるゝ處で、存外奥床かしきものとも謂へるが、近代の都市計畫としては、餘程考へものである。若し、袋小路が衝き當りに十分に回轉の空地を有するならば、住宅などには閑靜で心地よきものである。しかし、交通系統から見ても、衛生上、防火上の考から見ても、決して採用すべきものでない。一般に道路にて分劃された比較的大面積の一區域にあつては、其の區域の中央に廣場を造り、數箇の通路を以て道路系へ結び付けば、恐らく交通衛生上等の反對なくして、却て袋小路の趣味を十分に發揮し得らるゝものとも謂ふことが出來る。

◻ 公園及娯樂機關 ◻

古來都市には、大集會又は遊樂の爲めに使用する廣場の設備なかりしものは少しと雖も、公園及遊園地の組織的設備は、近代の發達として數へらるゝのである。歐州の首都にては、公園は十七八世紀の頃先づ王室の遊園地として設けられ、彫刻、噴水器其他の粧飾的のものを以て飾られ、相當の意匠を凝したのが即ち園藝術の起源である。而して、今日之等の遊園地は、市民一般の公園として使用され、其中にありて、樓閣は、今は畫堂又は博物館となつて居る。然しながら、公衆遊樂の爲めに設けられたる市公園なるものは、むしろ、近代の要求にして、吾人現代都市の限りなき膨脹に伴ふ必須の結果と謂はねばならぬ而して、今日吾々が有する公園系統は、一般に偶然の發達にして、都市計畫から見て餘り賞讃出來難いものが多いのは、交通系統や街路系統が永遠を見越すことの困難なると同樣に、都市が要求する公園の規模系統に就ても、矢張り之を見越すことの困難であつたからである。人或は都市の面積に比して公園の大さを論じ、又は、人口一人に付公園地幾平方呎を要すと說くものあれども、實際に於ては、建て詰つた人口稠密の都市と、相當に空地や庭園に富む建物の多き市街とは、其必要の度に非常の差がある。即ち、前者には、餘程多量の面積を要し、後者には、其分量の小なるを以て至當とせねばならぬ。次の表に於て著名なる都市公園が其都市の規模に對する比例を示す。（一エーカーは約千二百二十四歩）

市名	人口	公園面積（エーカー）	面積（全面積の百分比）	市一エーカーに付人口	公園一エーカーに付き人口
倫敦（メトロポリタンヂストリクト）	七、二五一、三五八	四四三、四四四	一五、九〇一	四	一六	四五六
同行政區	四、五二一、六八五	七四、八一六	六、六七五	九	六〇	六七
紐育	五、三三三、五三九	一九、七七二	七、七八	四	二八	六八九
巴里	二、八四七、三九	一九、二七九	五、〇一四	二六	一四八	五四
市俄古	二、三九三、三三五	二四、四八八	四、三八八	四	九九	五四
伯林	二、〇八二、一一	一五、六九六	一、〇四	七	一三	二、〇一四
豐府	一、六五七、八一〇	八二、九三三	五、一四三	六	二〇	三三
漢堡	一、〇〇六、七四八	三〇、五七七	八〇八	三	三五	一、二四八
バーミンガム	八四〇、二〇三	四三、六〇一	一、四一四	三	一九	五九八
リバプール	七六〇、〇〇〇	二一、二八二	一、八三	六	三六	五九三
セントルイ	七三四、六六七	三九、一〇〇	二、六五五	七	一九	二六六
ボストン	七三三、八〇三	二七、六二三	三、四五五	一三	二七	二〇七
ミユニツヒ	六三六、〇〇〇	三一、六三三	一、八六三	八	二七	三五六
ライプチツヒ	六二五、〇〇〇	一九、二七	五七〇	三	三三	一、〇七九
バルチモア	五七九、五九〇	一九、三九〇	二、四〇三	三	三〇	二四一
コローン	五四四、四〇〇	二九、〇〇一	七四五	三	一九	七三一
マルセーユ	五二八、〇〇〇	六、一六	二一〇	三	八七	二、五六二
里昂	五三三、七九六	一〇、〇四五	二五七	三	五三	二、〇三八
セツフイルド	四七六、九七一	二四、三四七	六八三	三	二〇	六九九
ダユッセルドルフ	四〇七、〇〇〇	二七、五六二	二、七八	一〇	一五	一四九
華盛頓	三五三、三七八	三八、四〇〇	五、二三	一四	九	六八
カンサス市	二八一、九二	三七、四四三	一、九五二	五	八	一四四
ローチエスタ	二四一、五一八	一七、三五二	一、八三六	一二	一四	一三三
平均（倫敦はメトロポリタン州を除き）			百分の六、三	三〇、五	四八三、八	

（人口の統計は亞米利加の分は一九一四年度歐洲の分は一九一〇年乃至一九一三年のものなり）

右の表によれば、巴里は、人口の稠密の度最も著しきに係はらず、市と連接したるブーローニユやバンサンヌの公園の面積は比較的廣大なる爲め、公園一エーカーに對して人口五五四人と成り、伯林は、之に次ぎ人口稠密なる都市なるが、公園の面積餘り大ならずして、其一エーカー當り人口は、獨乙中最高の數字を示し、マルセーユ及里昂の次に位す。之等に反して、北米合衆國華盛頓は、其市民は綽々として、餘裕ある面積を有し、一エーカーに付人口九人、公園一エーカーに對して人口僅かに六十八人と云ふ世界的レコードを示して居る。又、カンザス市は、其面積一エーカーに對し、人口僅かに八人にして、其公園や遊歩道の設備の完全なるは、近代都市の誇とする處である

前表に示せる、各都市の人口と公園の比例、及都市面積と公園の廣さの割合が如何にも區々たるは、やがて、都市が實際要用とする公園の大さを計算するに大に參考となるものと謂はねばならぬ。前の紐育公園課の園藝技師チヤーレスドーニング、レー氏が、一九一四年紐育州の市長會議の席上になしたる講演によれば。

人口十萬に對して必要なる公園の面積を左の如く規定せり。

天然林野	七〇〇	エーカー
一大野生公園	四〇〇	同
十小公園	二五〇	同
五十小遊園地	一〇〇	同
花園廣場等	五〇	同
合計	一、五〇〇	

彼の所說によれば、都市面積の一割二分五厘を公園とするを適當とす。故に、此人口十萬の都市の面積は一萬二千エーカーにして、一エーカーの人口は、八人と三分の一、又、公園一エーカーに對しては、六十六人三分の二となる計算である。斯くの如き餘裕のある所見は、實際華盛頓市に於ては殆んど相一致して、其成績を顯はして居り、ボストン市は、其都市面積との比に於て、斯學說に近きものである。又、デュッセルドルフ市に於ても、斯の比例には餘り遠ざかつては居らぬ。恒に論題に上るのは、未だ必要の迫らざるに先ち公園用地を買收し置くことの可否である。即ち、急切なるに際して最も適當なる場所を選定して、之を公園となす時は、其の地價の高きと建物取毀ち等實に莫大の費用を要する順序ではあるが、又、一方、必要なき時機に買入れ、久しく之を保存し置き、實際其必要の折には其位地か餘り適當ならざるを發見するが如きを想像すれば、必すしも前者が間違つた策とも言へない。又、實際に於ても、斯くの如き例を多く見出すのである。

一体、公園は、一時に之を立派に仕上げることを要しないのである。公園地は、之を三種類に大前し、其一を天然林野とす其處では、なるべく野趣を存じ、斧鉞を加へないことを原則とせればならぬ。其二を、修飾公園とす。其處では、巧妙なる植林法を用ひて、數芝や沼池と蒼林との配合を造らればならぬ。其三は、人工庭園とす。都市の公園としては、漸次に以上の三階級を經て、遂に人工庭園に達するのである。即ち、最初は、天然林野に僅少の歩道を造り、十分に遊園地の目的を達して居るものが、都市の膨脹と共に漸次に之を開拓し、遂には、全部人工を加へて多數の市民を收容せればならぬ順序となる。故に、斯くの如き發展の時機に達せば、野生林の公園を更に求めて、他日の準備を計るべきである。

從來、土地開拓者が、不用の地として顧みさりし嶮岨な谿崖地や、低濕の平地や、又は、沼津多き場所は、却て公園地として之を將來に保留し置くことを忘れてはならぬ。斯くの如き土地は、實用上價値なきものにして、其代價も安く、又、之を將來發展の時機まで保留するも大した出費を要しないからである

公園系統の計畫は、交通系統や、市街系統と同じく、緻密なる考案を要するは勿論であるが、市街系統の如き明了なる線路を確定することは出來ない。

しかし、市街系統と自から一定の系統の上に立たればならぬ其面積の大小や、形狀等は、直接の關係はないとしても、市街系統の設計の際に、將來公園となるべき地所に對しては相當の空地を考へ置くの要がある。又、公園と公園とを連絡する街路ば、一般に何々公園路と唱へられて、立派な市街を成して居る

が、之等は、宜しく公園の一部である如くに取扱ひ、交通上の取締等凡て公園の管轄に移したいものである。實際の經驗によれば、幅員百呎以上の街路は、商舖街路として不適當であるから、此公園の連絡街路の幅員を百二十呎以上百五十呎とせば、恐らく其目的を達するに便利ならん。

公園の敷地撰定には、特殊の智識と經驗を要するが故に、博識なる園藝技師と建築技師の意見に待つべきである。又、其撰定は、必要の迫るまで之を急るは決して賢明なる方法ではない公園敷地の撰定を注意することは、不適所の公園を其目的に適ふ如く計畫するよりも、更に重要にして利益ある手段である。公園は、其境界を精確になすの要はない。天然の境界又は地所其儘の形で十分である。他日其周圍に街路の必要が生したる時に、自から確定する。而して、其境界に面する建物が、學校とか、圖書館などの公館である場合、殊に適當である。しかし、其正面を離れた敷地は便利なれども餘り立派な位地ではないから、警察署とか消防舘に適當である。此外に、公園周圍には幾多の實地を生ずる道理である。之等は、可成り高價に賣却して公園建設費の幾分を償却し得ることとなる。

大都市に於ては、大低數箇の公園を有し、中には舊き時代に設けられたるもの市の目貫の場所に介在して居るが、大抵は外廓に存在するの例である。之等の公園は、市民の利用上餘り價値のあるものでない。却て、市内に散在する小遊園が十分に利用されて居るのみである。故に、之等の小遊園は、市の到る處散歩の間に到着し得る距離に配置することが必要である。リバプールの市技師ジョン、エー、ブローチー氏が言へる如く、公園の系統を計畫するには、市の中心より、其都市の發展に連れて漸次四方に放射線的に設くべきもので、廣小路の如きは、公園系統の一部分の如くに所々に廣場を造り置くべきものである。又、ウエルネル、ヘーゲーマン博士は言へり。

「斯くの如き公園と廣小路の放射線式系統は、其都市の清氣疏通の脈路なり」と。

◻ 公舘の位地 ◻

公舘なる名稱は、國民一般に關する事務を取扱ふ場所を謂ふべきであるが、都市計畫の際には、之を少しく廣く解釋して、圖書舘、博物舘の如く一般のものが出入する建物は固とより、官權の司配下に在る凡ての建物、假令ば、學校、慈善院、市場病院、警察署、浴場、消防屯所、其他上下水道の建物に至るまでを含むのみならず、教會堂や、娯樂用建物や、更に進んでは歐洲にては一般に官營である亞米利加にては民營なる鐵道停車場及其終點設備の如きもの等をも、斯の中に數へたいのである古代の都市にては、個人の住宅は簡明質素のものにて、獨り公舘を獨か上にも立派に飾つた。之れ、市の權力と富力とを以て其公舘の宏壯を競ひ、市民を威壓せんとしたが故である。又、教會堂は、市民の宗教心の熱心なる發露であるから、其建築には、富と努力を隨分と贅澤に費した。之れ必すしも宗教の熱心のみでないかも知れぬ。迷信もあれば、神罰を恐れた爲めでもあろう。而して、有力なる商社は、市廳舍、議事堂、又は、教

會堂の周圍に美しく建てられ、一群として輪奐の美を發揮した然るに、近來に至り、其等に對するより以上善美の配置と意匠の要求が起つて來た。北米合衆國にては、殊に其著しき傾向を見るのであるが、其主要なる原因の一つは、一八九三年の市俄古博覽會に於ける各主要館の配置が如何にも巧妙なりしことが一般に非常な刺撃を與へ、都市改善計畫の運動を急促ならしめたのである。

斯くの如き覺醒運動以前の建設にして、其位地の適當なる處に撰定されしものは、亞米利加にてはワシントン市の國會議事堂と、紐育市の市公會堂である。後者の建てられたる、十九世紀の最初の十年間にして、摩天閣の溪谷に介在する泉地たる、三角公園の中に設けられたのであるが、其後、無智なる市理事者は、其公園の一角點に郵便局を建て、更に公會堂の後に一法廷の官衙を建築したのみならず、其の意匠さへ寔に劣等のものであつた。幸にして之等の建物は、色々討議の末他へ移轉することと成り、今は、其市公會堂は舊の如き適當なる配置を誇るようになつた。其他には、州廳舍にして其位地の最も適當なるものは、セント、ポール市とハートフォルド市とである。一般に、歐洲大陸の都市にては之等の公館の位地や意匠に關しては英吉利や北米合衆國が遣り來つたよりは餘程深き注意を拂つて居るようである。故に、其建物は、北米合衆國のそれよりは不便で且つ下賤な感なきにあらず。公衆用としては、稍不都合であるか、其都市それぞれの歷史を尊重して、各部に微細な注意が拂はれて居る。フランクフォルト市の如きは、近來急速に發展したる都市でありながら、其古きローメル(舊廳舍)を取毀ちて一大新館を建設しようともせない。而して、此舊廳舍と調和を保ち得る擴築を、時代時代に應じて巧みに附け加へて居る。併し、建築は主もに近代の增築にして、其位地配置に於て十分攻究が積まれてあることを認めねばならぬ。之に反して、亞米利加式の碁盤格子式區劃は、斯くの如き增築等には非常に不便である。費府の大公會堂は、內庭二百呎角にして、縱四百八十六呎、橫四百七十呎、工費一千八百萬弗を要したのであるが、之に面する道路は、百十三呎と百呎の兩街にして、何れの方向からも斯の建物の一部分をしか見ることが出來ない。又、紐育市の新圖書館は、工費一千萬弗を費して、第五街の繁華の町に面して建てられ、小公園の一端を占據して居りながら、何處から見らても、其建物の全輪奐の美を一度に見ることが出來ない。歐大陸殊に獨乙に於ては、主要なる鐵道ステーションは、其都市の大玄關として廣闊なる廣場の正面に建てらるゝを常とするのに、倫敦や、紐育や、市俄古、又は、聖路易市や、其他の英米大都市の鐵道終點驛なるものは、各種の建物の集團に遮られ一眸の下に全規模を捕收する譯には行かない。例へば、紐育の最美なるペンシルバニヤ鐵道終點驛の如き、市の二區劃を占領し、八エーカー三分の一大面積に聳立するものなれども斯の見地から餘り賞讚する價値を有たない。唯、同市のグランド、セントラル終點驛は、幸にして、幅員百四十呎の公園廣小路(アベニュー)の南北貫通の中央に位地し、此通よりは遠く眺め得る利益を享けて居る。併し此の終點驛も、斯くの如き商業地域の中心にありな

が、蒸汽機關車を使用して居ては、其附近に少からぬ迷惑を掛ける爲めに、一九〇三年に之を電力化することに決定し、爾後、色々の改良策を採り、現に從來の線路構内を跨り大建築を起して、種々の實用に供せんと企てゝ居る。其工費は大なれども、其收入は之を償ふに十分ならんと思はる。而して、會社に於ては、此の建築の軒高を周圍の建築及び現在の停車物と相一致せしめ、此附近一帶をして稀有の壯觀を呈せしめん計畫である。華盛頓市のユニオン鐵道驛は、可成り立派な建物であると同時に、稀有の大廣場に面し、一方國會議事堂と相對し、最も好く其地位を得て居る。之に反し、セントルイの大停車物や、市俄古のそれが最新式のものでありながら、周圍との調和は全く取れて居らぬ。又、倫敦の各終點驛は、それぞれ相當の立關は有れども、廣場と名の付くものを前面に有しては居らぬ。リバプールの停車場は、各國に其比を見ざる程多數の旅客を取扱ふと言はれて居りながら、其廣場や立關は殊に不便を感ぜしめる。エヂンバラにては、之に反し、ノースブリチッシュとカレドニヤンの兩停車場とも公園の一端に面し、適當の位地に配置されて居る。一般に、英吉利の停車場及歐大陸の二三の停車場は各自附屬經營のホテルを有し、其建物は停車場を掩護して居る如く見ゆるが、鐵道として已むを得ざる車輛庫や、機關車の噴き出す煙や、其雜擾は、到底之を遮ぎることは出來ない。

公館は從來其高さに一定の程度を有し、古來の建築との調和を破らざるを常とした。しかし、近來新築されたる紐育市廳舍は、二十五階の高層建築にして、其上に更に十五階の塔家の聳立するを見る。マッキム、ミード及ホワイト組合建築士の設計にして、不規則なる二箇敷地と、其間を貫通するチャンバー街を跨がり、市公會堂公園に面して建てられた。此の建物には百二十五萬平方呎の延面坪を有し、七十二萬五千平方呎の事務用及通路用の延面坪を利用し得るのである。建築の平面奇形なる爲め一の中庭もなく、各室ともに正面より光線を十分に採ることが出來る。又、其下は、地下鐵道の停車場なるが故に、暖房裝置は、一角の空地の地下に之を備へさるを得さる程窮して居るのみならず、一階より四階までは、近代建築に必要なる各種の設備（それは一般には地下室に備ふるのであるが此の建築には地下室の利用出來さる爲め之等の配管水壓機、電氣裝置等）の爲めに凡て利用されて居るのである。

紐育市が先例を破つて居る第二の例は、現今建設中の裁判所であるが。イ、ローエル氏の設計に擬れるものにして、高さ二百〇四呎六階建の圓形の平面を有す。其直徑は三百八十六呎にして、類例少き建物である。初め、其圓心を大街路の軸と一致せしめ、回線式急行地下鐵道の上に建設する豫定なりしが、基礎工事困難なるを發見し、多少其位地の變更を要し、市公會堂公園に接して市廳舍の近くに之を建つることに定めた。

公館を最も適當に一ケ處に配置して市の重心を造ることの趣味は、近來深く亞米利加市民を刺撃し、大都會は勿論、名も知られぬ小村落に至るまで斯の問題を云々せさるはない程であるしかし、之等は容易に實行出來るものでないが、獨りクリーブランドに於ては、斯の計畫は着々實行されつゝある。同市の幸

福な事は、同市の主要鐵道驛が湖水に面して建てられ、五百呎の幅にして千九百呎の長さの一劃の北端に位し、其れに相連りて市公會堂、裁判所の公館を配置し、南端に於て停車場に面し郵便局及圖書館を建設し得る天然地形の利益なる事情である。

桑港市は、震災後頻りに其建設を急ぎ、今は殆んど其大部を回復し、公館集中の計畫も已に實施された、其の堂々たる新廳舍は矢張り舊敷地に建設され、三角形の敷地の一部を利用して前庭を造り、四箇の市公館を以て一の廣場を圍む配置であるが新市廳舍は之等の四公館を掩覆して居る。

一体、都市計畫者又は建築士は、公館配置に對して、其孤立なると又は衆合式なるとを問はず、必ず箇々別々に相當の旗幟を明かになすことが必要である。或人は、公館が互に孤立して見ゆることは絶對に避くべきもので、其の重要なる關係のものは、最も宏壯の輪奐を形成し、次位のものは、其隷屬然たる配置を採るべきものなりと謂ふ。しかし、彼等は、唯、美術的觀察の立場より之を論すれども、都市計畫者の位地より見れば、餘り深く偏倚する譯には行かない。何となれば、唯美觀上の成績のみを以て舊建築を取毀つとか、新規に街路を附け代へるが如きことは餘り大袈裟過ぎるからである。なるほど、主要なる公館の附近にある小建築は、釣合上よろしからぬとて、之が取毀を命ずることは出來る。又、其ものが、却て公館の美を強めると見れば之を殘すことも必要である。既に、アントワープ大寺院の周圍に密集せる商店は、却て寺院の偉大さを強からしむるとも言ひ、或るものは、其價値を損するものなりと唱ふ又、聖ポーパン寺や、聖ニコラス寺や、ベルフレー古寺が、何等關係なく孤立し居るを以て其の價値に就て批難するものがあるは、或は其當を得て居るかも知れぬ。しかし、今日新たに都市の經營をなすには、決して斯くの如き配置は採らざること明かである。吾人が最も愉快に感するニュウイングランドの緑園村に於て、寺院、公廳等が交互に相離れて對立する處には、何等建物間の關係は考慮されて居らぬにも拘はらず、其印象に於て決して不結果のものでない。（續く）

▽編輯だより△

■嚴寒凛烈之候、初號以來隔月刊行の止むなかりし本誌も、本會事業の堅實なる發展に伴ひ、愈々毎月刊行の機運に到達せし事、欣快の至りに候

■將來は更らに一歩を進めて、重大なる任務の遂行に努力し、緊褌一番、内容の整備と、協力精進とを期し、益々着實なる健闘を持續仕るべく候

■本會地方會員として入會御希望の諸氏は御申越次第、本會事務所に作成有之候申込書御送附申上ぐべく候間、本會々則御一讀の上御申越被下度候

■本誌御購讀御希望の諸氏は、本會事務所宛御申越被成下候はゞ、申込書御送附申上ぐべく候、尚本月より振替貯金口座（大阪三九、九七五番）へ加入仕り候間此段申添候

（編輯員一同）

役員及職員（イロハ順）

理事長　片岡安（主計）

理事　池田寛（編輯）
葛野莊一郎（編輯）
武田五一（編輯）
宗兵藏（編輯）
波江悌夫（主記）

編輯補　設樂貞雄
波江悌夫
佐藤四郎
本野精吾

書記　山本辰郎

會員百十五名、理事長一名、理事六名、編輯補三名、書記一名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

（每月壹回十五日發行）

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正七年二月十五日印刷
大正七年二月二十日發行

發行兼編輯人　大阪府東成郡古市村大字森小路六百五十二番地　山本辰次郎

印刷兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地　山本辰次郎

印刷所　大阪活版所　大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　關西建築協會　電話本局二二四一番　振替大阪三九、九七五

廣告目次

須賀商會　前一
內外土木建築材料合資會社　二
建築事務所案內　後四
建築請負業者案內　六
大阪暖房商會
大阪電氣商會　一〇
高田商會　一一
米國貿易會社　一二
コルク工業合資會社　一三
伊藤喜商店　一四
みよし組大阪支店　一五
原安商會　一六
櫻セメント株式會社　一七
村井工業所　一七
秋山小林商店　一八
大阪窯業株式會社　一九
明正社　二〇
川崎工場　二一
川島織物所　二二
大野式特許品營業所　二三
中央セメント株式會社　二四
和泉煉瓦株式會社　二四
巢鴨製作所　二五
榮進社　二六
兒童博覽會　裏表紙裏
松尾和助本店　同表